

「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」の見直し検討のための

市民アンケート調査報告書

平成30年3月

大阪狭山市

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査目的	1
アンケート調査票	2
リーフレット	11
II. アンケート集計結果	16
1 属 性	16
2 「市民自治」に対する意識	19
3 「まちづくり円卓会議」に対する意識	23
4 単純集計の結果	34
III. クロス集計結果	36
1 性別クロス集計結果	36
2 年代別クロス集計結果	46
3 校区別クロス集計結果	60
4 居住年数別クロス集計結果	70
5 クロス集計結果のまとめ	84
IV. アンケート調査結果のまとめ	91

I. 調査の概要

1 調査目的

大阪狭山市まちづくり円卓会議条例は、大阪狭山市自治基本条例の趣旨に基づき、市民がまちづくりの重要な課題について話し合うために対話及び交流の場を設けるまちづくり円卓会議の運営を支援するための基本的な事項を定めることを目的に制定されている。しかし、時代や環境の変化によって、現在の条文では目的を達成できていない、または定めている内容と実態に乖離が生じている可能性が考えられる。本条例第16条では5年を超えない期間ごとに市民の意見を聴きながら、必要があれば条例を改正するなど必要な措置を行うことを定めている。

本調査は現行の大阪狭山市まちづくり円卓会議条例が、時代や環境の変化により条例改正が必要か否か推考するための基礎資料を得ることを目的に実施した。

(1) 調査方法

アンケート調査は郵送により配布・回収した。

調査期間：平成29年11月1日から平成29年11月30日

(2) 調査対象者

大阪狭山市在住の16歳以上の市民（住民基本台帳から無作為抽出、1,000人）

(3) 回収率

調査対象者1,000人に対して回答は396人あり、回収率は39.6%という結果だった。

【回収率等】

配布数	1,000件
回収数（回収率）	396件（39.6%）平成29年12月8日迄

(4) 調査項目設定の考え方

本調査は、大阪狭山市まちづくり円卓会議条例第1条に規定する「市民が主体的にまちづくりに参画し、大阪狭山市における地域内分権の推進を図る」という目的に鑑みて、アンケート調査項目を設定した。

アンケート調査の主な設問は以下の通り。

- 属性（性別、年齢、中学校区、居住年数）
- 大阪狭山市自治基本条例の認知度
- 市民参画の機会に対する意識
- まちづくり円卓会議の認知度
- 望ましいまちづくり円卓会議のあり方
- 条例の見直すべき点

**「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」の見直し検討のための
アンケート調査 ご協力をお願い**

市民の皆様へ

「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」は、大阪狭山市自治基本条例（平成 21 年大阪狭山市条例第 9 号）の趣旨に基づいて、市民がまちづくりの重要な課題について話し合うために対話及び交流の場として設ける「まちづくり円卓会議」の運営を支援するための基本的な事項を定めたものです。市民が主体的にまちづくりに参画し、大阪狭山市における地域内分権の推進を図ることを目的としています。

本条例は、時代や環境の変化によって、現在の条文では目的を達成できない、または定めている内容と実態に隔たりが生じる可能性があるため、5 年を超えない期間ごとに市民の皆様のご意見を聞きながら必要があれば条例を改正することが定められています。

本アンケートは条例改正の必要性を検討するための基礎資料とするため実施するものです。

つきましては、この趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成 29 年 11 月

大阪狭山市長 古川照人

〈ご記入にあたってのお願い〉

- ◎大阪狭山市まちづくり円卓会議条例及び大阪狭山市自治基本条例の紹介リーフレットを同封しています。リーフレット 2～3 ページに大阪狭山市まちづくり円卓会議条例の全文を掲載しておりますので、必要に応じてご参照下さい。
 - ◎ご記入が済みましたら、同封の返信用封筒（切手不要）をご利用のうえ、11 月 30 日（木）までに投かんして下さい。
 - ◎調査票は、大阪狭山市及び委託業者（株式会社 総合環境計画）のみが、厳重な情報管理体制の下で、漏えい・紛失等のないよう適切に取り扱います。また、ご回答いただいた内容を調査目的以外に使用することは一切ありません。
- ご不明な点やご質問がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

〈問い合わせ先〉

〒589 - 8501

大阪府大阪狭山市狭山一丁目 2384 番地の 1

市民生活部 市民協働推進グループ

電話 072 - 366 - 0011（代表） ファクス 072 - 366 - 0051

E-mail shimin-kyodo@city.osakasayama.osaka.jp

「市民自治」についてお尋ねします。

平成 12 年 4 月の地方分権一括法の施行により、地方分権の動きが全国的となっています。「地域のことは地域で考え、地域が決める」という自己決定・自己責任に基づく地域経営を進めていくことが求められています。これまで以上に公共サービスの選択と決定について市民で議論していく必要があります。

大阪狭山市は交通の利便性や、教育、医療、福祉、環境など生活していく上で、便利さや快適さを実感している市民の皆様も多くいらっしゃると思います。しかし、本当に住みよいまちとは何か、足りないものはないかを考えた時に、行政まかせ、他人まかせではなく、自分たち「市民」の力で、自分たちが住んでいる「まち」をより良くしていくことを考えていかなければなりません。

「市民自治」とは、自分たちが住んでいる「まち」の身近な問題について、個々が自分のこととして考えて行動していくために、行政を含めて、市民同士が気軽に情報交換できる「対話と交流の場」を設け、お互いの意見を出し合い、相手を尊重しながら議論を深めつつ、その上で「まちづくり」を進めていくものです。

大阪狭山市では全国に先駆けて、このような「まちづくり」の取り組みを平成 20 年から行っています。

問 7 大阪狭山市で「市民自治」に取り組んでいることをご存じですか？（あてはまる番号に 1 つ〇をして下さい。）

- ①知っている
- ②少し知っている
- ③あまり知らない
- ④知らない

問 8 大阪狭山市の「市民自治」の基本理念は、まちづくりの主体は市民である、市民自治の確立と市民福祉の向上を図る、市民自治の担い手であることを自覚して自分達で考えて実行していくとしています。この基本理念についてどう思われますか？（あてはまる番号に 1 つ〇をして下さい。）

- ①共感できる
- ②少し共感できる
- ③あまり共感できない
- ④興味がない

問9 自治会活動に参加されていますか？（あてはまる番号に1つ○をして下さい。）

- ①参加している
- ②参加していないが、参加したい。
- ③参加しておらず、今後も参加するつもりはない
- ④興味が無い

問10 市民活動団体、NPO等などの地域の組織の活動に参加されていますか？（あてはまる番号に1つ○をして下さい。）

- ①参加している
(それはどのような活動ですか？)
- ②参加していないが、参加したい。
(それはどのような活動ですか？)
- ③参加しておらず、今後も参加するつもりはない
- ④興味が無い

問11 大阪狭山市では、個々の市民、市民活動団体、NPO等が、防災・防犯をはじめ、福祉、環境、子育てなどさまざまな分野で活発に活動を展開し、公共サービスの担い手として、まちづくりへの自主的な取り組みが進んでいます。このような、市民が自主的にまちづくりに取り組む動きについてどう思われますか？（あてはまる番号に1つ○をして下さい。）

- ①知っている、私も参加している
(それはどのような取り組みですか？)
- ②知っている、私も参加してみたい
(それはどのような取り組みですか？)
- ③知らないが、私も参加してみたい
(それはどのような取り組みですか？)
- ④知っているが、興味がない
- ⑤知らないし、興味もない

問12 大阪狭山市では、行政と市民の「協働」と、市民の積極的な「参画」によるまちづくりを進めるために、さまざまな仕組みや制度を展開しています。こうした仕組みや制度の根本となる基本原則として、大阪狭山市自治基本条例が定められています。このような条例があることをご存じですか？（あてはまる番号に1つ○をして下さい。）

- ①知っている
- ②少し知っている
- ③あまり知らない
- ④知らない

「まちづくり円卓会議」についてお尋ねします。

問 13 市では、市民のみなさんが、身近なところからまちづくりに主体的にかかわる市民自治のまちづくりについては平成 20 年から実施しており、この市民自治への契機づくりの場として、地域内にお住まいの方々、自治会や住宅会、NPO、市民活動団体、事業者などが中学校区を単位として、自主的に一堂に会してまちづくりについて話し合う場である「まちづくり円卓会議」条例を平成 25 年度に制定し、それぞれの地域の方々に、地域のニーズに即した事業について市に提案を行う、又は独自で実施して頂いています。この「まちづくり円卓会議」というものがあることをご存じですか？（あてはまる番号に 1 つ〇をして下さい。）

- ①知っている
- ②少し知っている
- ③あまり知らない
- ④知らない

問 14 （問 13 で、①または②を選んだ方のみお答えください。）「まちづくり円卓会議」に参加されたことはありますか？（あてはまる番号に 1 つ〇をして下さい。）

- ①参加したことがある
- ②参加したことはないが、参加してみたい
- ③参加したくない
- ④興味がない

問 15 「まちづくり円卓会議」は「自分たちのまちは自分たちでつくる」という理念のもとに、自分たちのまちに何が必要で、何に取り組まなければならないかをみんなで話し合い、合意により「まちづくり」を進めて行く制度です。みなさんで地域の問題を話し合い、地域に必要と考えられる事業について市に提案を行う、又は独自で事業を実施する仕組みとなっています。このような制度をどう思われますか？（あてはまる番号に 1 つ〇をして下さい。）

- ①良い制度と思い、参加してみたい
- ②良い制度と思うが、参加はしたくない
- ③参加したくない
- ④興味がない

問 16 「まちづくり円卓会議」に参加されたことがある方のみお答えください。「まちづくり円卓会議」に参加されて、どのようなことを感じましたか？（あてはまる番号すべてに○をして下さい。また、ご意見はその他にご記入ください。）

- ①自分が住む地域の「まちづくり」について、自分の意見が言え、関われるところが良い
- ②自分が住む地域に必要な事業を、自分で提案できるところが良い
- ③地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い
- ④地域の人達や様々な団体と交流し、新しい知見が得られたところが良い
- ⑤行政が地域住民と適度な距離を保ち、地域住民の自律性を促しているところが良い
- ⑥「まちづくり円卓会議」で取り決めたことで、地域が活性しているところが良い
- ⑦特に感じない
- ⑧その他（)

問 17 市では、「まちづくり円卓会議」が、より自律的に活動できるように平成 25 年 4 月 1 日から市民自治のまちづくり「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」を施行しています。このような条例があることをご存じですか？（あてはまる番号に 1 つ○をして下さい。）

- ①知っている
- ②少し知っている
- ③あまり知らない
- ④知らない

問 18 「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」では、市民の皆さんの役割は、「まちづくりを進めるに当たって、まちづくり円卓会議及び市が対等の立場で互いの役割を理解し、協働して行う。」と言う基本理念に基づいて、まちづくりへの関心を高めるとともに、積極的にこれに参画（参加に比べて主体的に関与する意味合いが強い意味の言葉）するものとしています。この役割をどう思われますか？（あてはまる番号に 1 つ○をして下さい。）

- ①基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある。
- ②自分たちのまちづくりを進めて行くために、参画していく必要がある。
- ③自分たちのまちづくりを進めていくことは大切だが、役割を明確にしない方がよい。
- ④わからない。

問 19 「まちづくり円卓会議」は、市民自治の推進、市民活動団体間の交流の促進、市民間の交流の促進などの目的があります。現状の運用で、この目的が満足されていると思われませんか？（あてはまる番号に 1 つ○をして下さい。）

- ①満足している
- ②概ね満足している
- ③あまり満足されていない
- ④満足されていない

問 20 「まちづくり円卓会議」の実施単位として中学校区を採用しています。この中学校区は、地域人口の適切な分配、自治会の分断の解消、防犯・防災活動の有効性の確保、市民自治の人材確保とアイデアの拾集などから採用されています。今後も中学校区を単位とする運用が良いと思われますか？（あてはまる番号に1つ○をして下さい。）

- ①現状の中学校区で良い
- ②実施単位を見直した方が良い
(例えば：)
- ③わからない

問 21 「まちづくり円卓会議」は、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という趣旨で行われています。地域が主体として取り組み、行政は円卓会議の自主性・自立性を尊重し、その活動についての情報提供、助言、財政的な支援を行うことで、円卓会議が自立的な新しい活動が生まれ育つ環境整備を支え、相互理解を図ることを原則としています。このような、地域と行政の関係性についてどのように思われますか？（あてはまる番号に1つ○をして下さい。）

- ①現状の関係性で良い
- ②現状の関係性を見直した方が良い
(例えば：)
- ③わからない

問 22 「まちづくり円卓会議」は、みなさんで地域の問題を話し合い、地域に必要と考えられる事業について市に提案を行う、又は独自で事業を実施する仕組みとなっています。提案の対象となる事業区分は、地域コミュニティの育成に関する事業、地域福祉の増進に関する事業、環境に関する事業、防犯・防災等に関する事業、その他の校区のまちづくりにつながる事業の5つの種類の事業に限定していますが、この事業区分についてどのように思われますか？（あてはまる番号に1つ○をして下さい。）

- ①現状の事業区分で良い
- ②提案できる事業区分を見直した方が良い
(例えば：)
- ③わからない

問 23 「まちづくり円卓会議」で提案できる事業の予算措置限度額は、上限が 500 万円（事業実施要領に基づく）となっています。この上限額についてどのように思われますか？（あてはまる番号に 1 つ〇をして下さい。）

①市の財政を考えると適切である

②上限額を引き上げた方が良い

（例えば：)

（理由：)

③上限額を引き下げた方が良い

（例えば：)

（理由：)

④わからない

問 24 「まちづくり円卓会議」の運営費は、上限が 30 万円（運営費補助金交付要綱に基づく）となっています。この上限額についてどのように思われますか？（あてはまる番号に 1 つ〇をして下さい。）

①適切で良い

②上限額を引き上げた方が良い

（例えば：)

（理由：)

③上限額を引き下げたほうが良い

（例えば：)

（理由：)

④わからない

問 25 「まちづくり円卓会議」を今後も続けて行く上で、どのような課題があると思われますか？（あてはまる番号すべてに〇をして下さい。ご意見はその他に記載してください。）

①地域行政の人材の育成

②次の世代の担い手の確保

③新しく転居されてきた方々との協働

④その他 ()

問 26 「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」の条文について、見直しすべき点がありますか？
(あてはまる番号どちらかに○をして下さい。)

① ある

⇒ 見直しすべき点がある場合は、該当するすべての条文と見直しすべき内容をご記入ください。

条文 () 条

-見直しすべき点-

② ない

「まちづくり円卓会議」及び「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」に関するご意見等がありましたらご記入ください。

◆◆ 以上、ご協力ありがとうございました。◆◆



見直しを検討する まちづくり円卓会議条例について

平成25年
条例第3号

まちづくり円卓会議とは

市では、多くの市民に身近なところからまちづくりに主体的にかかわる、市民自治への契機づくりの場として地域内の自治会、住宅会、NPO、市民活動団体、事業所などが、中学校区単位で自主的に一堂に会して、まちづくりについて話し合い、実行していくという意味を込めて「**円卓会議**」と呼んでいます。

対等な立場で、互いの役割を理解し、協働して行う。



円卓会議の目的

「**地域のことは地域で考える**」ことを実践するため、様々な取り組みが進められています。

01 市民自治の推進

わがまちに関心をもってもらうこと、身近なところからまちづくりに主体的に関わるきっかけづくりを目的としています。

02 市民活動団体間の交流促進

これまでは連携した活動があまりなされなかった地縁型団体とテーマ型団体の融合により、団体の相互理解、新たな取組、新たな人材発掘を目的としています。

03 市民間の交流促進

人と人との出会いの場として、地域内コミュニティをよりよいものにするを目的としています。

事業内容

- 地域コミュニティの育成に関する事業
- 地域福祉の増進に関する事業
- 環境に関する事業
- 防犯・防災等に関する事業
- その他、校区のまちづくりにつながる事業

「**まちづくり円卓会議**」は、住民のみなさんで地域の問題を話し合い、地域に必要と考えられる事業について、市に提案を行う、又は独自でその事業を実施するしくみとなっています。

大阪狭山市
まちづくり円卓会議条例の
詳しい情報は、
市ホームページで
ご覧いただけます。



<http://www.city.osakasayama.osaka.jp/>

問い合わせ

大阪狭山市役所
市民生活部 市民協働推進グループ
〒589-8501
大阪狭山市狭山一丁目 2384 番地の 1
TEL 072-366-0011
FAX 072-366-0051
Email shimin-kyodo@city.osakasayama.osaka.jp

大阪狭山市 まちづくり 円卓会議条例

目的

第1条▶この条例は、大阪狭山市自治基本条例(平成21年大阪狭山市条例第9号)の趣旨に基づき、市民がまちづくりの重要な課題について話し合うための対話及び交流の場として設けるまちづくり円卓会議(以下「円卓会議」という。)の運営を支援するための基本的な事項を定め、もって市民が主体的にまちづくりに参画し、大阪狭山市における地域内分権の推進を図ることを目的とする。

定義

第2条▶この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1 **市民** 市内に居住する者、市内で働く者又は学ぶ者及び市内で事業活動その他の活動を行う者又は団体をいう。
- 2 **円卓会議** 中学校区(以下「校区」という。)内の市民で構成され、自律的な運営が継続して行われる1校区を単位としたひとつ限りの組織をいう。
- 3 **地域内分権** 校区内における共通の課題を迅速かつ効果的に解決するため、それぞれの円卓会議が自分たちの校区は自分たちでつくるという意識をもって活動し、その活動を市が支援する協働のまちづくりを行うことをいう。

基本理念

第3条▶校区のまちづくりを進めるに当たっては、円卓会議及び市が対等の立場で互いの役割を理解し、協働して行うものとする。

市の役割

第4条▶市は、基本理念に基づき、円卓会議の自主性及び自立性を尊重するとともに、その運営を支援するための必要な施策を講じるものとする。

市民の役割

第5条▶市民は、基本理念に基づき、校区のまちづくりへの関心を高めるとともに、積極的にこれに参画するものとする。

円卓会議の役割

第6条▶円卓会議は、校区内のすべての市民に開かれたものとし、校区におけるまちづくりに関する議論と合意に基づく市への事業提案等を行い、継続して校区のまちづくりの推進を図るものとする。

円卓会議の要件

第7条▶円卓会議は、次の各号に掲げる要件のいずれにも該当する組織とする。

- 1 名称、事務所の所在地、代表者の選出方法、総会の方法、監査その他円卓会議を民主的に運営するために必要な事項が、規約等に定められていること。
- 2 円卓会議の代表者及び役員が、その構成員の意思に基づいて選出されていること。
- 2▶円卓会議を設立し、その代表者を選出したときは、規則で定めるところにより、市長に届け出るものとする。その届け出た事項を変更したときも同様とする。

地域ビジョン

第8条▶円卓会議は、校区のまちづくりを継続的かつ計画的に実施するため、校区の将来像及びそれを達成するための事業計画(以下「地域ビジョン」という。)の策定に努めるものとする。

2▶市は、円卓会議が策定する地域ビジョンを尊重するとともに、各種計画及び施策に反映させるよう努めるものとする。

円卓会議の事業

第9条▶円卓会議は、前条の地域ビジョン等に基づき、次の各号に掲げる事業の中から必要な事業を行うものとする。

- 1 地域コミュニティの育成に関する事業
- 2 地域福祉の増進に関する事業
- 3 環境に関する事業
- 4 防犯、防災等に関する事業
- 5 前各号に掲げるもののほか、校区のまちづくりにつながる事業

円卓会議への支援

第10条▶市は、前条の事業が円滑に進むよう必要な情報の提供、助言、財政的な支援その他の環境の整備に努めるものとする。

2▶市は、前項の規定に基づき、財政的な支援を行うに当たっては、その内容及び手続について規則等で定めるものとする。

相互交流

第11条▶市は、円卓会議が校区のまちづくりについての成果を発表し、相互に交流できる機会を設けるよう努めるものとする。

活動の制限

第12条▶円卓会議は、大阪狭山市市民公益活動促進条例（平成14年大阪狭山市条例第13号）第2条第1項各号に規定する活動をしてはならない。

円卓会議の法人化

第13条▶円卓会議は、自らが権利及び義務の主体となり、公益性の明確化等基盤の強化を図るため、法人格の取得に努めるものとする。

情報の公開と個人情報の保護

第14条▶円卓会議は、その事業に関する透明性を確保し説明責任が果たせるよう、その保有する情報を積極的に公開するとともに、個人情報の保護に努めるものとする。

事業の評価

第15条▶円卓会議は、その事業に対して自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

条例の見直し

第16条▶市長は、この条例の施行の日から5年を超えない期間ごとに、この条例の各条項について検討を加え、必要に応じ見直すものとする。

2▶市長は、前項の検討及び必要な見直しを行うに当たっては、市民の意見を聴かなければならない。

委任

第17条▶この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

付則▶この条例は、平成25年4月1日から施行する。

参考 「市民公益活動」とは

定義

第2条▶この条例において「市民公益活動」とは、市民が自発的かつ自立的に行う営利を目的としない活動であって、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とするものをいう。ただし、次に掲げるものを除く。

- ① 宗教の教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成することを主たる目的とする活動
- ② 政治上の主義を推進し、支持し、又はこれに反対することを主たる目的とする活動
- ③ 特定の公職（公職選挙法（昭和25年法律第100号）第3条に規定する公職をいう。以下同じ。）の候補者（当該候補者になろうとする者を含む。）若しくは公職にある者又は政党を推薦し、支持し、又はこれらに反対することを目的とする活動

「大阪狭山市市民公益活動促進条例」より抜粋

各中学校区の取組み状況を
地域コミュニティ誌の
発行を通じて
お知らせしています。



特定非営利活動法人
南中学校区円卓会議
南中
円卓会議ニュース

狭山中学校区
まちづくり円卓会議
狭山中学校区
まちづくり
円卓会議ニュース



第三中学校区
まちづくり円卓会議
三中円卓通信



まちづくり円卓会議条例は、自治基本条例の趣旨に基づいて定めています。

大阪狭山市自治基本条例について

平成21年
条例第9号

自治基本条例が めざすもの

自分たちにできることは、
話し合っ、協力して、
自分たちで解決しながら
まちづくりをめざします。

(市民自治の確立)



大阪狭山市マスコットキャラクター
さやりん

自治基本条例は、誰もが主体的にまちづくりに参画し、
市民自治を確立するための基本原則をさだめています。

市民自治の基本原則とは？

市民参画

市は市民参画制度の整備に努めることで、市民の参画を保障するものとします。

情報の共有

まちづくりを推進する上で必要な市政に関する情報を市民、議会、市で共有するものとします。

市民

個人・事業者

議会

議員

市

市長・
その他の
執行機関

協働

市民、議会、市はお互いを尊重し、共通の目的を達成するために、協力しあうことで、よりよいまちづくりを推進するものとします。

人権の尊重

市民、議会、市は、市民一人ひとりの人権を尊重するものとします。

市民の 権利

① 知る権利

- 市民は、市政に関する情報について知る権利を有します。

② 市政に参画する権利

- 市民は、市政に参画する権利を有します。

市民の 責務

① まちづくりの努力

- 市民は、協力しながらまちづくりを推進するよう努めなければなりません。

② まちづくりへの積極的な取組

- 市民は、自らの発言と行動に責任を持ち、まちづくりに取り組むよう努めなければなりません。

大阪狭山市自治基本条例の
詳しい情報は、
市ホームページで
ご覧いただけます。



<http://www.city.osakasayama.osaka.jp/>

問い合わせ

大阪狭山市役所 政策推進部 企画グループ
〒589-8501

大阪狭山市狭山一丁目 2384 番地の 1

TEL 072-366-0011

FAX 072-367-1254

Email kikaku@city.osakasayama.osaka.jp

(5) 調査結果の概要

◎ **本条例の条文の見直すべき点はないとする回答が約6割**

- ・本条例の条文の見直すべき点を問う質問に対して、回答者の59.6%が見直すべき点は「ない」と回答している。

◎ **本条例の認知度は高くなく、今後は周知させるためのPRが必要**

- ・本条例の認知度では、「知らない」、「あまり知らない」と回答した人が80.3%いて、認知度が低いことが伺える。

(6) 集計結果の見方

- (1) 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあり。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 複数回答を求めた質問では、回答者数の合計は全体（例えば、396人）を超え、合計回答比率の合計も100.0%を超える。なお、複数回答を求める質問については、図表上に「(複数回答)」の表示がある。
- (3) 回答者数（n）が少ない場合は、比率の数字に偏りが生じやすく、厳密な比較をすることは難しいので、おおよその回答の傾向をみることになる。

II. アンケート集計結果

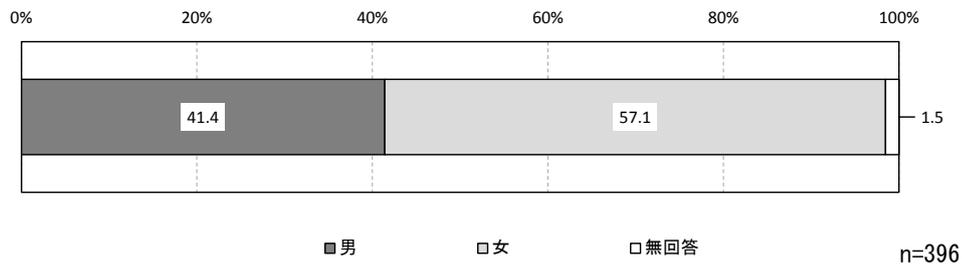
1 属性

(1) 回答者の性別

【単純集計結果】

・「女性」の回答が57.1%であり、「男性」の回答は41.4%であった。

	回答数	構成比
1 男	164	41.4%
2 女	226	57.1%
無回答	6	1.5%
合計	396	100.0%

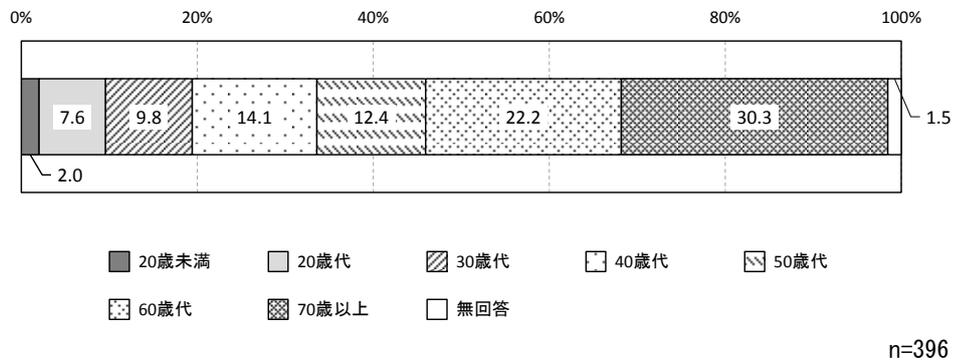


(2) 回答者の年齢

【単純集計結果】

・「70歳代」の回答が30.3%であり、「60歳代」の回答は22.2%であった。

	回答数	構成比
1 20歳未満	8	2.0%
2 20歳代	30	7.6%
3 30歳代	39	9.8%
4 40歳代	56	14.1%
5 50歳代	49	12.4%
6 60歳代	88	22.2%
7 70歳以上	120	30.3%
無回答	6	1.5%
合計	396	100.0%

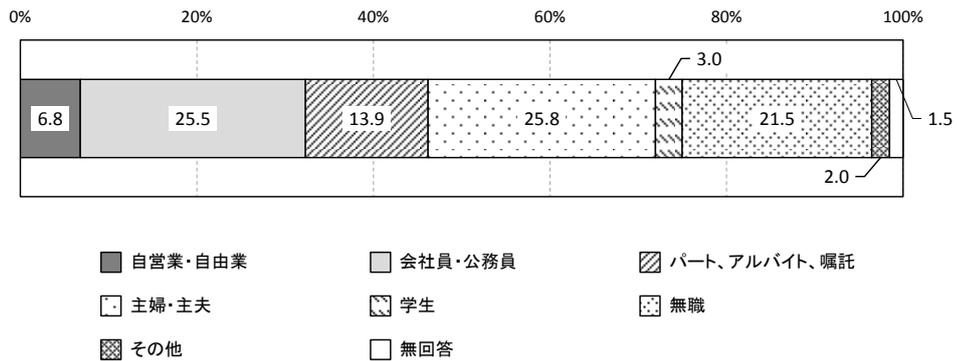


(3) 回答者の職業

【単純集計結果】

・「主婦・主夫」の回答が25.8%であり、「会社員・公務員」の回答は25.5%であった。

	回答数	構成比
1 自営業・自由業	27	6.8%
2 会社員・公務員	101	25.5%
3 パート、アルバイト、嘱託	55	13.9%
4 主婦・主夫	102	25.8%
5 学生	12	3.0%
6 無職	85	21.5%
7 その他	8	2.0%
無回答	6	1.5%
合計	396	100.0%



n=396

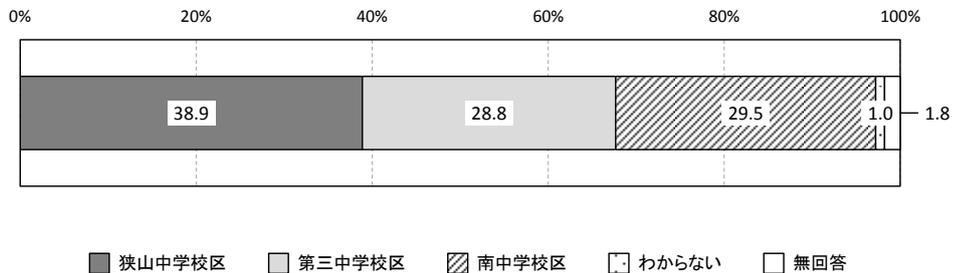
(4) 回答者の中学校区

【単純集計】

・「狭山中学校区」の回答が38.9%、「第三中学校区」の回答が28.8%、「南中学校区」の回答が29.5%であり、「わからない」の回答は1.0%であった。

	回答数	構成比
1 狭山中学校区	154	38.9%
2 第三中学校区	114	28.8%
3 南中学校区	117	29.5%
4 わからない	4	1.0%
無回答	7	1.8%
合計	396	100.0%

注) なお、「わからない」の回答で住所記入があったものは住所から校区分けしている。



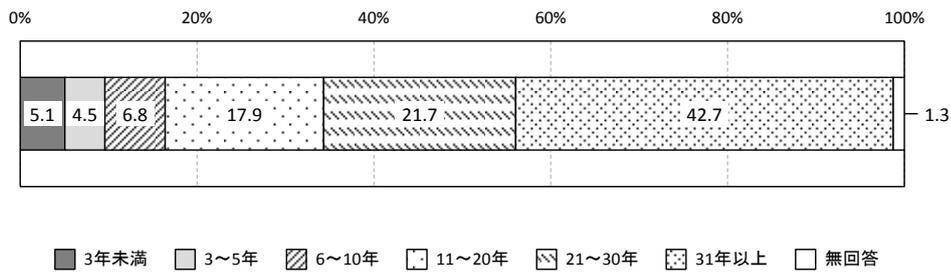
n=396

(5) 回答者の居住年数

【単純集計結果】

・「31年以上」の回答が42.7%であり、「21～30年」の回答は21.7%であった。

	回答数	構成比
1 3年未満	20	5.1%
2 3～5年	18	4.5%
3 6～10年	27	6.8%
4 11～20年	71	17.9%
5 21～30年	86	21.7%
6 31年以上	169	42.7%
無回答	5	1.3%
合計	396	100.0%



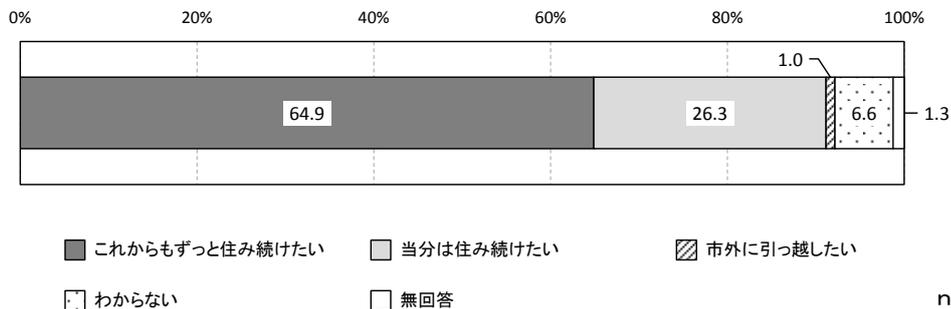
n=396

(6) 回答者がこれからも大阪狭山市に住み続けたいかの意識調査

【単純集計結果】

・「これからもずっと住み続けたい」の回答が64.9%であり、「当分は住み続けたい」の回答は26.3%であった。回答者の91.2%が「住み続けたい」の回答だった。

	回答数	構成比
1 これからもずっと住み続けたい	257	64.9%
2 当分は住み続けたい	104	26.3%
3 市外に引っ越したい	4	1.0%
4 わからない	26	6.6%
無回答	5	1.3%
合計	396	100.0%



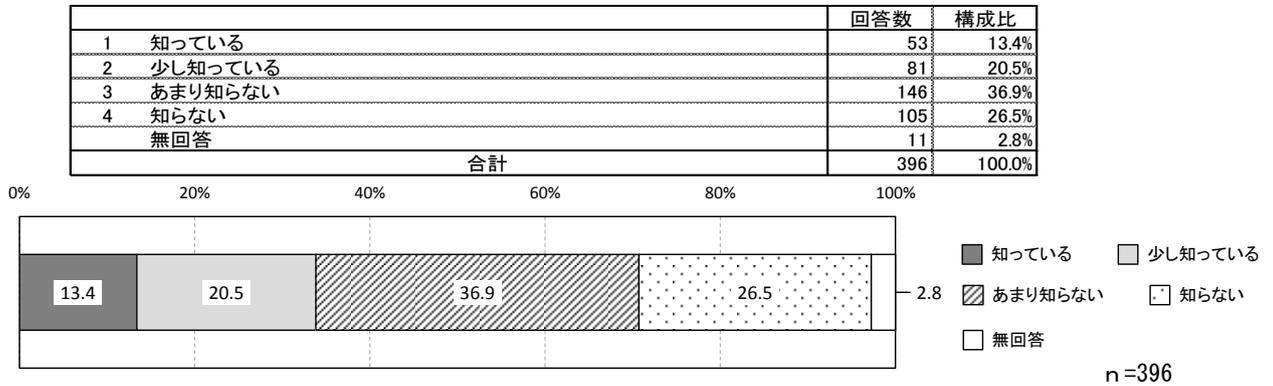
n=396

2 「市民自治」に対する意識

(7) 「市民自治」の取り組みについての周知状況

【単純集計結果】

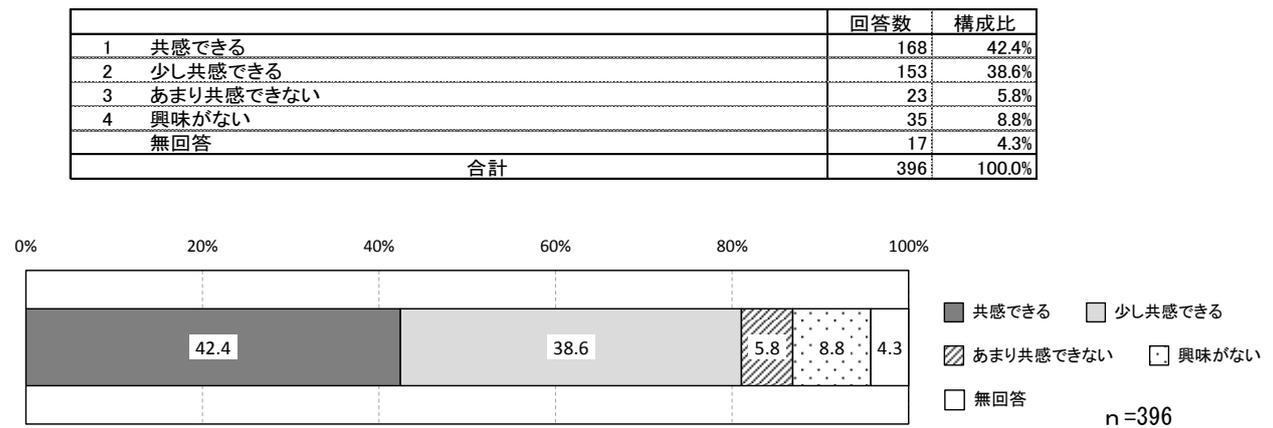
・「知っている」の回答が 13.4%であり、「少し知っている」の回答は 20.5%であった。合わせて回答者の 33.9%が「市民自治」の取り組みについて知っていた。



(8) 基本理念について

【単純集計結果】

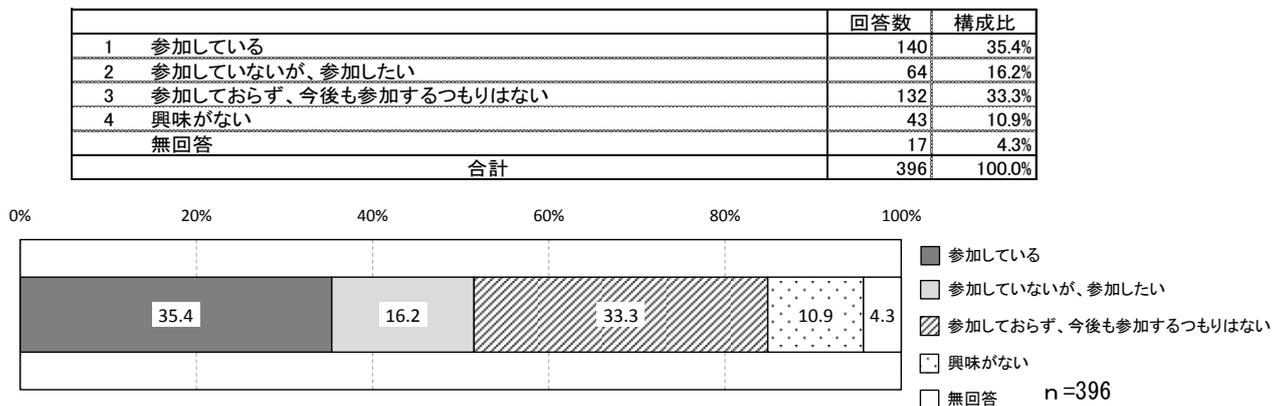
・「共感できる」の回答が 42.4%であり、「少し共感できる」の回答は 38.6%であった。合わせて回答者の 81.0%が基本理念について共感できると回答があった。



(9) 自治会活動の参加について

【単純集計結果】

・「参加している」の回答が 35.4%であり、「参加していないが、参加したい」の回答が 16.2%であった。回答者の 51.6%が自治会活動に参加したい意向であった。



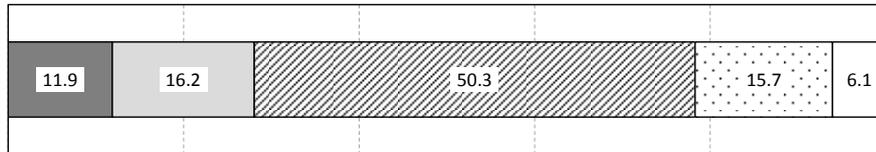
(10) 地域の組織の活動参加状況について

【単純集計結果】

・「参加している」の回答が 11.9%であり、「参加していないが、参加したい」の回答が 16.2%であった。回答者の 28.1%が地域の組織の活動に参加したい意向であった。

	回答数	構成比
1 参加している	47	11.9%
2 参加していないが、参加したい	64	16.2%
3 参加しておらず、今後も参加するつもりはない	199	50.3%
4 興味がない	62	15.7%
無回答	24	6.1%
合計	396	100.0%

0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 参加している
- 参加していないが、参加したい
- 参加しておらず、今後も参加するつもりはない
- 興味がない
- 無回答

n=396

【自由回答結果】

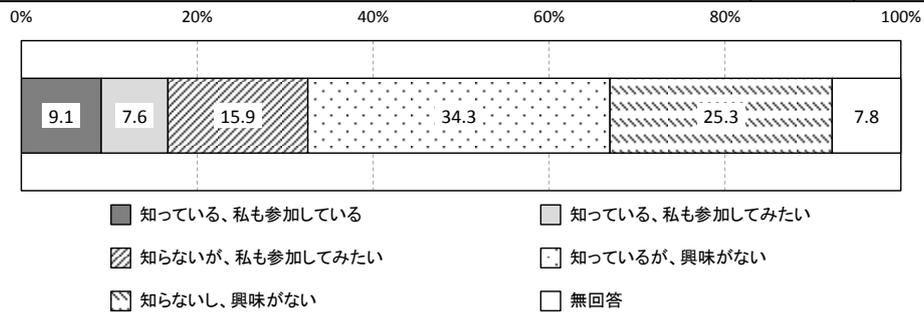
「参加している」の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 円卓会議 ・ 老人会や自治会 ・ 障がい者の清掃活動支援 ・ 視覚障がい者スポーツ活動の NPO ・ 防犯活動や防災活動 ・ 元気クラブ・健康講座 ・ さやりんフェスティバル ・ 北小地域の見守り隊 など
「参加していないが、参加したい」の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃活動 ・ 防犯活動や防災活動 ・ 絵画クラブ ・ 福祉関係 ・ 認知症の方たちの見守り活動 など

(11) まちづくりへの自主的な取り組みについて

【単純集計結果】

・「知っている、私も参加している」の回答が9.1%、「知っている、私も参加してみたい」の回答が7.6%、「知らないが、私も参加してみたい」の回答が15.9%であった。合わせて回答者の32.6%がまちづくりへの自主的な取り組みに参加したい意向であった。

	回答数	構成比
1 知っている、私も参加している	36	9.1%
2 知っている、私も参加してみたい	30	7.6%
3 知らないが、私も参加してみたい	63	15.9%
4 知っているが、興味がない	136	34.3%
5 知らないし、興味がない	100	25.3%
無回答	31	7.8%
合計	396	100.0%



n=396

【自由回答結果】

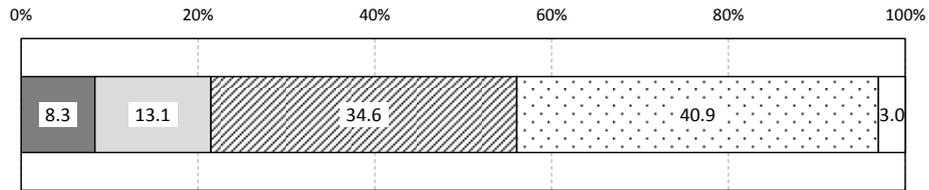
「知っている、私も参加している」の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・円卓会議 ・清掃活動 ・福祉関係のボランティア ・防犯活動や防災活動 ・子どもの見守り活動 ・障がい者支援活動 など
「知っている、私も参加してみたい」の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動 ・防犯活動や防災活動 ・子育て支援 ・高齢者対策 ・福祉活動 など
「知らないが、私も参加してみたい」の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援 ・高齢者を見守る活動 ・福祉活動 ・環境活動 ・防犯活動や防災活動 ・ペットに関すること ・青少年の健全化 など

(12) 大阪狭山市自治基本条例の認知度について

【単純集計結果】

・「知っている」の回答が8.3%、「少し知っている」の回答は13.1%であった。合わせて回答者の21.4%が大
阪狭山市自治基本条例について知っていた。

	回答数	構成比
1 知っている	33	8.3%
2 少し知っている	52	13.1%
3 あまり知らない	137	34.6%
4 知らない	162	40.9%
無回答	12	3.0%
合計	396	100.0%



■ 知っている □ 少し知っている ▨ あまり知らない □ 知らない □ 無回答

n=396

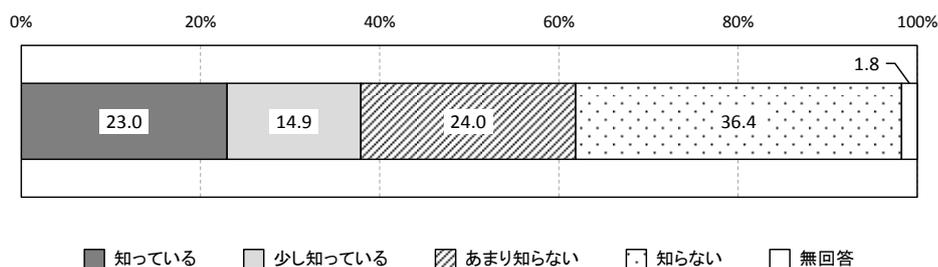
3 「まちづくり円卓会議」に対する意識

(13) まちづくり円卓会議の認知度について

【単純集計結果】

・「知っている」の回答は23.0%であり、「少し知っている」の回答は14.9%であった。合わせて回答者の37.9%がまちづくり円卓会議について知っていた。

	回答数	構成比
1 知っている	91	23.0%
2 少し知っている	59	14.9%
3 あまり知らない	95	24.0%
4 知らない	144	36.4%
無回答	7	1.8%
合計	396	100.0%



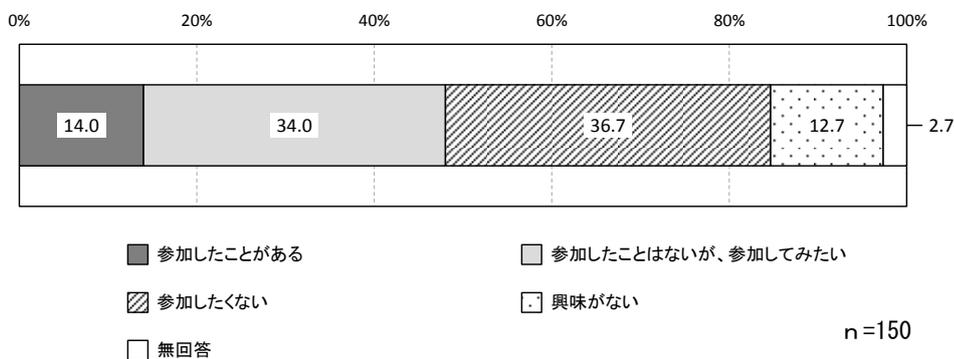
n=396

(14) まちづくり円卓会議への参加について

【単純集計結果】

・(13)で、「知っている」または「少し知っている」と回答した人(150人)で、「参加したことがある」の回答が14.0%であり、「参加したことはないが、参加してみたい」の回答が34.0%であった。合わせて回答者の48.0%が参加意向であった。

	回答数	構成比
1 参加したことがある	21	14.0%
2 参加したことはないが、参加してみたい	51	34.0%
3 参加したくない	55	36.7%
4 興味がない	19	12.7%
無回答	4	2.7%
合計	150	100.0%



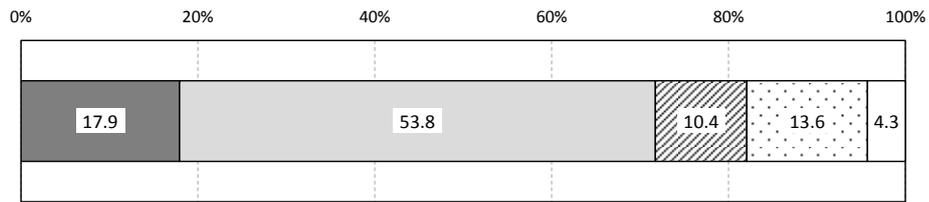
n=150

(15) 制度について

【単純集計結果】

・「良い制度と思い、参加してみたい」の回答は 17.9%、「良い制度と思うが、参加はしたくない」の回答は 53.8%、合わせて回答者の 71.7%が良い制度と思うであった。

	回答数	構成比
1 良い制度と思い、参加してみたい	71	17.9%
2 良い制度と思うが、参加はしたくない	213	53.8%
3 参加したくない	41	10.4%
4 興味がない	54	13.6%
無回答	17	4.3%
合計	396	100.0%



- 良い制度と思い、参加してみたい
- 良い制度と思うが、参加はしたくない
- ▨ 参加したくない
- ▩ 興味がない
- 無回答

n=396

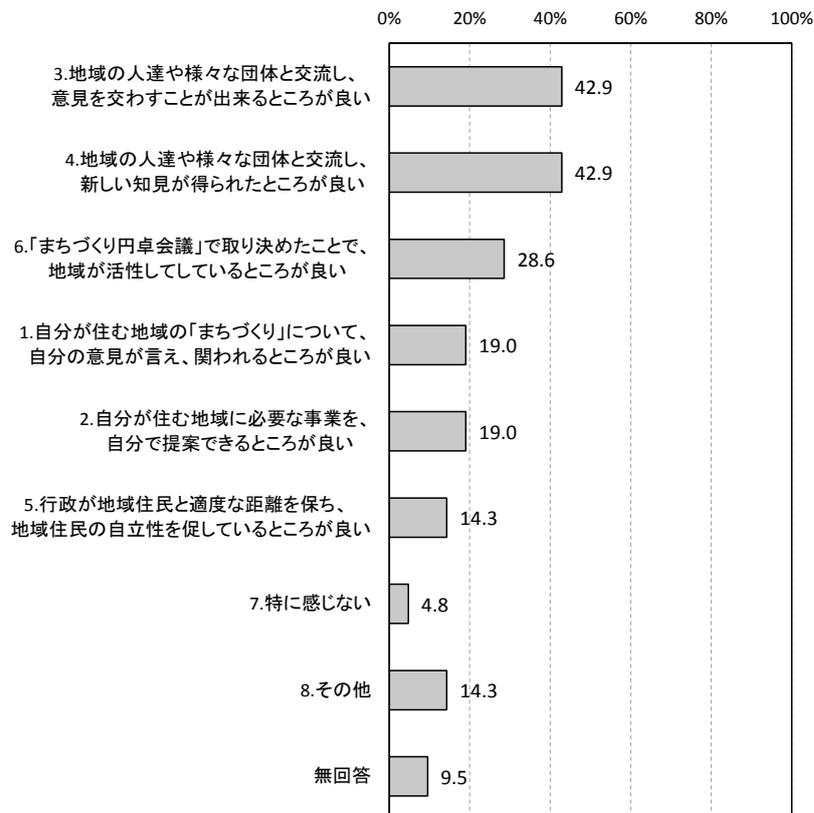
(16) まちづくり円卓会議に参加された感想（複数回答）

【単純集計結果】

・(14)で、「参加したことがある」と回答した人（21人）で、「3. 地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い」、「4. 地域の人達や様々な団体と交流し、新しい知見が得られたところが良い」の回答がそれぞれ42.9%であり、「6. まちづくり円卓会議で取り決めたことで、地域が活性しているところが良い」の回答が28.6%であった。

	回答数	構成比
1 自分が住む地域の「まちづくり」について、自分の意見が言え、関われるところが良い	4	19.0%
2 自分が住む地域に必要な事業を、自分で提案できるところが良い	4	19.0%
3 地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い	9	42.9%
4 地域の人達や様々な団体と交流し、新しい知見が得られたところが良い	9	42.9%
5 行政が地域住民と適度な距離を保ち、地域住民の自立性を促しているところが良い	3	14.3%
6 「まちづくり円卓会議」で取り決めたことで、地域が活性してしているところが良い	6	28.6%
7 特に感じない	1	4.8%
8 その他	3	14.3%
無回答	2	9.5%
合計	41	195.2%

n= 21



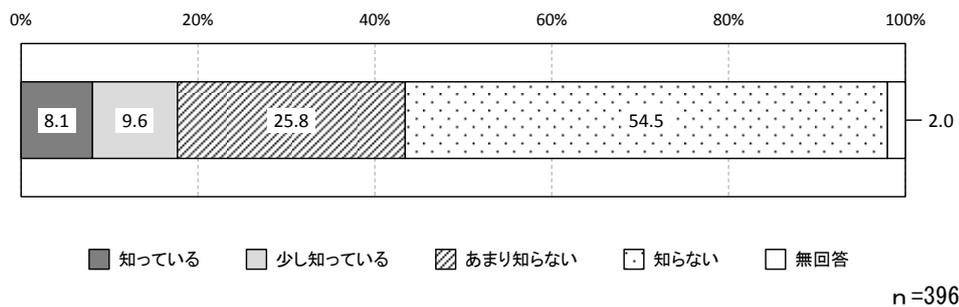
n=21 ※複数回答数計 41

(17) 大阪狭山市まちづくり円卓会議条例の認知度について

【単純集計結果】

・「知っている」の回答は8.1%であり、「少し知っている」の回答は9.6%であった。合わせて回答者の17.7%が大阪狭山市まちづくり円卓会議条例について知っていた。

	回答数	構成比
1 知っている	32	8.1%
2 少し知っている	38	9.6%
3 あまり知らない	102	25.8%
4 知らない	216	54.5%
無回答	8	2.0%
合計	396	100.0%

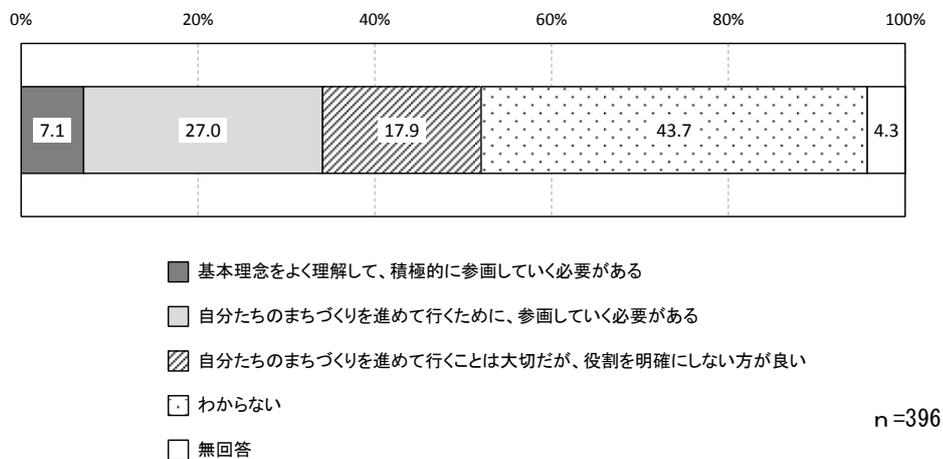


(18) 市民の役割について

【単純集計結果】

・「基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある」、「自分たちのまちづくりを進めていくために、参画していく必要がある」の回答を合わせて34.1%であった。

	回答数	構成比
1 基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある	28	7.1%
2 自分たちのまちづくりを進めていくために、参画していく必要がある	107	27.0%
3 自分たちのまちづくりを進めていくことは大切だが、役割を明確にしない方が良い	71	17.9%
4 わからない	173	43.7%
無回答	17	4.3%
合計	396	100.0%

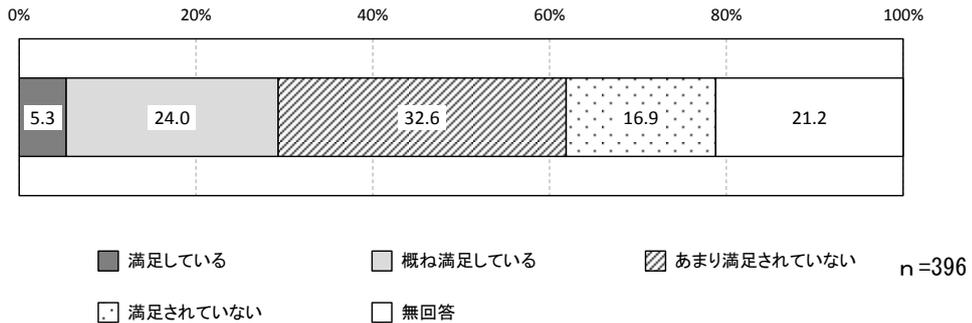


(19) まちづくり円卓会議運用の満足度について

【単純集計結果】

・「満足している」の回答は5.3%であり、「概ね満足している」の回答が24.0%であった。合わせて回答者の29.3%がまちづくり円卓会議の運用に満足していた。

	回答数	構成比
1 満足している	21	5.3%
2 概ね満足している	95	24.0%
3 あまり満足されていない	129	32.6%
4 満足されていない	67	16.9%
無回答	84	21.2%
合計	396	100.0%

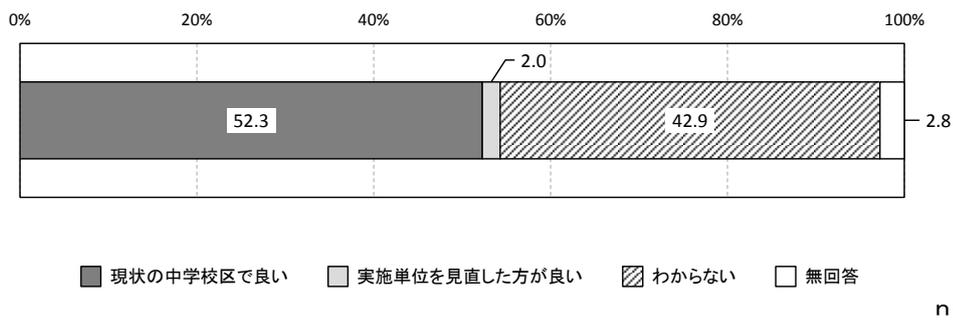


(20) まちづくり円卓会議の実施単位について

【単純集計結果】

・「現状の中学校区で良い」の回答が52.3%であり、「実施単位を見直した方が良い」の回答は2.0%であった。

	回答数	構成比
1 現状の中学校区で良い	207	52.3%
2 実施単位を見直した方が良い	8	2.0%
3 わからない	170	42.9%
無回答	11	2.8%
合計	396	100.0%



【自由回答結果】

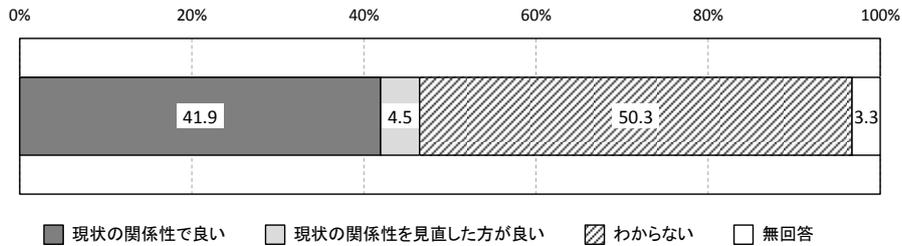
「実施単位を見直した方が良い」 の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校単位等より細かく分けする ・大阪狭山市くらいの規模であれば1つでよい など
------------------------	---

(21) 地域と行政の関係性について

【単純集計結果】

・「現状の関係性で良い」の回答は41.9%であり、「現状の関係性を見直した方が良い」の回答は4.5%であった。

	回答数	構成比
1 現状の関係性で良い	166	41.9%
2 現状の関係性を見直した方が良い	18	4.5%
3 わからない	199	50.3%
無回答	13	3.3%
合計	396	100.0%



n=396

【自由意見結果】

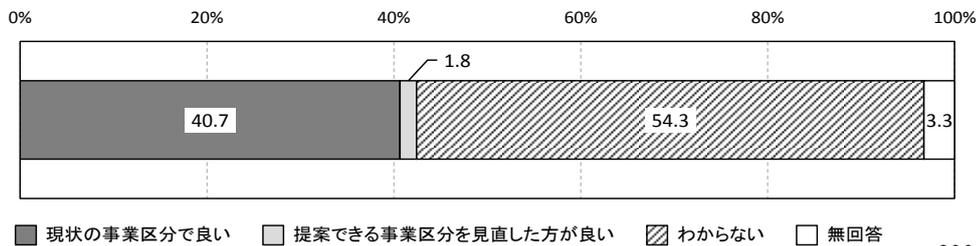
<p>「現状の関係性を見直した方が良い」 の回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の人がだけが主体的で他の人は取り残されている ・行政と市民（地域）の関係性についての文言と現状があてないと思う ・皆で集まって協議するのは無理があるように思う、アンケートで意見を聞いたほうがよい など
----------------------------------	---

(22) 事業区分について

【単純集計結果】

・「現状の事業区分で良い」の回答は40.7%であり、「提案できる事業区分を見直した方が良い」の回答は1.8%であった。

	回答数	構成比
1 現状の事業区分で良い	161	40.7%
2 提案できる事業区分を見直した方が良い	7	1.8%
3 わからない	215	54.3%
無回答	13	3.3%
合計	396	100.0%



n=396

【自由意見結果】

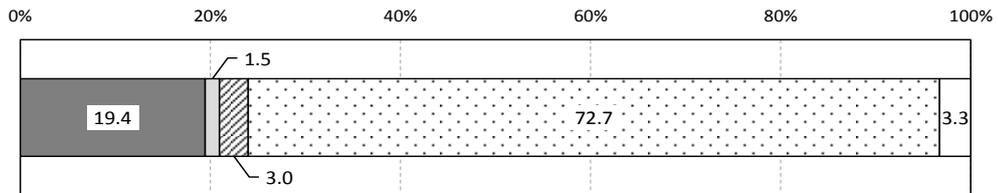
<p>「提案できる事業区分を見直した方が良い」 の回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・変化への対応のため五年に一度は見直す必要がある ・教育や子育て、都市基盤の整備、医療機関など全般に及ぶので目的をもっと明確にした方が良い ・事業区分自体を円卓会議で協議したほうが良い など
-------------------------------------	---

(23) 事業の予算について

【単純集計結果】

・「市の財政を考えると適切である」の回答は19.4%、「上限額を引き上げた方が良い」の回答は1.5%、「上限額を引き下げた方が良い」の回答は3.0%であった。

	回答数	構成比
1 市の財政を考えると適切である	77	19.4%
2 上限額を引き上げた方が良い	6	1.5%
3 上限額を引き下げた方が良い	12	3.0%
4 わからない	288	72.7%
無回答	13	3.3%
合計	396	100.0%



- 市の財政を考えると適切である
- 上限額を引き上げた方が良い
- 上限額を引き下げた方が良い
- わからない
- 無回答

n=396

【自由回答結果】

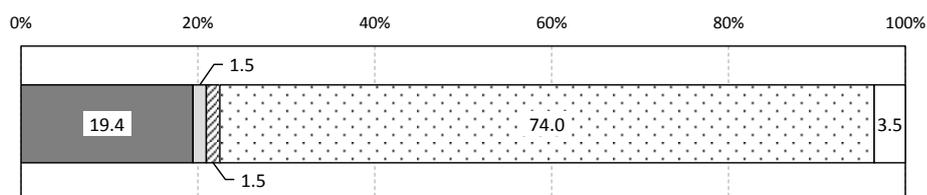
<p>「上限額を引き上げた方が良い」 の回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上限 1,000 万円、高く感じるが良いものを実施すると興味も持たれて最終的に大阪狭山市が潤う。お金を使わないと新しいお金は入ってこないから ・ 良い事業であれば上限はいらない ・ 事業によって予算は変えるべき <p style="text-align: right;">など</p>
<p>「上限額を引き下げた方が良い」 の回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉や教育に予算をまわすべき ・ 事業によって必要でないものもあり、審査を厳正にすべき ・ 使用した金額の公開、実施した事業の成果、うまくいかなかった事業の原因の公開をすべき <p style="text-align: right;">など</p>

(24) 運営費について

【単純集計結果】

・「適切で良い」の回答は19.4%、「上限額を引き上げた方が良い」の回答は1.5%、「上限額を引き下げた方が良い」の回答は1.5%であった。

	回答数	構成比
1 適切で良い	77	19.4%
2 上限額を引き上げた方が良い	6	1.5%
3 上限額を引き下げた方が良い	6	1.5%
4 わからない	293	74.0%
無回答	14	3.5%
合計	396	100.0%



- 適切で良い
- ▨ 上限額を引き下げた方が良い
- 無回答
- ▤ 上限額を引き上げた方が良い
- わからない

n=396

【自由回答結果】

<p>「上限額を引き上げた方が良い」 の回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に還元されるのであればもっとあげても良いと思う ・上限があると自由な活動ができない ・100万円以上。市と対等とうたっているのであれば30万円は低い <p style="text-align: right;">など</p>
<p>「上限額を引き下げた方が良い」 の回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何にいくら費用がかかっているのかわからない ・不透明な支出がないかチェックする体制がとれているか ・ボランティアでよい <p style="text-align: right;">など</p>

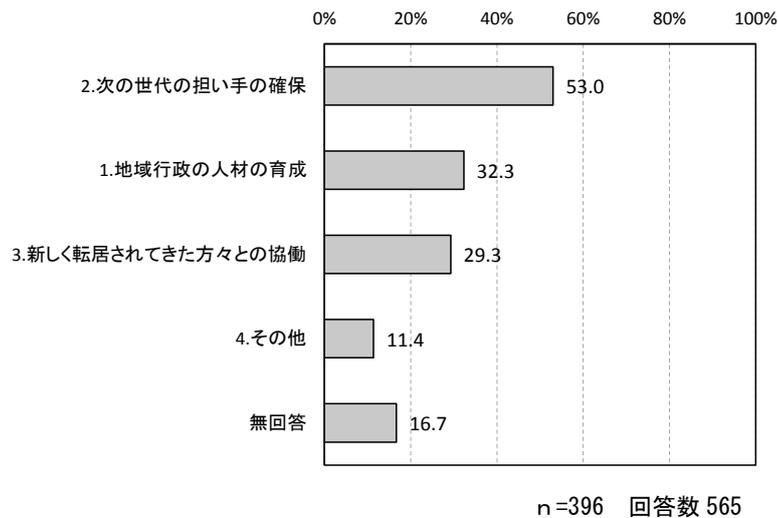
(25) 今後の課題について（複数回答）

【単純集計結果】

・「次の世代の担い手の確保」の回答が53.0%であり、「地域行政の人材の育成」の回答は32.3%、「新しく転居されてきた方々との協働」の回答は29.3%であった。

	回答数	構成比
1 地域行政の人材の育成	128	32.3%
2 次の世代の担い手の確保	210	53.0%
3 新しく転居されてきた方々との協働	116	29.3%
4 その他	45	11.4%
無回答	66	16.7%
合計	565	142.7%

n= 396



【自由回答結果】

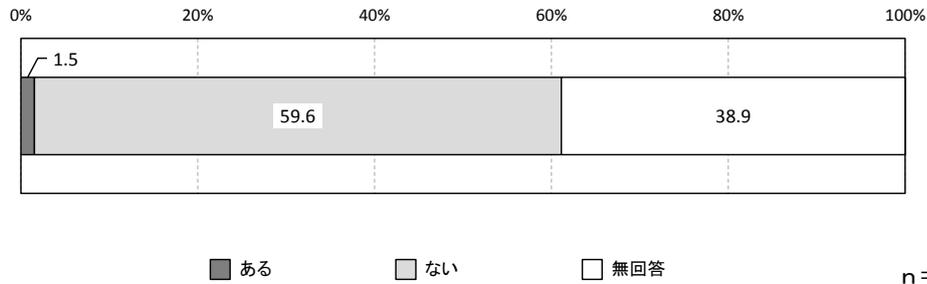
- ・まちづくり円卓会議の周知をもっとして認知度をあげないと知らない人が多い
 - ・予算をもっと周知や告知に使うべきだと思う
 - ・3つの円卓会議の温度差、レベルの差もあると感じる
 - ・狭いコミュニティになっているように思える、参加しづらい雰囲気を感じる
- など

(26) 条文の見直すべき点について

【単純集計結果】

・「ない」の回答が 59.6%であり、「ある」の回答は 1.5%であった。

	回答数	構成比
1 ある	6	1.5%
2 ない	236	59.6%
無回答	154	38.9%
合計	396	100.0%



【自由回答結果】

- ・条文 1 条 円卓会議の目的はあくまでも校区内住民の福祉に寄与することであり、「まちづくり推進」はその手段に過ぎない
 - ・条文 2 条 2 項 小学校区を一単位として組織する。中学校区は広すぎるので地域の課題を定めにくいし、親睦・コミュニケーション・意見交換も図りにくい
 - ・条文 7 条 構成員の選出（参加希望者）の仕方がわからない。全市民の中から構成員をどのように選んでいるのかわからない
 - ・条文 13 条 法人化を義務規定とし、法人格を有する会議とする方が責任が明確となり自覚も生まれる
 - ・条文 15 条 円卓会議はその事業に対し自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。自ら評価を公平に正しく出来るのか疑問
- など

(27) 「まちづくり円卓会議」及び「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」に関する意見等について

「まちづくり円卓会議」及び「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」に関する意見等について以下に示す自由回答があった。(記述は内容を整理して示している)

【自由回答結果】

- 情報が入ってきにくい
 - ・街づくりに力を入れているのは感じたが情報が入ってきにくい
 - ・「円卓会議」という言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
 - ・「円卓会議」は誰が参加しているのか、どのように行われているのかわからない
 - ・「円卓会議」の役員の選出、会計報告、目的、役割、評価などもっと明確にしてほしい
 - ・内容がわかりにくく市民はあまり関係ないと思っている
 - ・大阪狭山市の他市と違う特徴が明確でなく、浸透してないように感じる。「円卓会議」も一体誰が参加されているのかと他人事のように感じる
 - 仕事や家事で参加する時間がない
 - ・仕事や家事などに追われていて参画できる状態ではない
 - ・仕事が忙しくてなかなか地域のことに関わりが持てない状況です。働き方改革が進み、プライベートに余裕が出れば積極的に参画したいと思います
 - 市民が広く参加できる雰囲気づくり
 - ・昔からの婦人会、自治会等の限られた人たちで動かしているように思う
 - ・市民が広く参加できる雰囲気づくりをしてほしい
- など

4 単純集計の結果

単純集計の結果を以下に示す。

アンケート調査回答者の属性等

- ①回答者の性別は、「女性」の回答が 57.1%、「男性」が 41.4%であった。
- ②回答者の年齢は、「70 歳代」が 30.3%、「60 歳代」が 22.2%で、年代が若いほど、回答は少なかった。
- ③回答者の職業は、「主婦・主夫」が 25.8%、「会社員・公務員」は 25.5%であった。
- ④回答者の中学校区は、「狭山中学校区」が 38.9%、「第三中学校区」が 28.8%、「南中学校区」が 29.5%であった。
- ⑤回答者の居住年数は、「31 年以上」が 42.7%、「21～30 年」が 21.7%であった。
- ⑥回答者がこれからも大阪狭山市に住み続けたいかの意識は、91.2%が「住み続けたい」（「当分は住み続けたい」を含む）であった。

「市民自治」に対する意識

- ⑦「市民自治」の取り組みは、33.9%（「知っている」、「少し知っている」）が知っていた。
- ⑧基本理念は 81.0%（「共感できる」、「少し共感できる」）が共感できる意向であった。
- ⑨自治会活動へは、51.6%（「参加している」、「参加していないが、参加したい」）が参加したい意向であった。
- ⑩地域の組織へは、28.1%（「参加している」、「参加していないが、参加したい」）が活動に参加したい意向であった。
- ⑪まちづくりへの自主的な取り組みは、32.6%（「知っている、私も参加している」、「知っている、私も参加してみたい」、「知らないが、私も参加してみたい」）が参加したい意向であった。
- ⑫大阪狭山市自治基本条例は 21.4%（「知っている」、「少し知っている」）が知っていた。

「まちづくり円卓会議」に対する意識

- ⑬「まちづくり円卓会議」は37.9%（「知っている」、「少し知っている」）が知っていた。
- ⑭まちづくり円卓会議へは、まちづくり円卓会議を「知っている」または「少し知っている」と回答した人（150人）で、48.0%（「参加したことがある」、「参加したことはないが、参加してみたい」）が「参加したい」であった。
- ⑮まちづくり円卓会議は、71.7%（「良い制度と思い、参加してみたい」、「良い制度と思うが、参加はしたくない」）が良い制度と思う意向であった。
- ⑯まちづくり円卓会議に参加（21人）された感想は、「3. 地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い」、「4. 地域の人達や様々な団体と交流し、新しい知見が得られたところが良い」が多く、「6. まちづくり円卓会議で取り決めたことで、地域が活性しているところが良い」などがあつた。
- ⑰「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」は、17.7%（「知っている」、「少し知っている」）が知っていた。
- ⑱市民の役割は、「基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある」、「自分たちのまちづくりを進めていくために、参画していく必要がある」の回答が合わせ34.1%であった。
- ⑲まちづくり円卓会議の運用は、29.3%（「満足している」、「概ね満足している」の合計）が満足していた。
- ⑳まちづくり円卓会議の実施単位は、「現状の中学校区が良い」が52.3%、「実施単位を見直した方が良い」が2.0%であった。
- ㉑地域と行政の関係性は、「現状の関係性で良い」が41.9%、「現状の関係性を見直した方が良い」が4.5%であった。
- ㉒事業区分は、「現状の事業区分で良い」が40.7%、「提案できる事業区分を見直した方が良い」が1.8%であった。
- ㉓事業の予算は、「市の財政を考えると適切である」が19.4%、「上限額を引き上げた方が良い」が1.5%、「上限額を引き下げた方が良い」が3.0%であった。
- ㉔運営費は、「適切で良い」が19.4%、「上限額を引き上げた方が良い」が1.5%、「上限額を引き下げた方が良い」が1.5%であった。
- ㉕今後の課題は、「次の世代の担い手の確保」が53.0%、「地域行政の人材の育成」が32.3%、「新しく転居されてきた方々との協働」が29.3%であった。
- ㉖条文の見直しは、「必要ない」が59.6%であり、「必要がある」が1.5%であった。

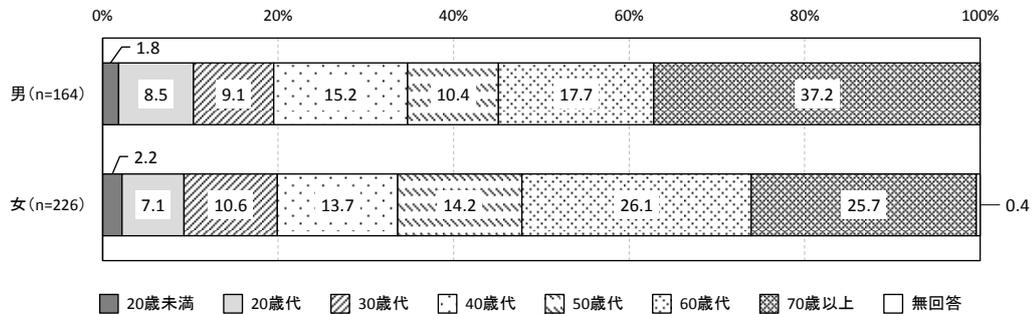
III. クロス集計結果

1 性別クロス集計結果

【アンケート調査回答者の属性等】

(2) 回答者の年齢

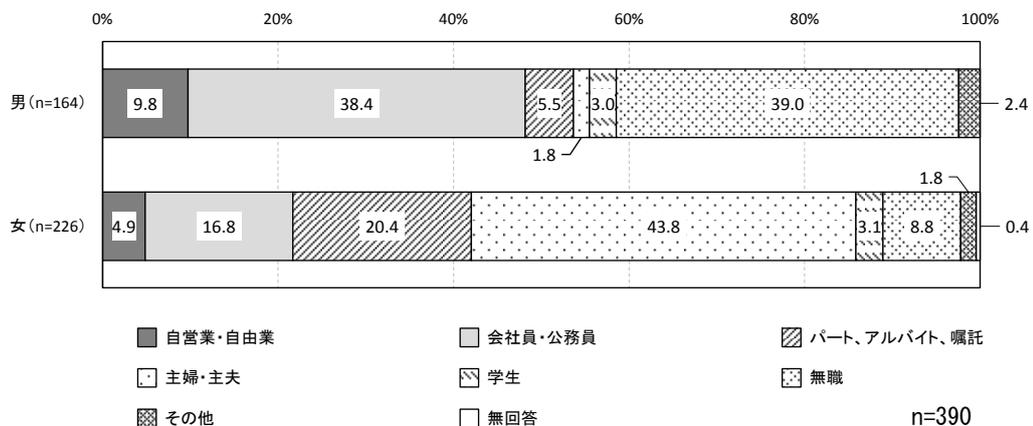
・男性の回答者は「70歳以上」が37.2%で回答数が最も多く、女性では「60歳代」の26.1%の回答数が最も多かった。



n=390

(3) 回答者の職業

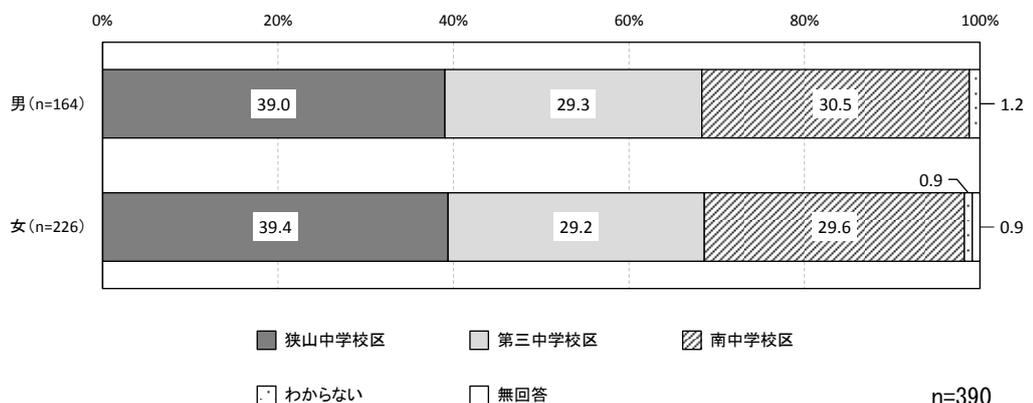
・男性は「自営業・自由業」、「会社員・公務員」、「パート、アルバイト、嘱託」の回答が合わせて53.7%であり、女性は「自営業・自由業」、「会社員・公務員」、「パート、アルバイト、嘱託」の回答が合わせて42.1%であった。



n=390

(4) 回答者の中学校区

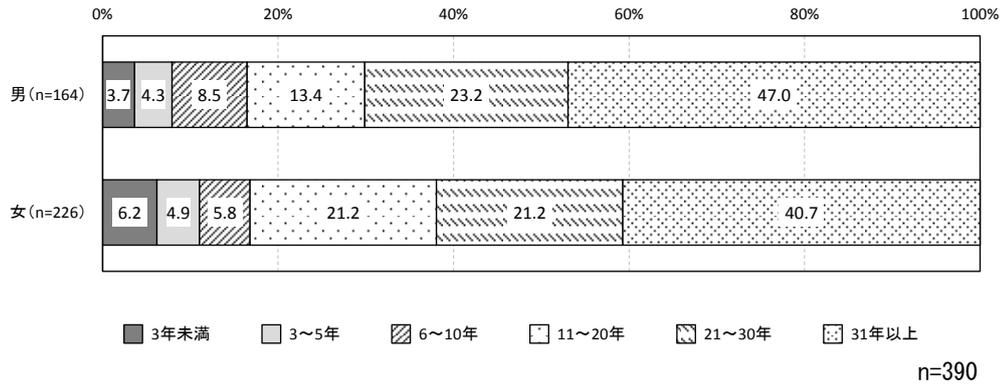
・「狭山中学校区」の回答が男性は39.0%、女性は39.4%であった。



n=390

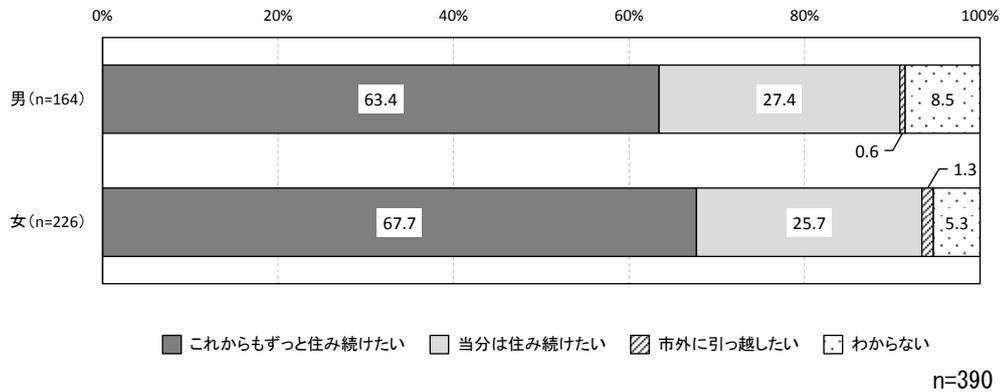
(5) 回答者の居住年数

・「31年以上」の回答が、男性では47.0%であり、女性では40.7%であった。



(6) 回答者がこれからも大阪狭山市に住み続けたいかの意識調査

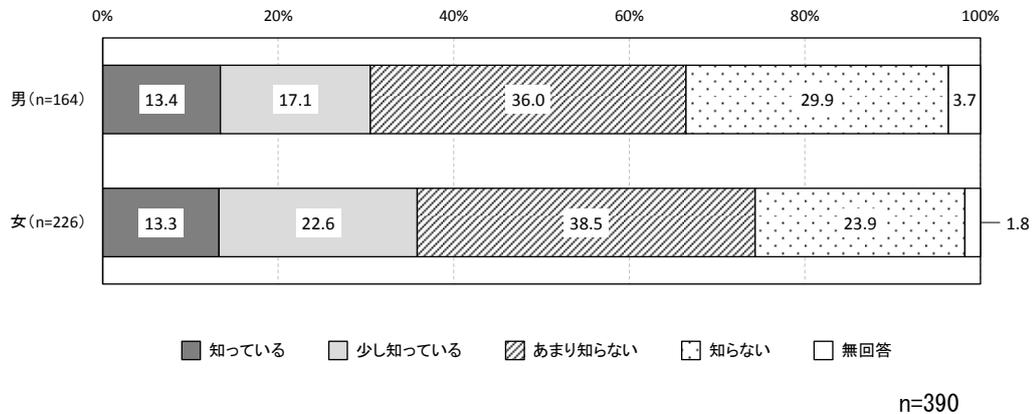
・「これからもずっとすみ続けたい」、「当分はすみ続けたい」の回答を合わせて、男性は90.8%、女性は93.4%が住み続けたい意向であった。



【「市民自治」に対する意識】

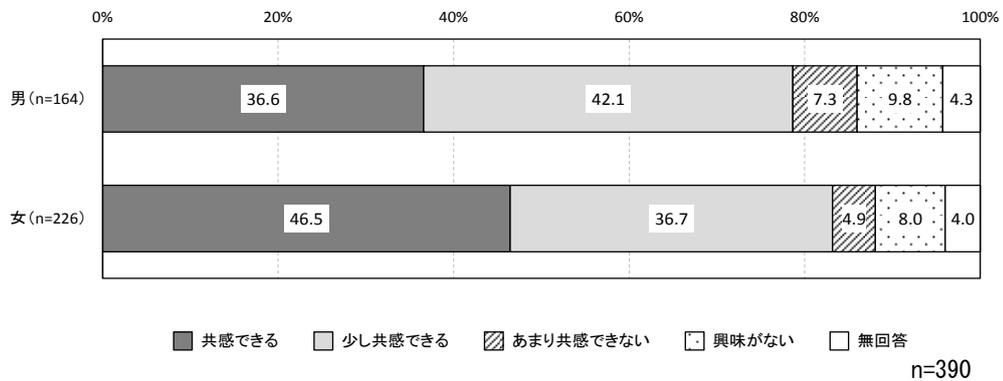
(7) 「市民自治」の取り組みについての周知状況

・「知っている」、「少し知っている」の回答を合わせて、男性は30.5%、女性は35.9%が「市民自治」の取り組みについて知っていた。



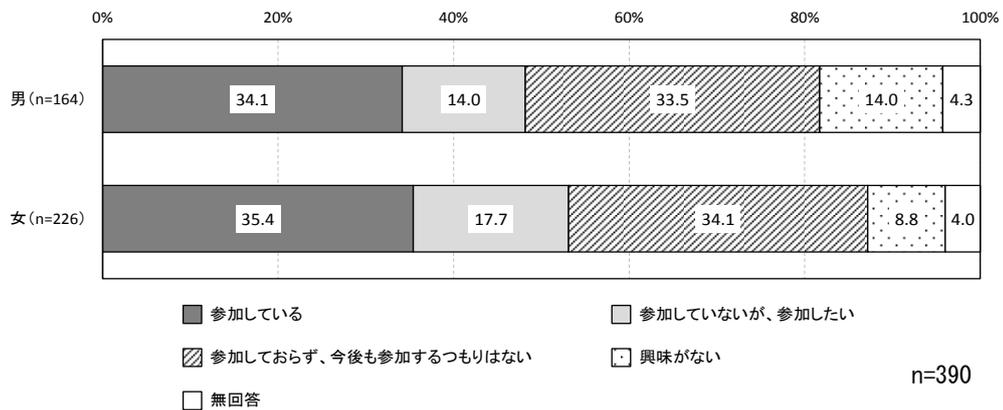
(8) 基本理念について

・「共感できる」、「少し共感できる」の回答を合わせて、男性は 78.7%、女性は 83.2%が基本理念について共感できる意向であった。



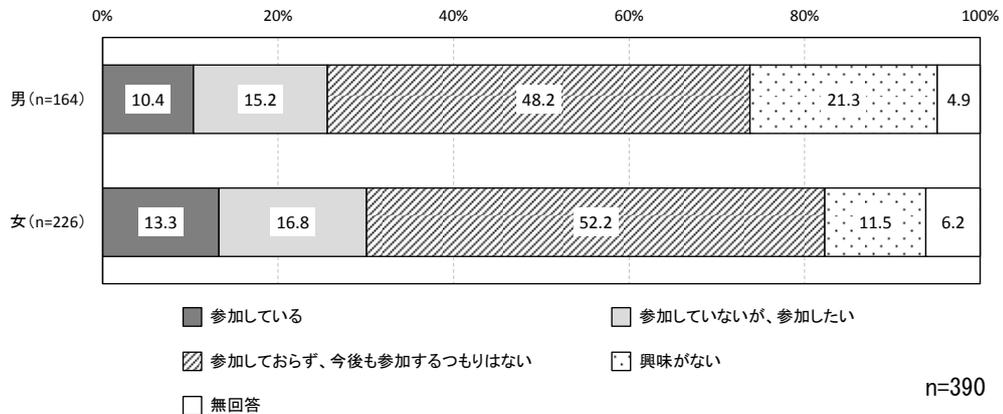
(9) 自治会活動の参加について

・「参加している」、「参加していないが、参加したい」の回答を合わせて、男性は 48.1%、女性は 53.1%が自治会活動に参加の意向であった。



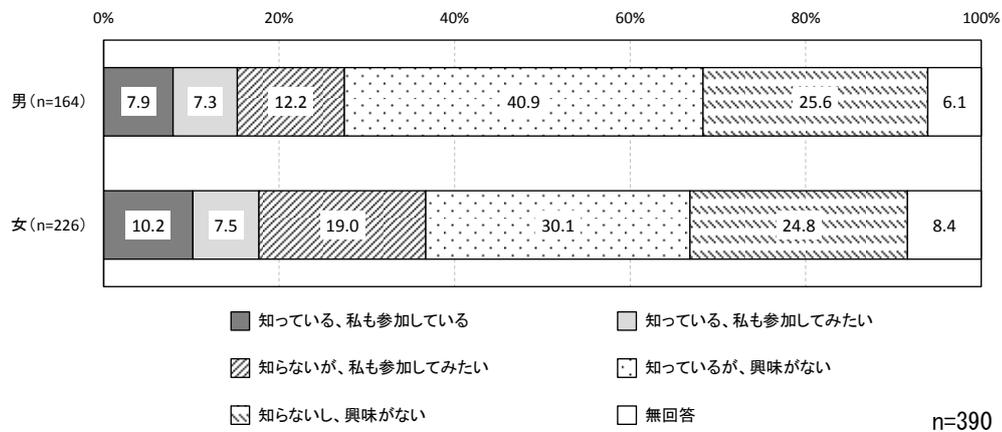
(10) 地域の組織の活動参加状況について

・「参加している」、「参加していないが、参加したい」の回答を合わせて、男性は 25.6%、女性は 30.1%が地域の組織の活動に参加意向であった。



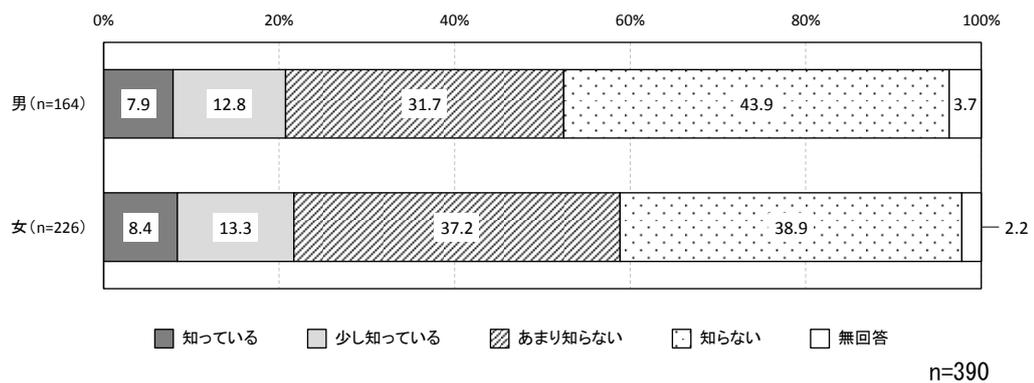
(11) まちづくりへの自主的な取り組みについて

・「知っている、私も参加している」、「知っている、私も参加してみたい」、「知らないが、私も参加してみたい」の回答を合わせて、男性は27.4%、女性は36.7%がまちづくりへの自主的な取り組みに参加意向であった。



(12) 大阪狭山市自治基本条例の認知度について

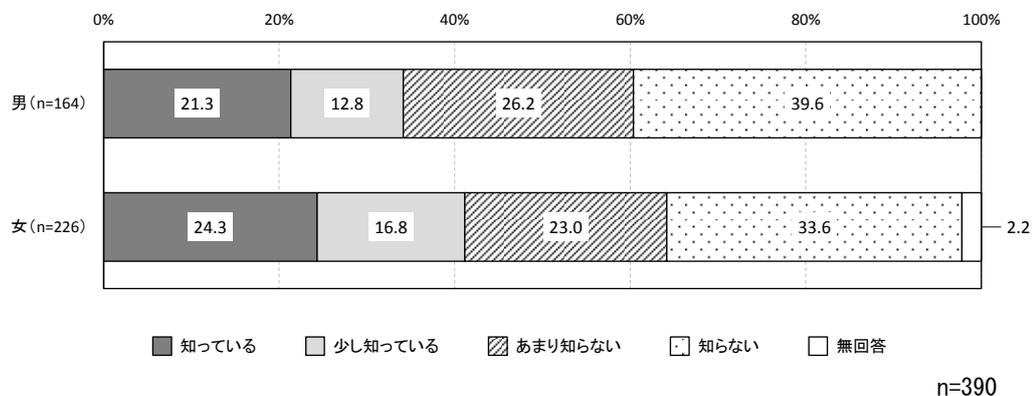
・「知っている」、「少し知っている」の回答を合わせて、男性は20.7%、女性は21.7%が大阪狭山市自治基本条例について認知していた。



【「まちづくり円卓会議」に対する意識】

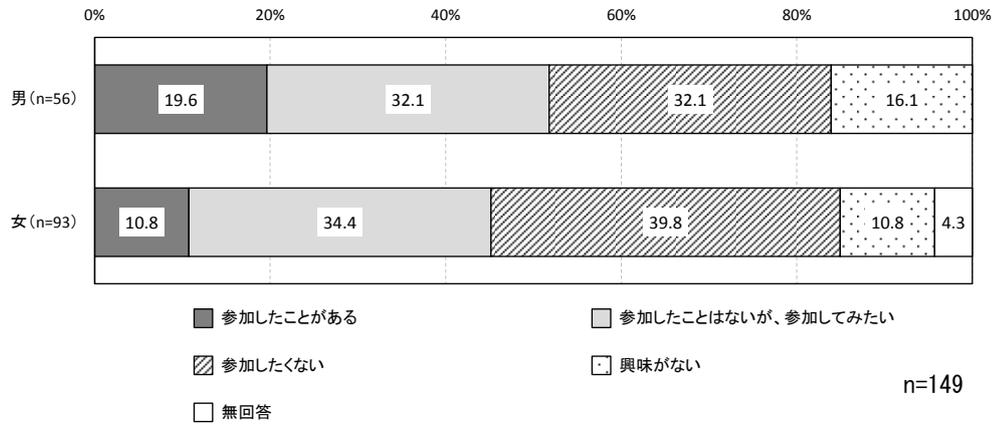
(13) まちづくり円卓会議の認知度について

・「知っている」、「少し知っている」の回答を合わせて、男性は34.1%、女性は41.1%がまちづくり円卓会議について認知していた。



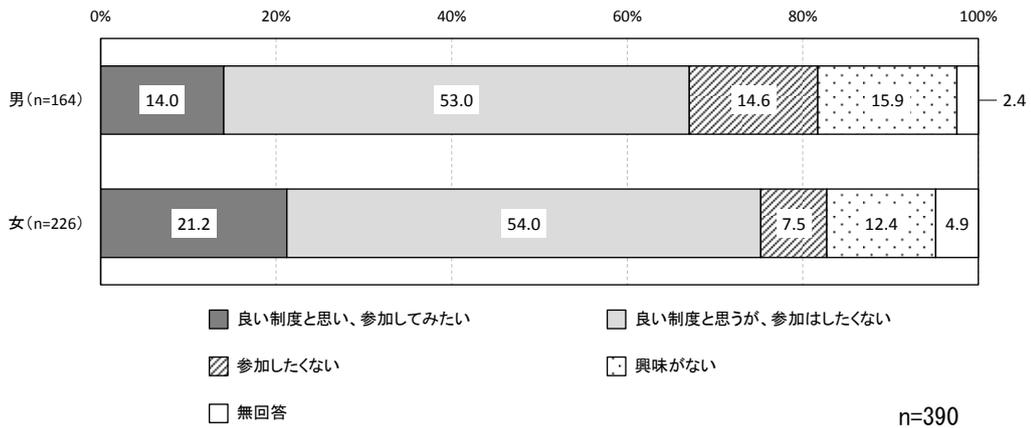
(14) まちづくり円卓会議に参加について

・「参加したことがある」、「参加したことはないが、参加してみたい」の回答を合わせて、男性は51.7%、女性は45.2%がまちづくり円卓会議に参加意向であった。



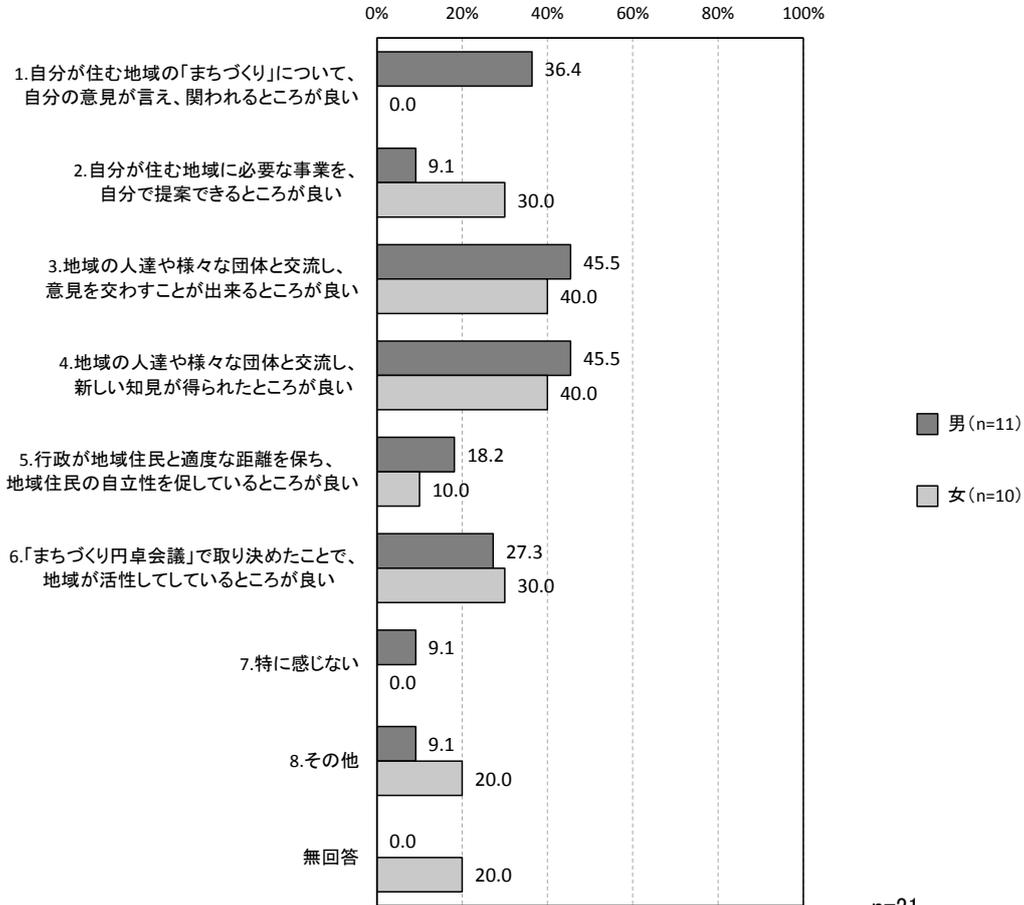
(15) 制度について

・「良い制度と思い、参加してみたい」、「良い制度と思うが、参加はしたくない」の回答を合わせて、男性は67.0%、女性は75.2%が制度について「良い」という意向であった。



(16) まちづくり円卓会議に参加された感想（複数回答）

・「3. 地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い」、「4. 地域の人達や様々な団体と交流し、新しい知見が得られたところが良い」の回答がそれぞれ男性は45.5%、女性は40.0%の回答があった。

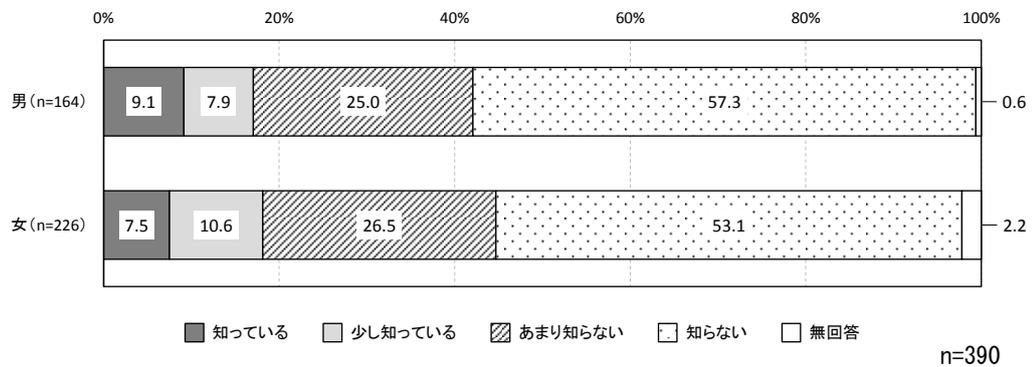


n=21

※複数回答数計 41

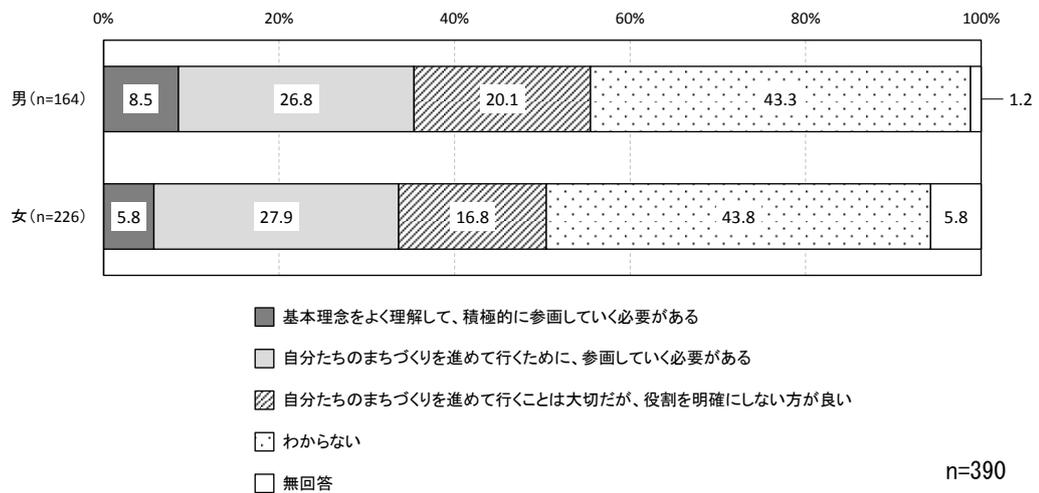
(17) 大阪狭山市まちづくり円卓会議条例の認知度について

・「知っている」、「少し知っている」の回答を合わせて、男性は17.0%、女性は18.1%が大阪狭山市まちづくり円卓会議条例について認知していた。



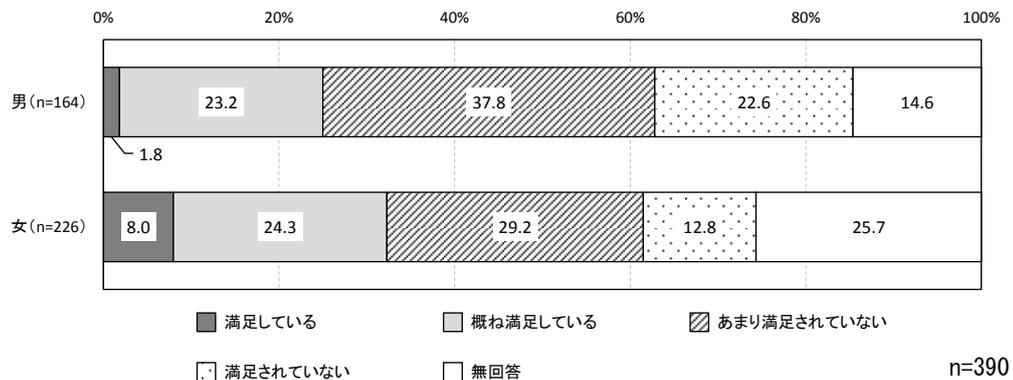
(18) 市民の役割について

・「基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある」、「自分たちのまちづくりを進めて行くために、参画していく必要がある」の回答合わせて、男性が35.3%であり、女性が33.7%であった。



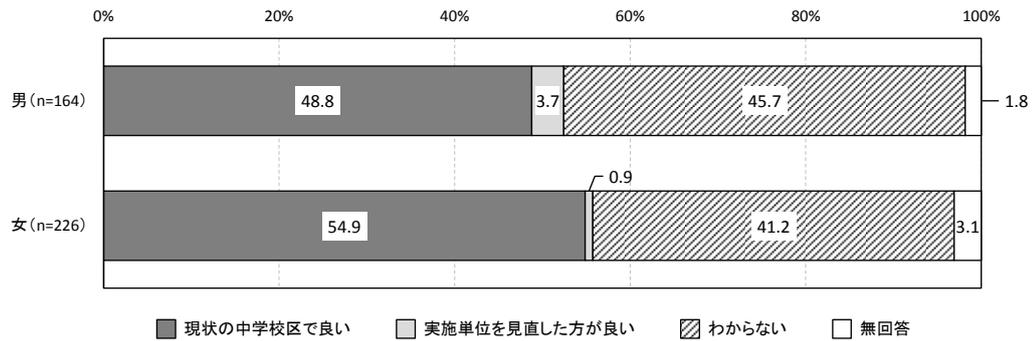
(19) まちづくり円卓会議運用の満足度について

・「満足している」、「概ね満足している」の回答を合わせて、男性は25.0%、女性は32.3%がまちづくり円卓会議運用について「満足」という意向であった。



(20) まちづくり円卓会議の実施単位について

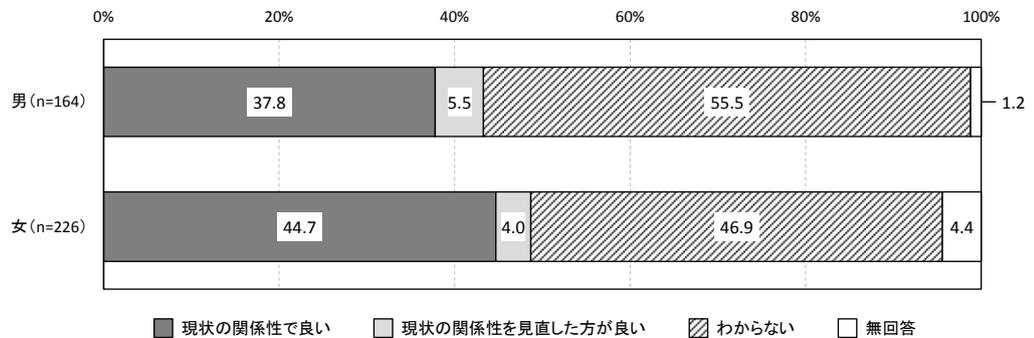
・「現状の中学校区で良い」の回答は、男性で48.8%、女性で54.9%であった。



n=390

(21) 地域と行政の関係性について

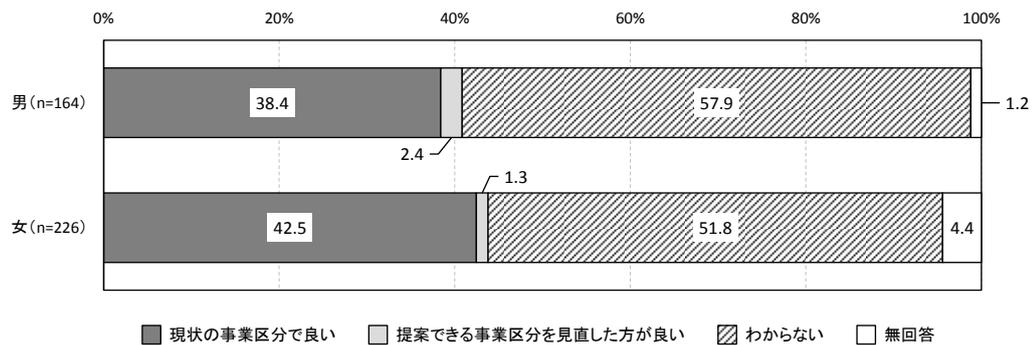
・「現状の関係性で良い」の回答は、男性で37.8%、女性で44.7%であった。



n=390

(22) 事業区分について

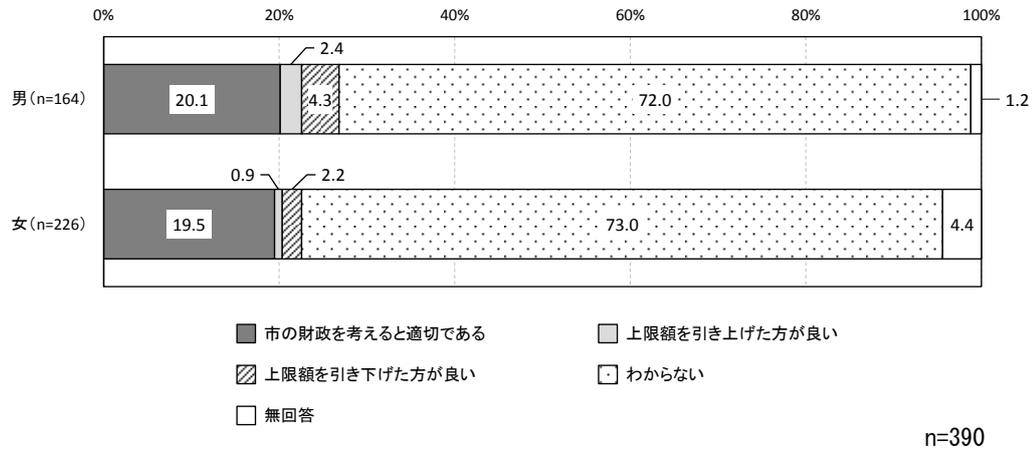
・「現状の事業区分で良い」の回答は、男性で38.4%、女性で42.5%であった。



n=390

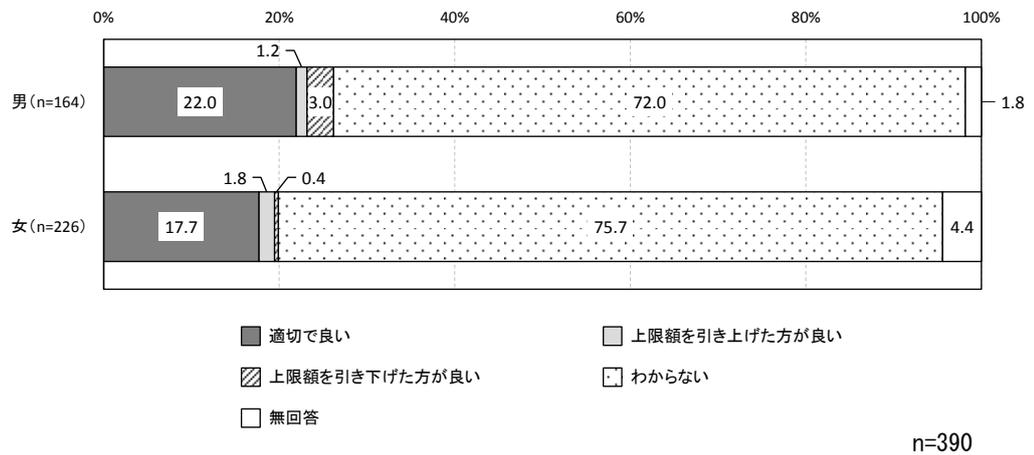
(23) 事業の予算について

・「市の財政を考えると適切である」の回答は、男性で20.1%、女性で19.5%であった。



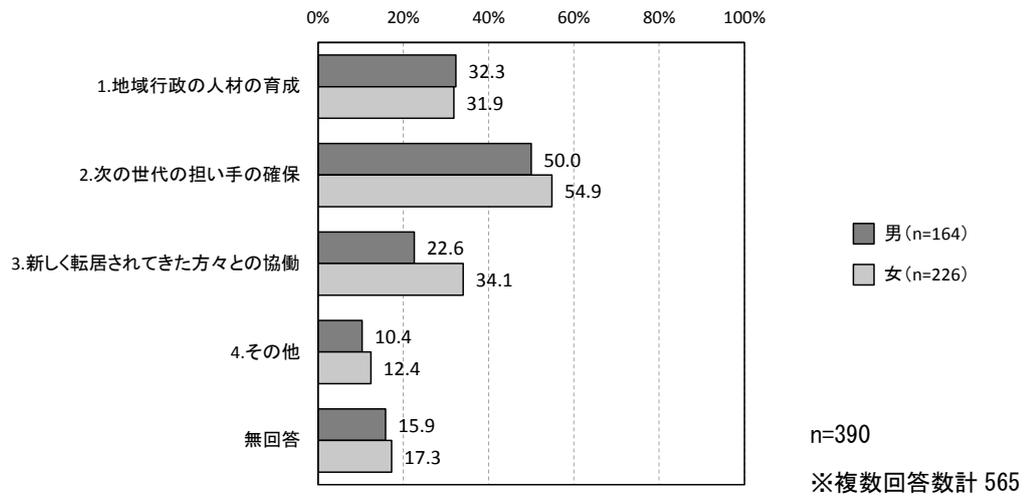
(24) 運営費について

・「適切で良い」の回答は、男性で22.0%、女性で17.7%であった。



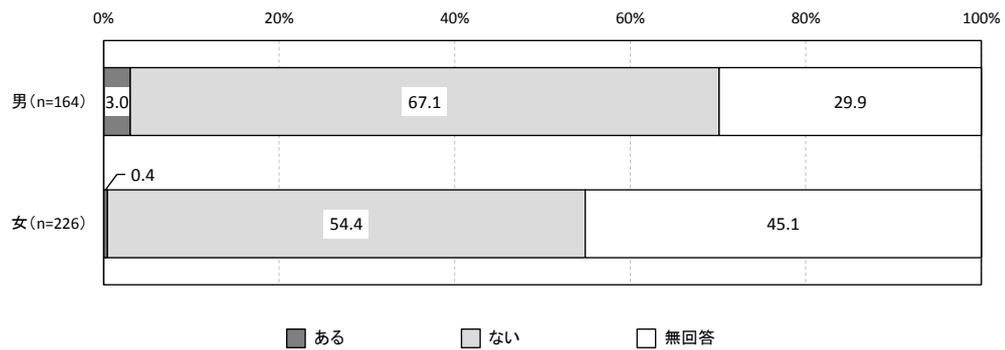
(25) 今後の課題について（複数回答）

・「2. 次の世代の担い手の確保」の回答は、男性で50.0%、女性で54.9%であった。



(26) 条文の見直すべき点について

・条文の見直すべき点について「ない」の回答は、男性で67.1%、女性で54.4%であり、「ある」の回答は、男性で3.0%、女性で0.4%であった。

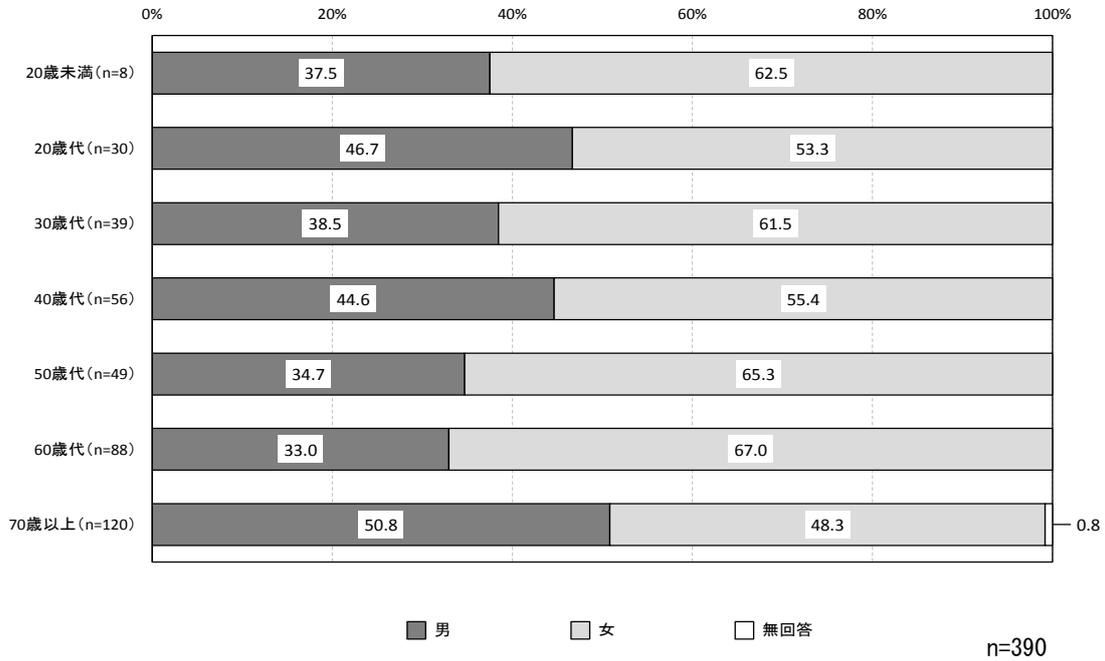


2 年代別クロス集計結果

【アンケート調査回答者の属性等】

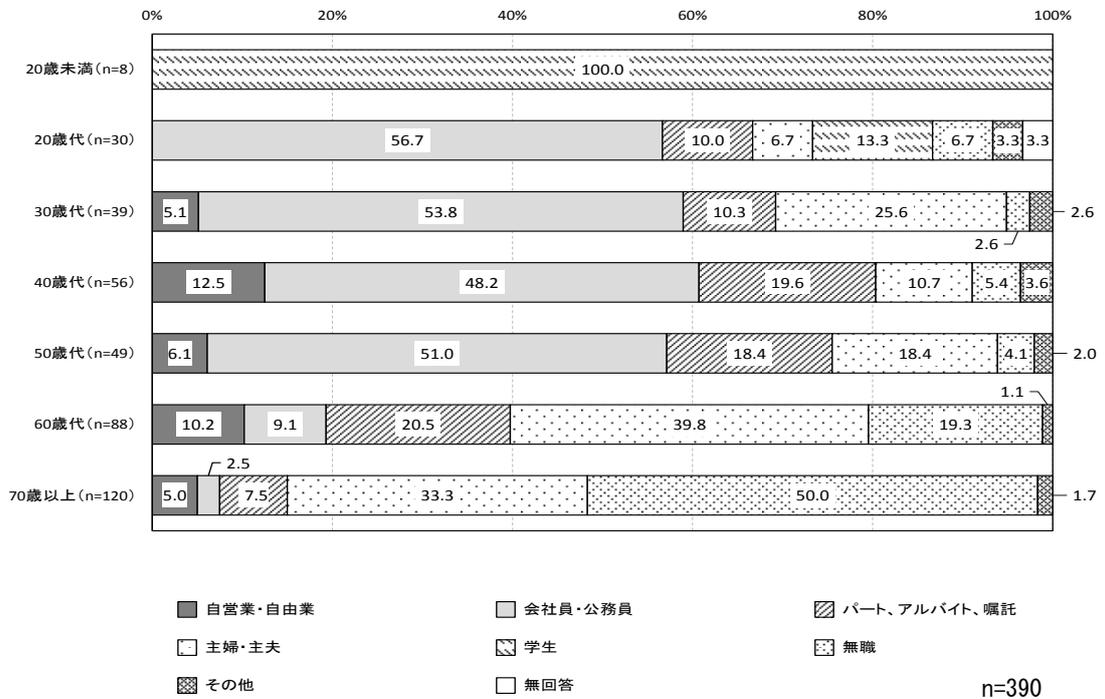
(1) 回答者の性別

・「70歳以上」は男性の回答が多いが、他の年代は女性の回答が多かった。



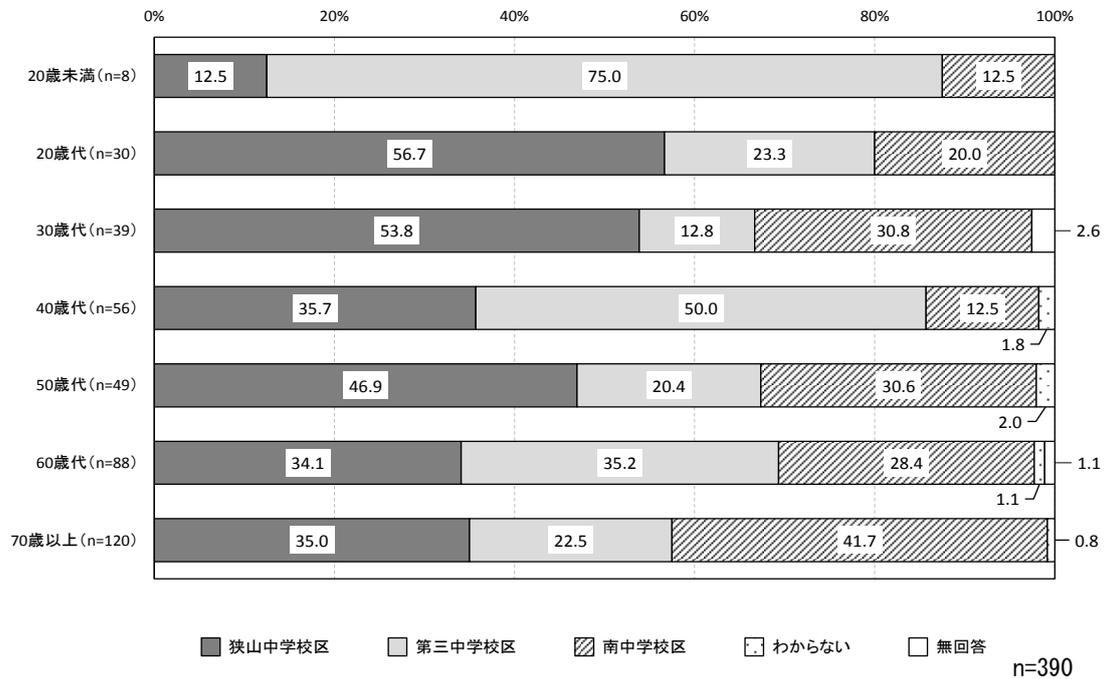
(3) 回答者の職業

・20歳未満は全員学生であった。20歳代から50歳代は「会社員・公務員」、「パート、アルバイト、嘱託」、「自営業・自由業」の割合が多く、「60歳代」、「70歳以上」は「主婦・主夫」の回答が多かった。



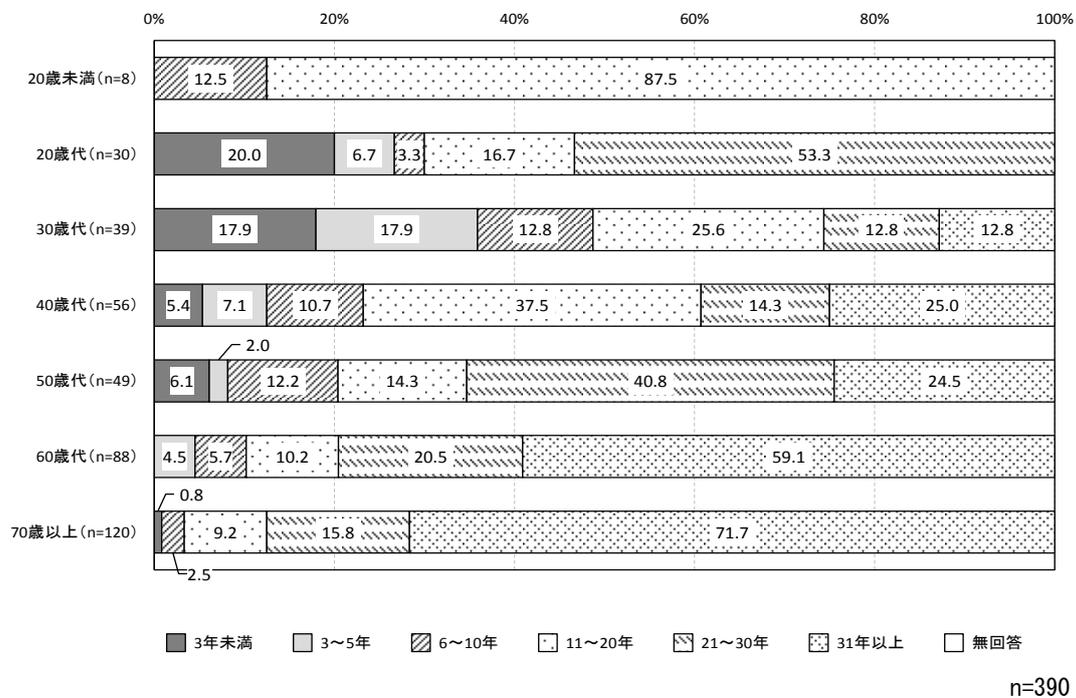
(4) 回答者の中学校区

・「20歳未満」で「第三中学校区」の回答が75.0%あり、「70歳以上」では「南中学校区」の回答が41.7%であった。



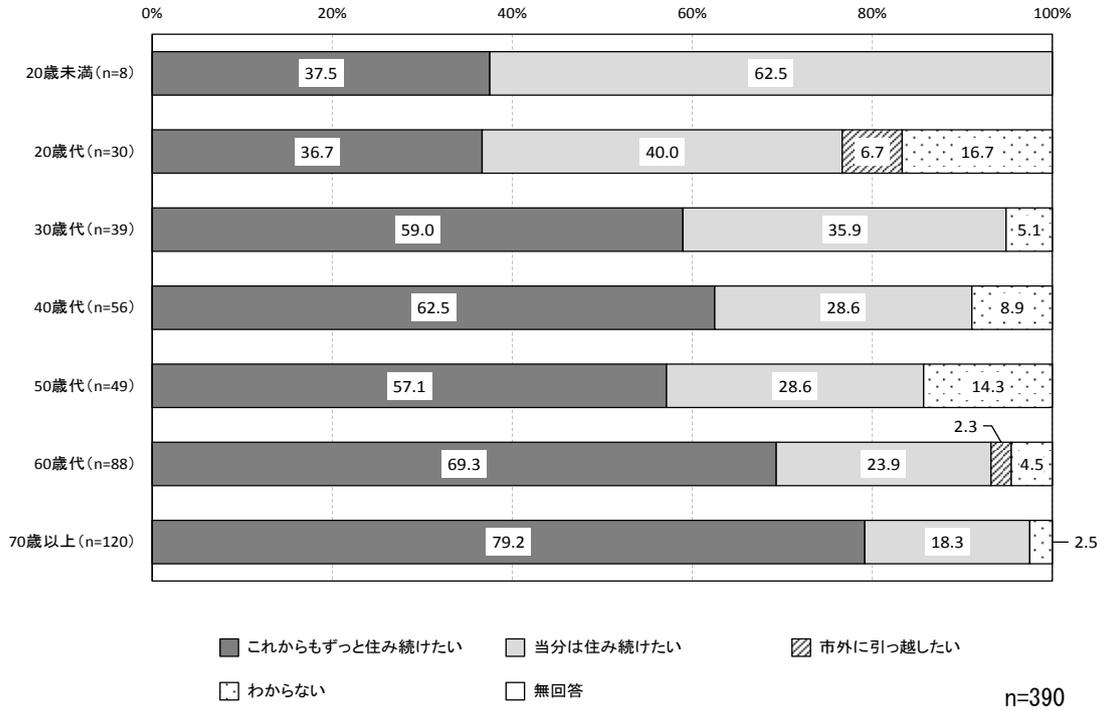
(5) 回答者の居住年数

・「20歳未満」で「11～20年」の回答が87.5%あり、「70歳以上」では「31年以上」の回答が71.7%であった。



(6) 回答者がこれからも大阪狭山市に住み続けたいかの意識調査

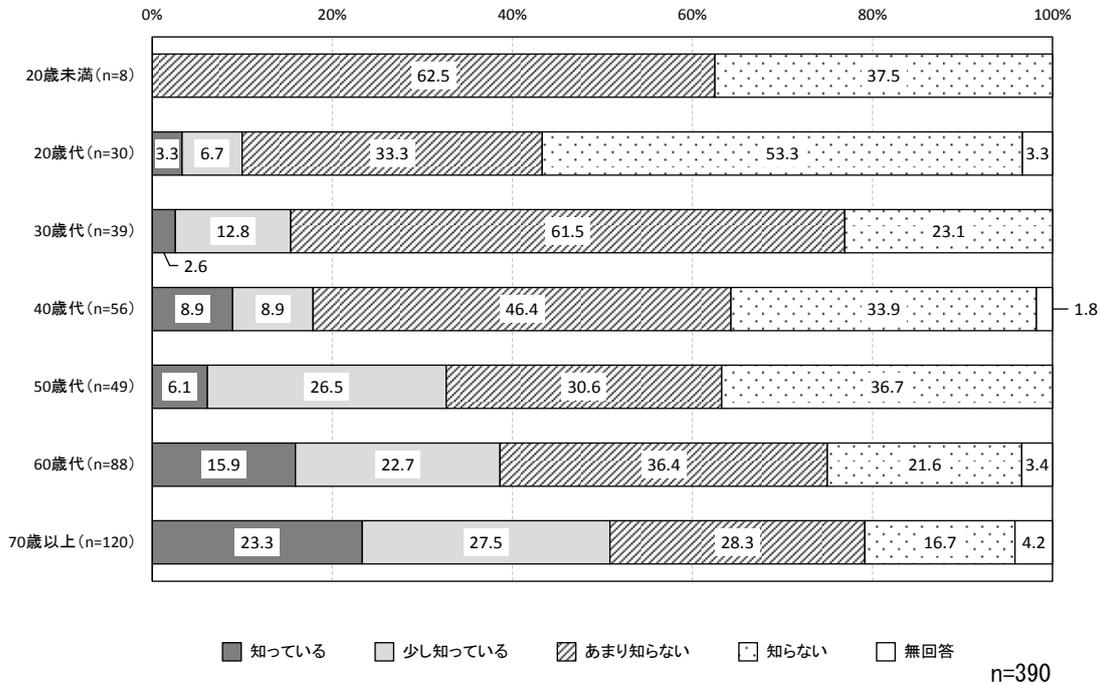
・「20歳未満」で「当分は住み続けたい」の回答が62.5%あり、「70歳以上」では「これからもずっと住み続けたい」の回答が79.2%であった。



【「市民自治」に対する意識】

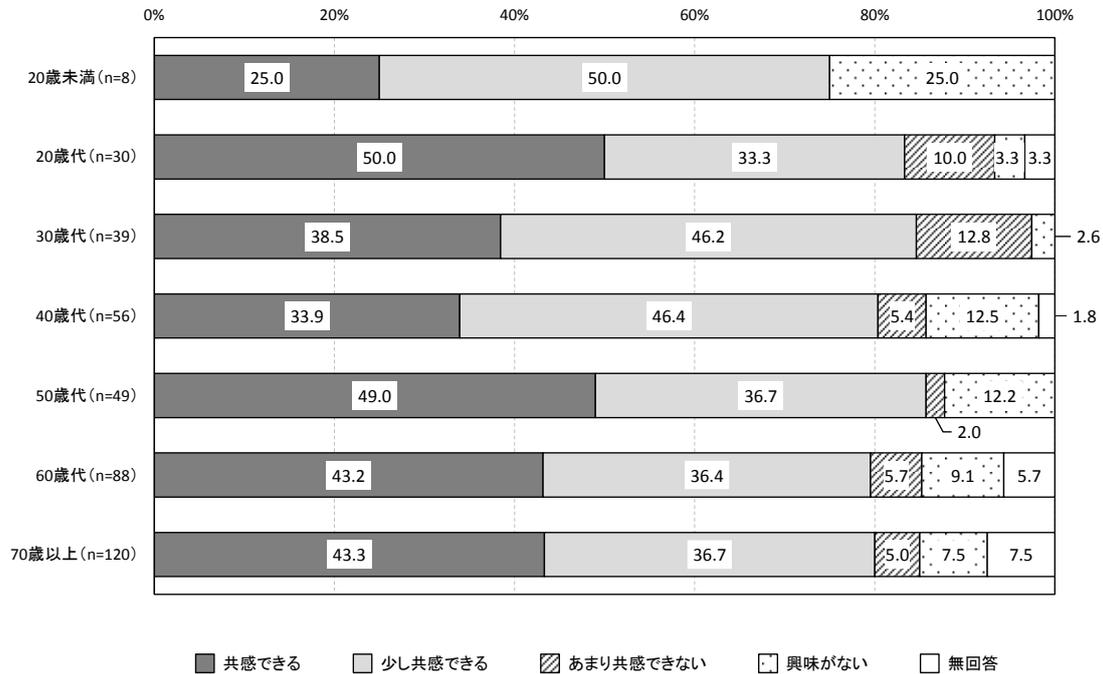
(7) 「市民自治」の取り組みについての周知状況

・年代が高くなるにつれて「知っている」「少し知っている」の回答が多くなる傾向であった。



(8) 基本理念について

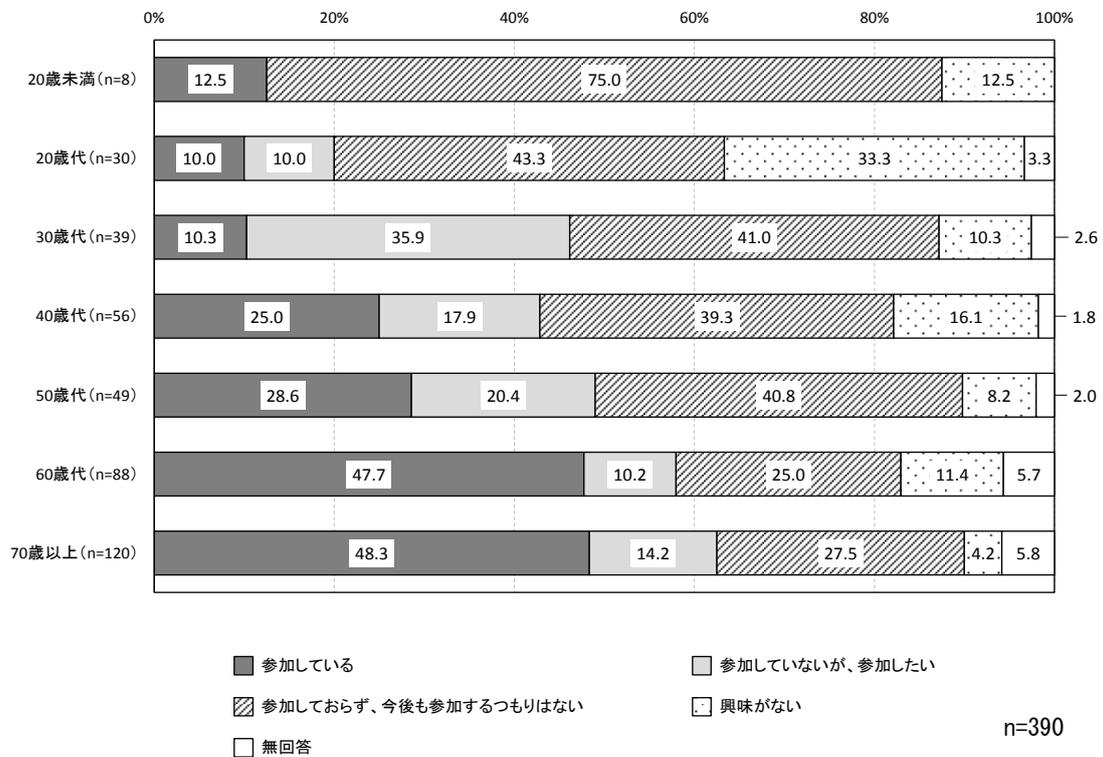
・「共感できる」、「少し共感できる」の回答が合わせて、「50歳代」で85.7%あり、「30歳代」で84.7%であった。



n=390

(9) 自治会活動の参加について

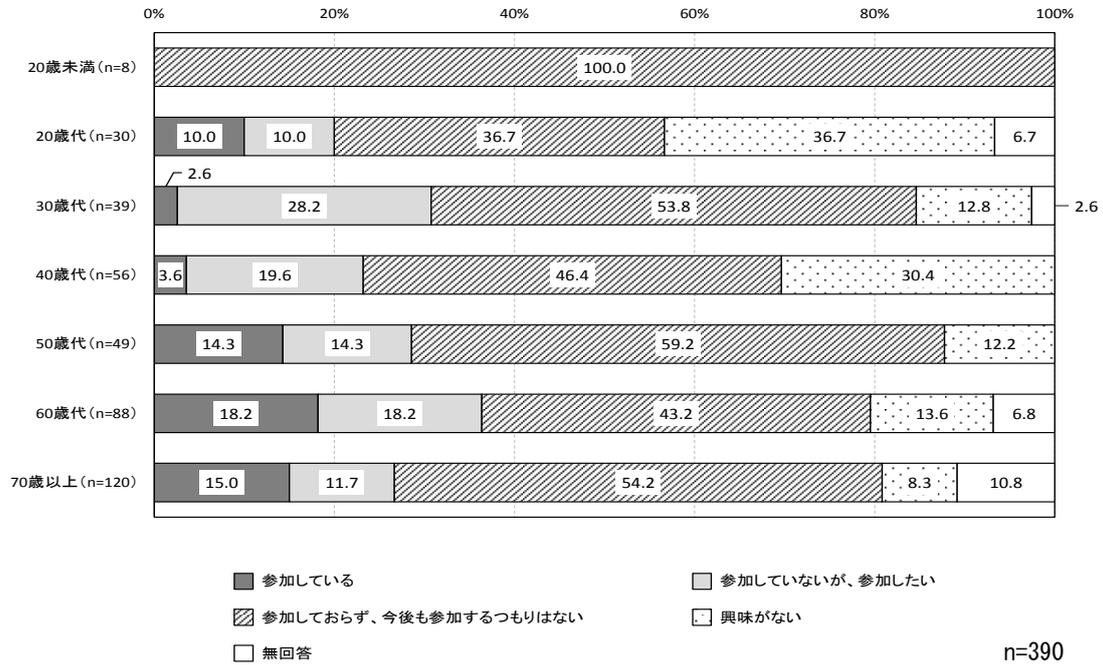
・「参加している」、「参加していないが、参加したい」の回答が合わせて、「70歳以上」は62.5%、「60歳代」は57.9%であった。



n=390

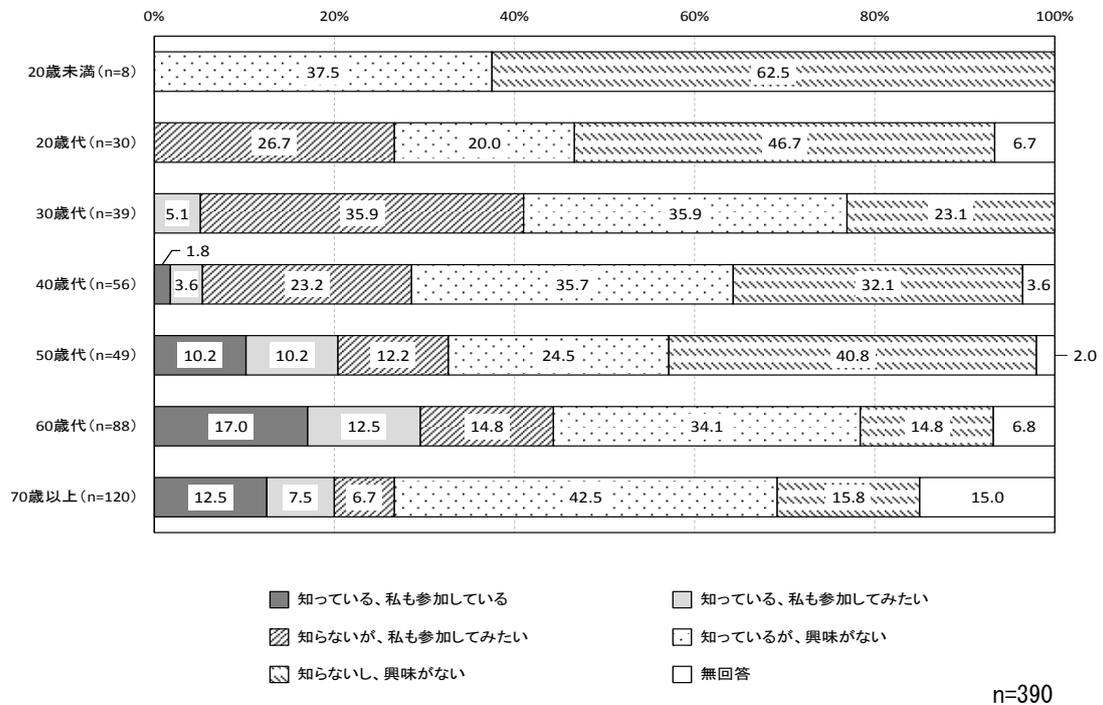
(10) 地域の組織の活動参加状況について

・「参加している」、「参加していないが、参加したい」の回答が合わせて、「60歳代」で36.4%、「30歳代」で30.8%であった。



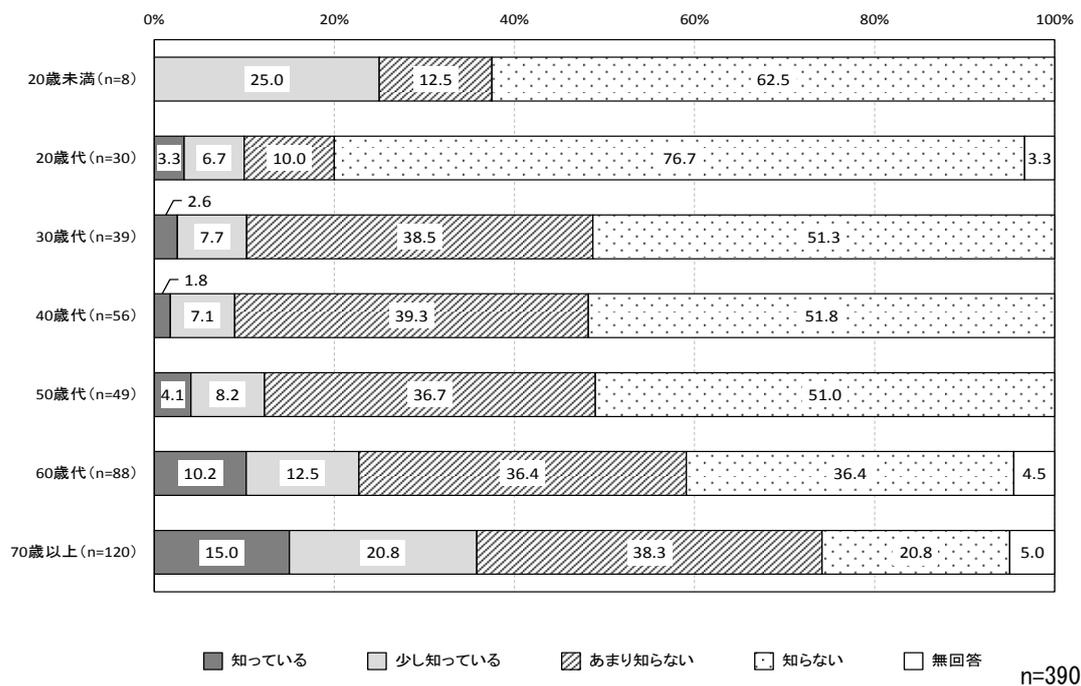
(11) まちづくりへの自主的な取り組みについて

・「知っている、私も参加している」、「知っている、私も参加してみたい」、「知らないが、私も参加してみたい」の回答が合わせて、「60歳代」で44.3%、「30歳代」で41.0%であった。



(12) 大阪狭山市自治基本条例の認知度について

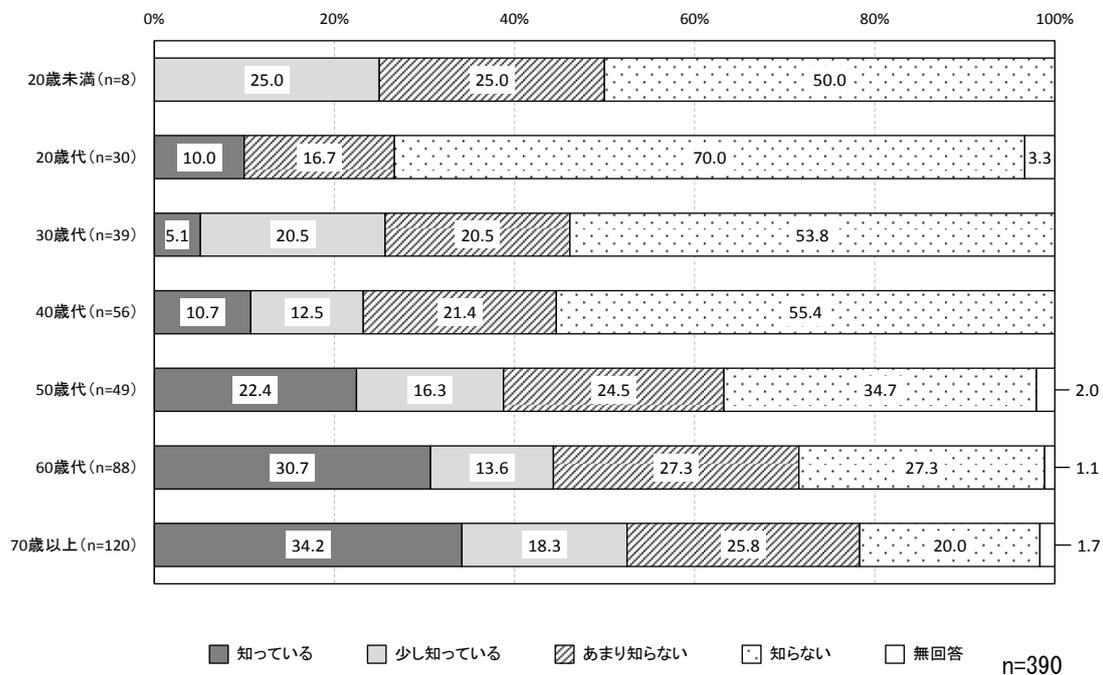
・「知っている」、「少し知っている」の回答が合わせて、「70歳以上」で35.8%、「60歳代」で22.7%であった。



【「まちづくり円卓会議」に対する意識】

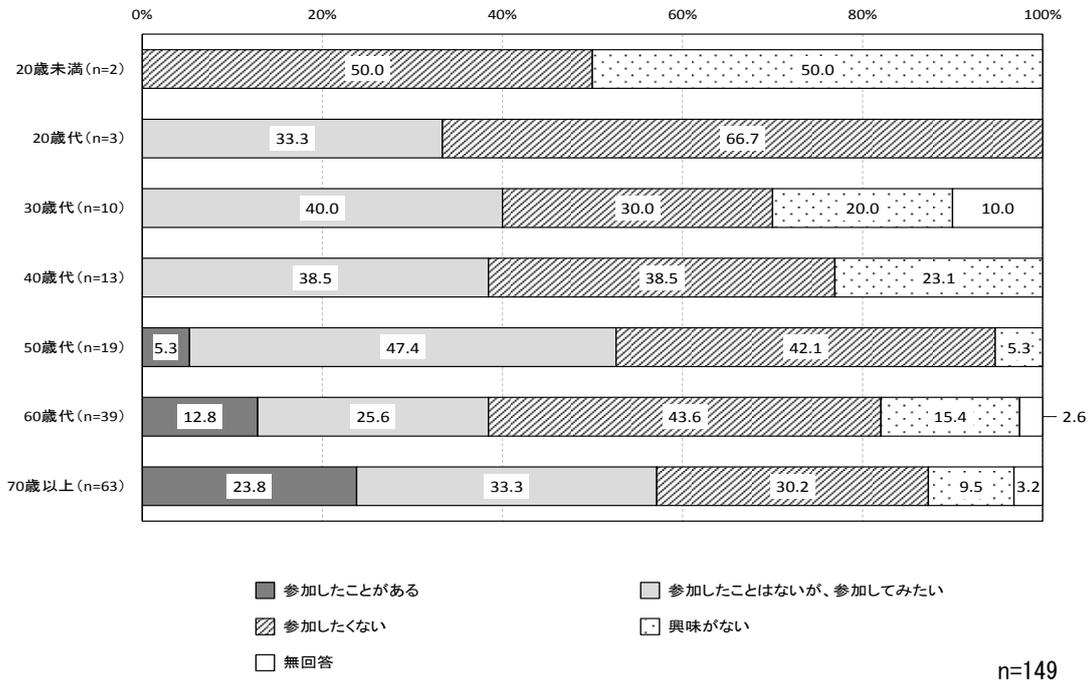
(13) まちづくり円卓会議の認知度について

・「知っている」、「少し知っている」の回答が合わせて、「70歳以上」で52.5%、「60歳代」で44.3%であった。



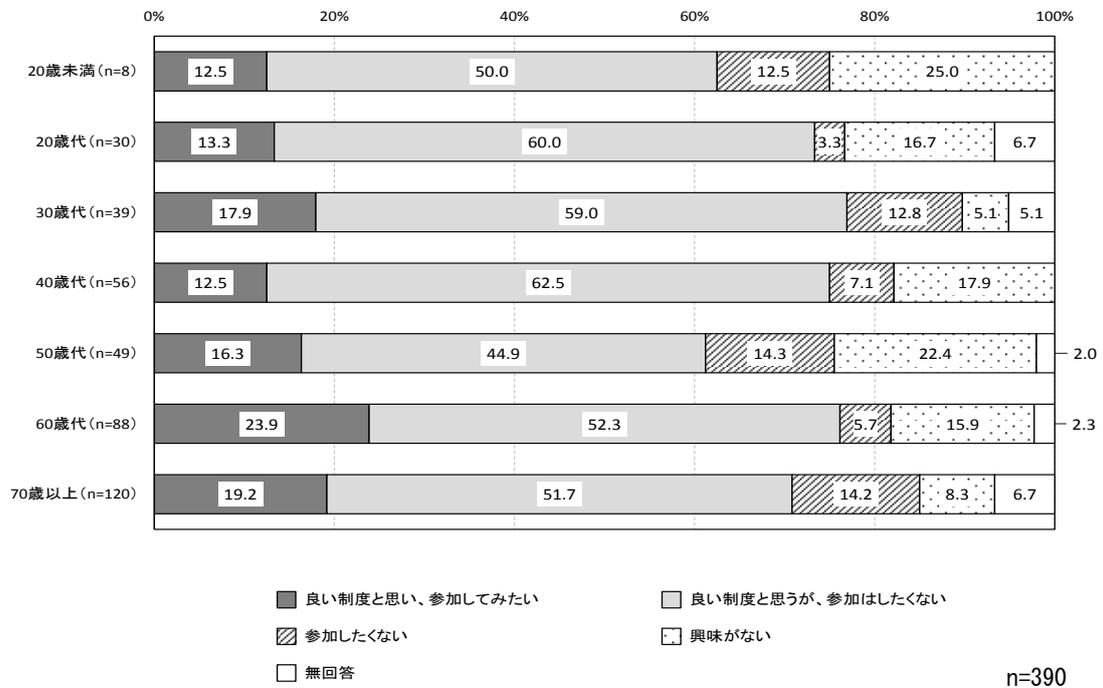
(14) まちづくり円卓会議に参加について

・「参加したことがある」、「参加したことはないが、参加してみたい」の回答が合わせて、「70歳以上」で57.1%、「50歳代」で52.7%であった。



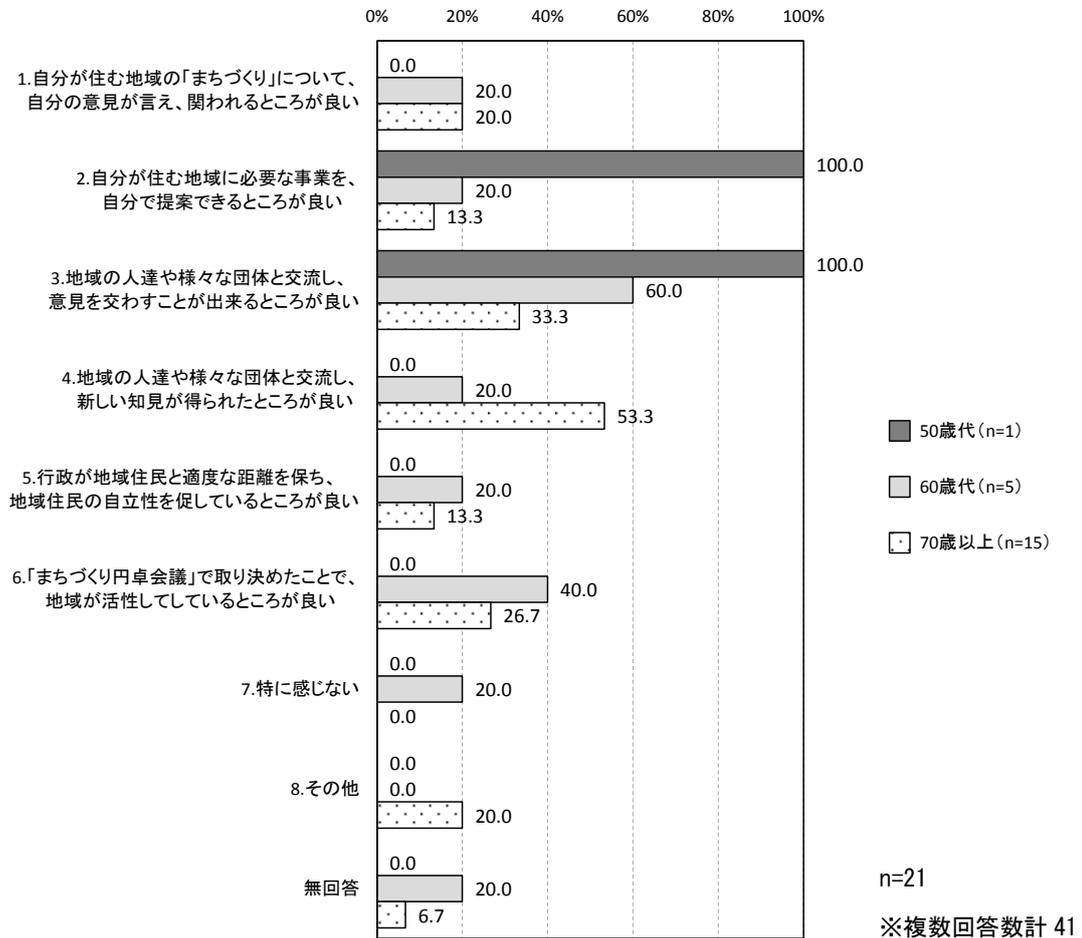
(15) 制度について

・「良い制度と思い、参加してみたい」、「良い制度と思うが、参加はしたくない」の回答が合わせて、「30歳代」で76.9%、「60歳代」で76.2%であった。



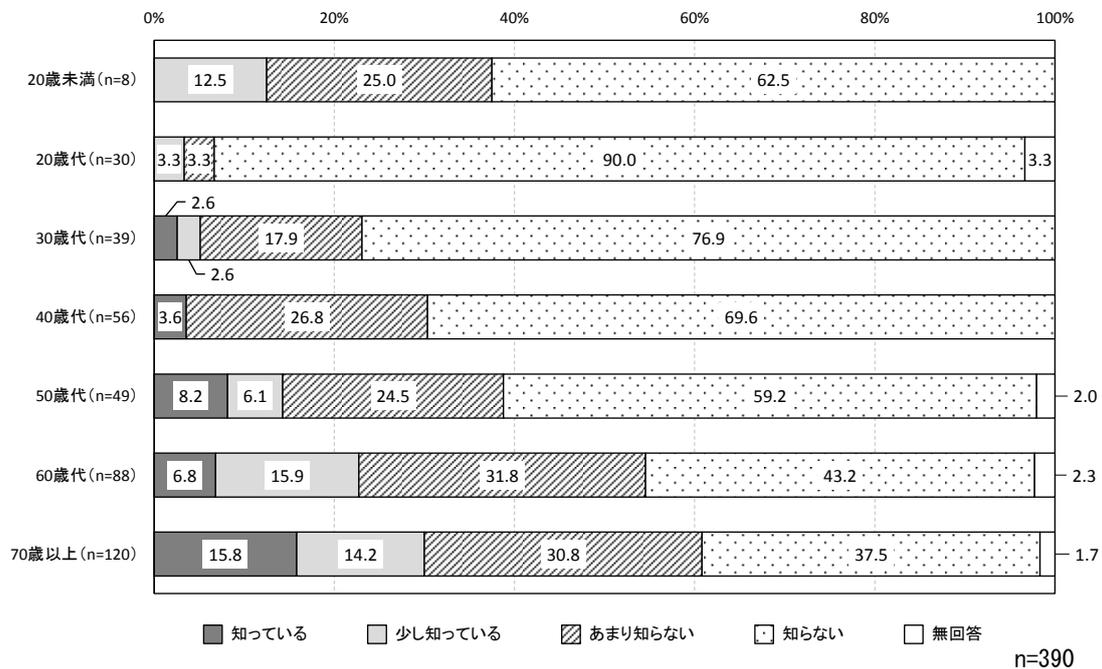
(16) まちづくり円卓会議に参加された感想（複数回答）

・年代別クロス集計では、20歳未満～40歳代での回答はなく、「50歳代」は「2.自分が住む地域に必要な事業を自分で提案できるところが良い」、「3.地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い」の回答で100.0%であった。



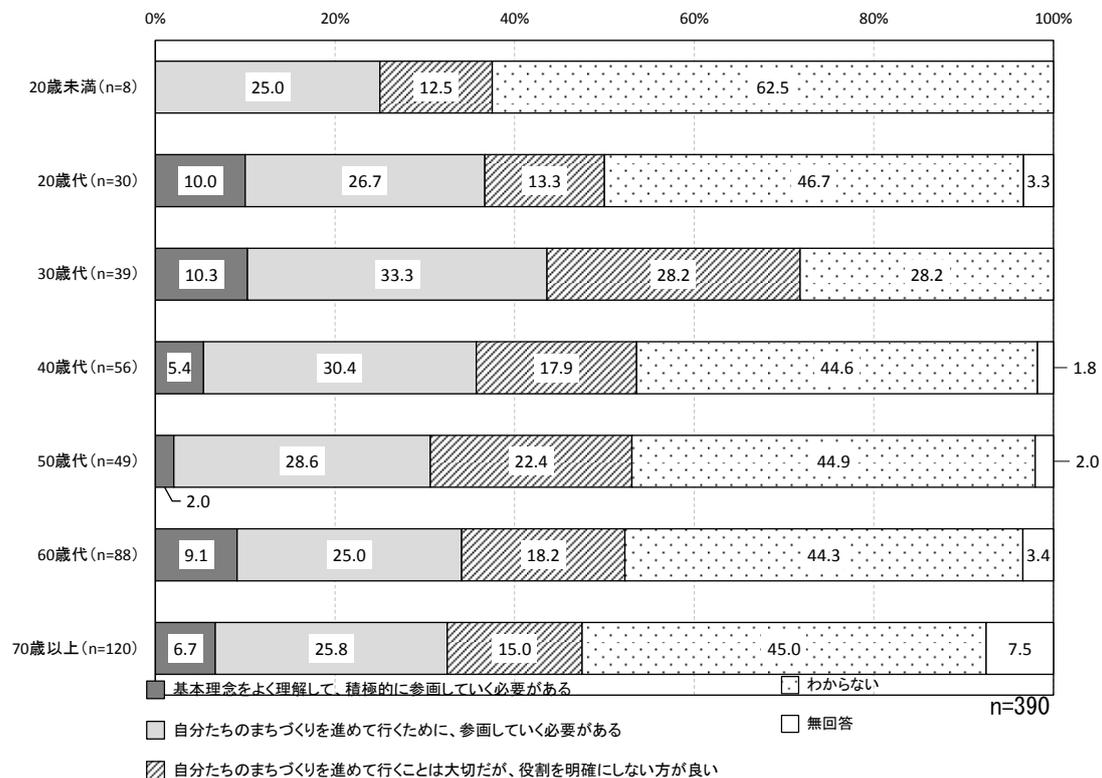
(17) 大阪狭山市まちづくり円卓会議条例の認知度について

・「知っている」、「少し知っている」の回答が合わせて、「70歳以上」で30.0%、「60歳代」で22.7%であった。



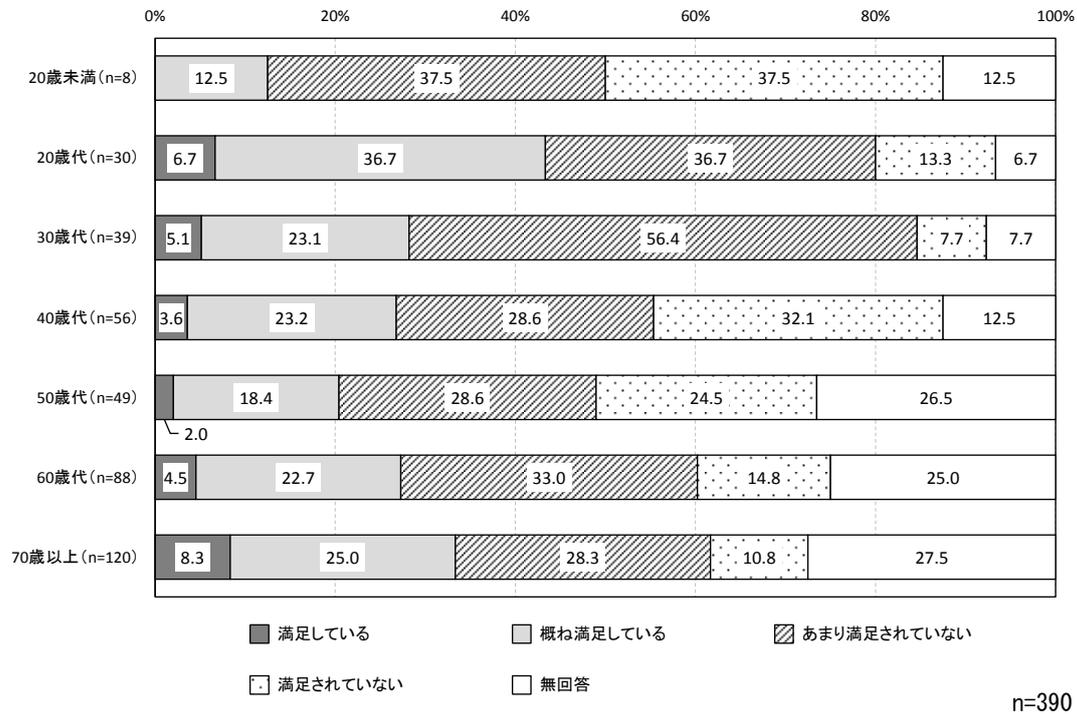
(18) 市民の役割について

・年齢別クロス集計では、「基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある」、「自分たちのまちづくりを進めて行くために、参画していく必要がある」の回答が合わせて「30歳代」で43.6%、「40歳代」が35.8%であった。



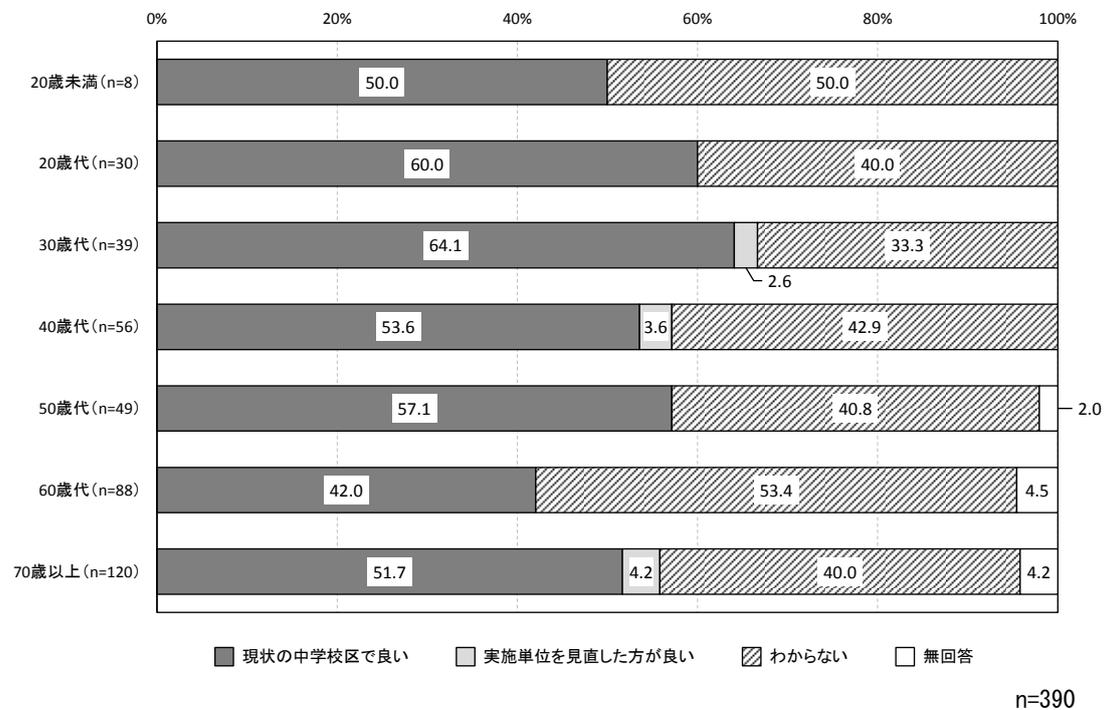
(19) まちづくり円卓会議運用の満足度について

・「満足している」、「概ね満足している」の回答が合わせて、「20歳代」で43.4%、「70歳以上」で33.3%であった。



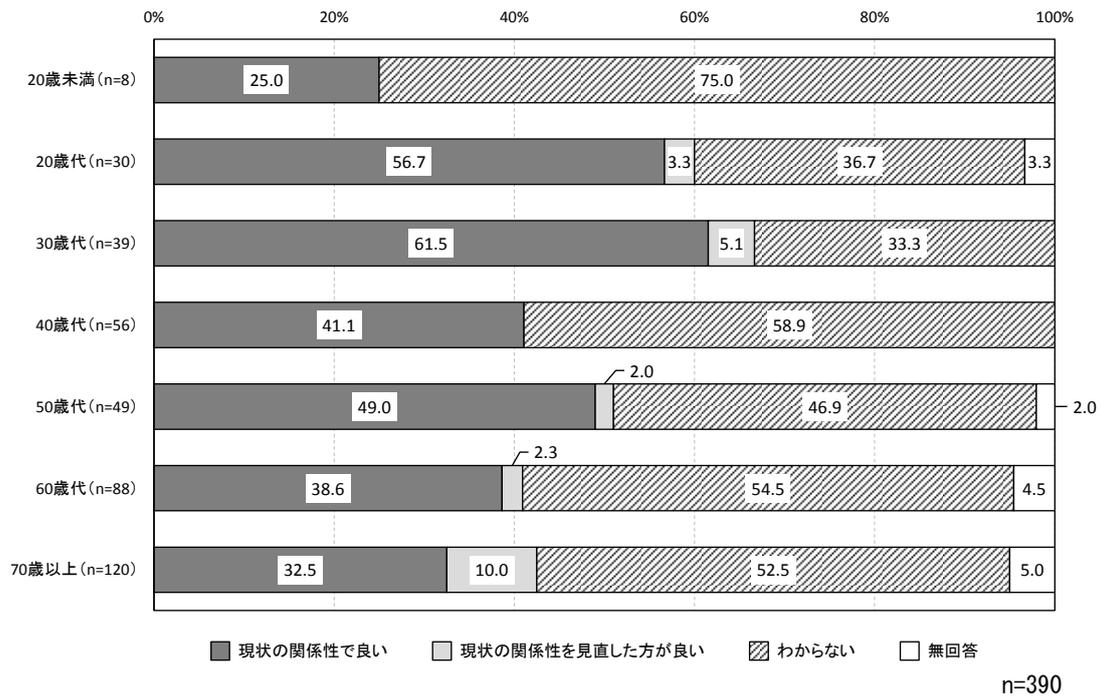
(20) まちづくり円卓会議の実施単位について

・「現状の中学校区で良い」の回答が「30歳代」で64.1%、続いて「20歳代」で60.0%であった。



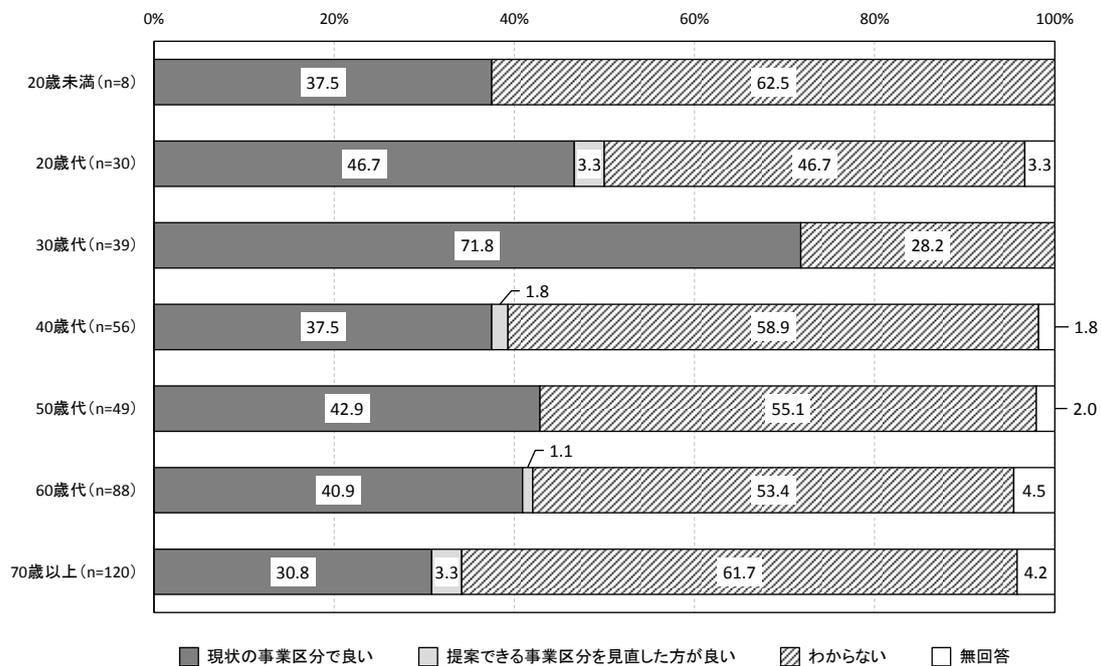
(21) 地域と行政の関係性について

・「現状の関係性で良い」の回答が「30歳代」で61.5%、続いて「20歳代」で56.7%であった。



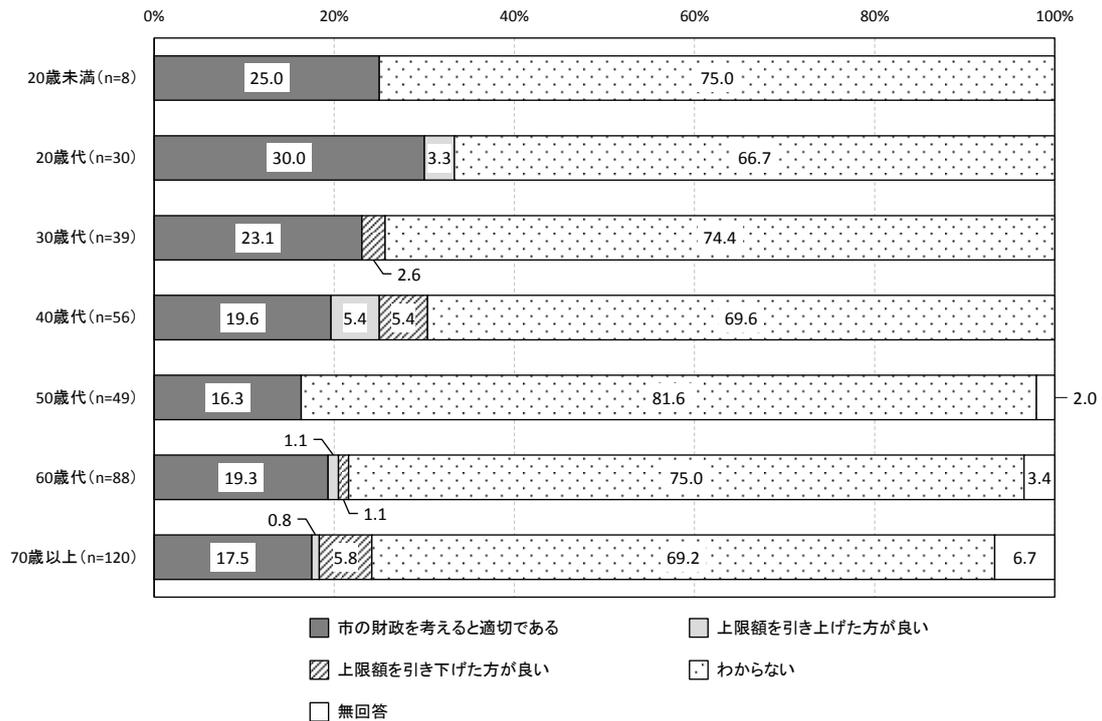
(22) 事業区分について

・「現状の事業区分で良い」の回答が「30歳代」で71.8%、続いて「20歳代」で46.7%であった。



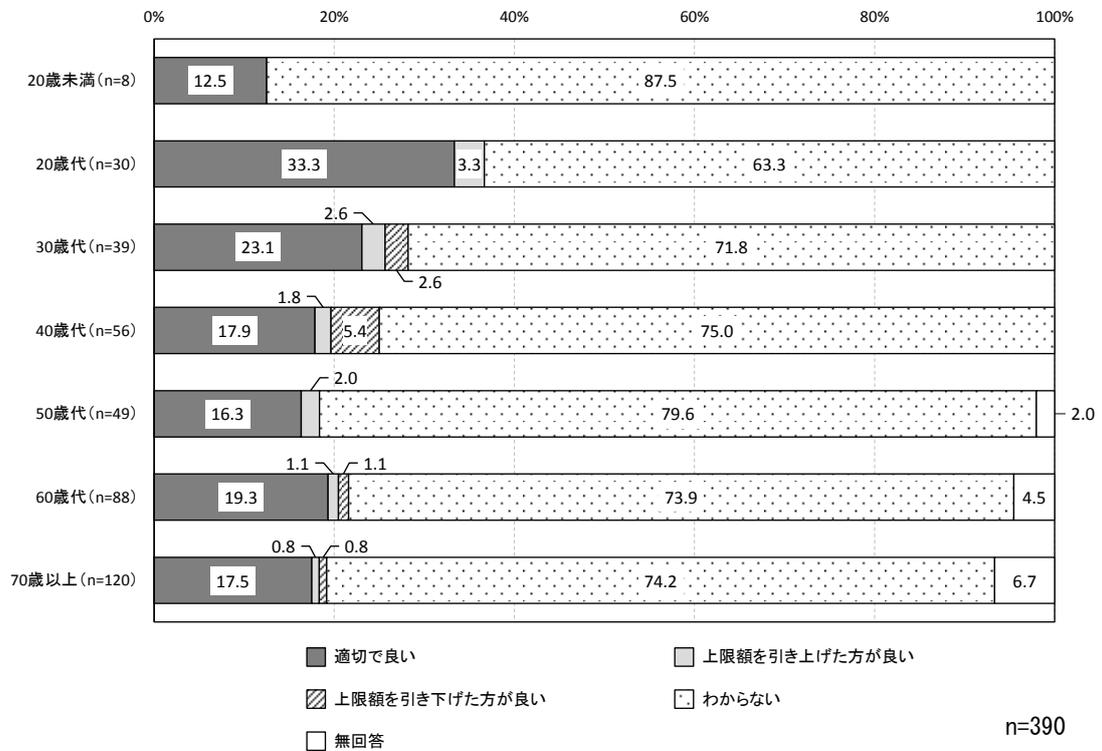
(23) 事業の予算について

・「市の財政を考えると適切である」の回答が「20歳代」で30.0%、続いて「20歳未満」で25.0%であった。



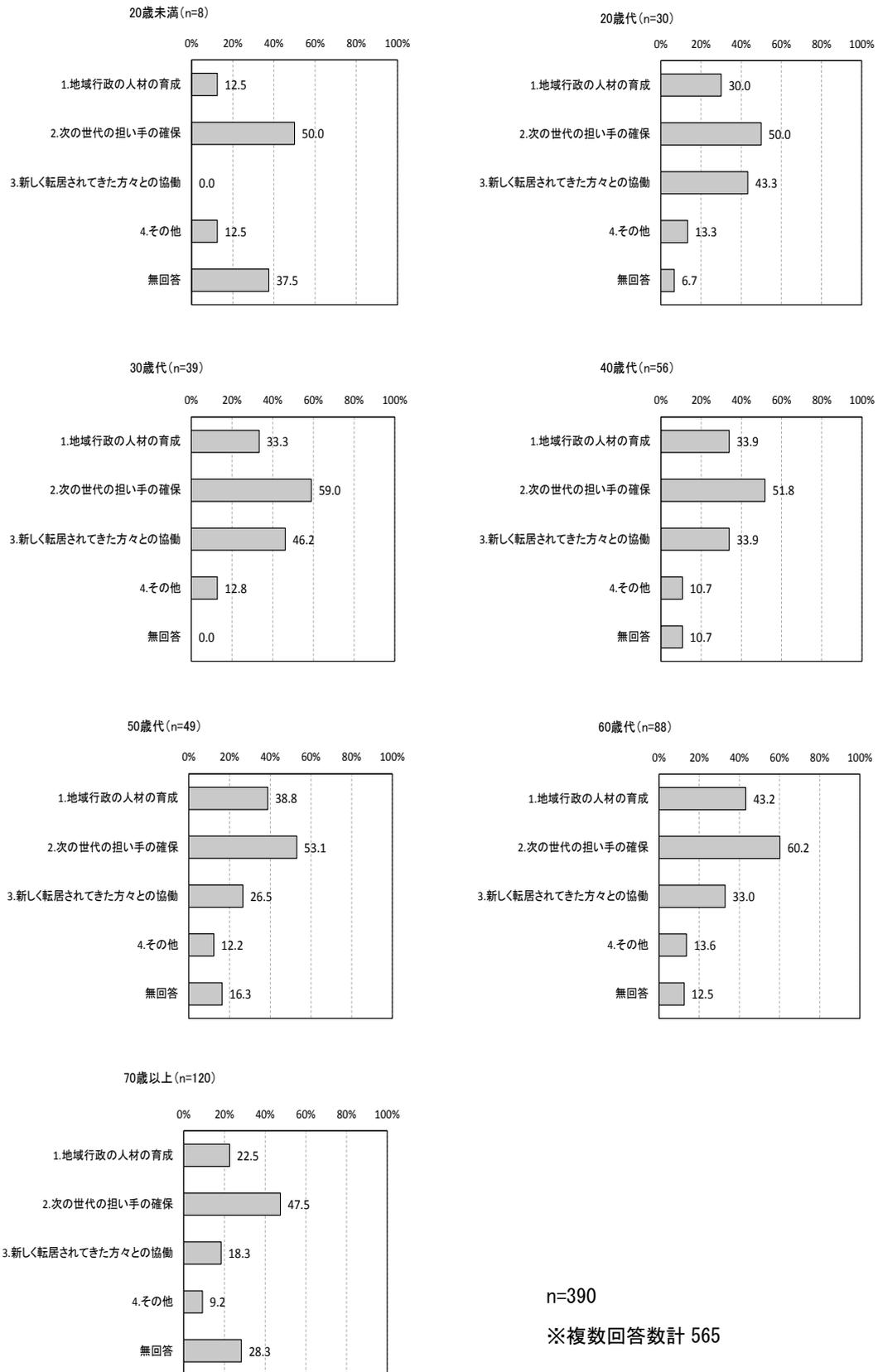
(24) 運営費について

・「適切で良い」の回答が「20歳代」で33.3%、続いて「30歳代」で23.1%であった。



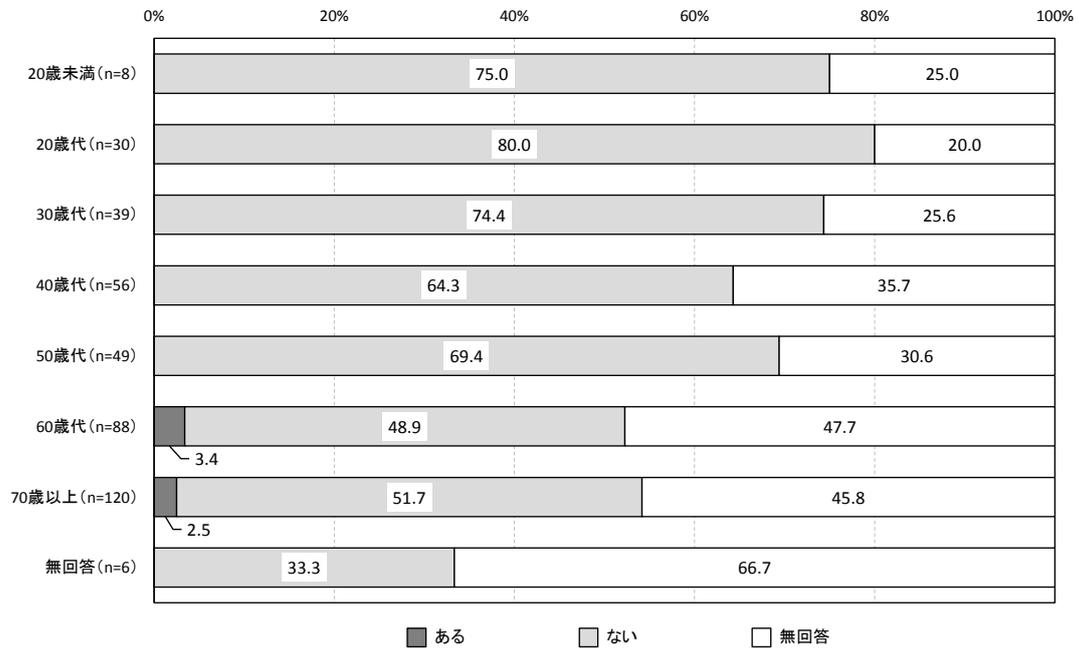
(25) 今後の課題について（複数回答）

・「次の世代の担い手の確保」の回答が「60歳代」で60.2%、続いて「30歳代」で59.0%であった。どの世代も「次の世代の担い手の確保」が今後の課題ととらえている意向があった。



(26) 条文の見直すべき点について

・「ない」の回答は「20歳代」で80.0%、続いて「20歳未満」で75.0%であった。「ある」の回答は「60歳代」で3.4%、「70歳以上」で2.5%であった。



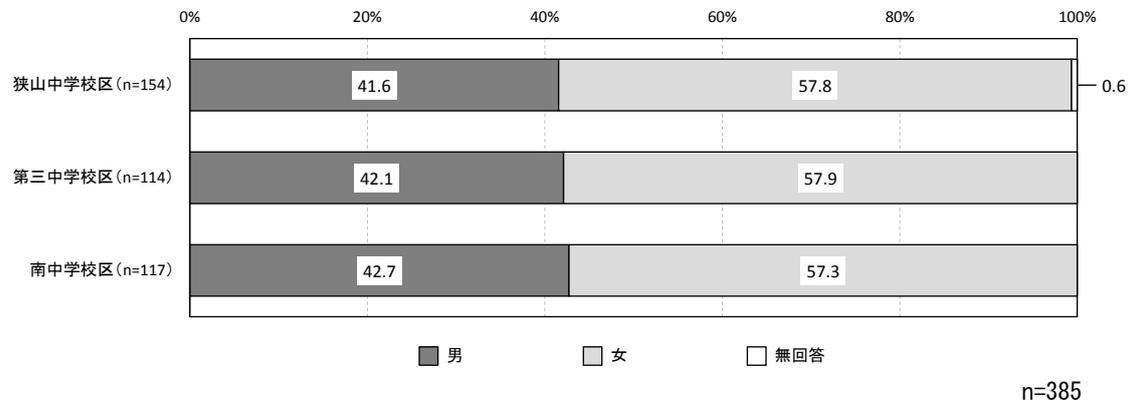
n=396

3 校別クロス集計結果

【アンケート調査回答者の属性等】

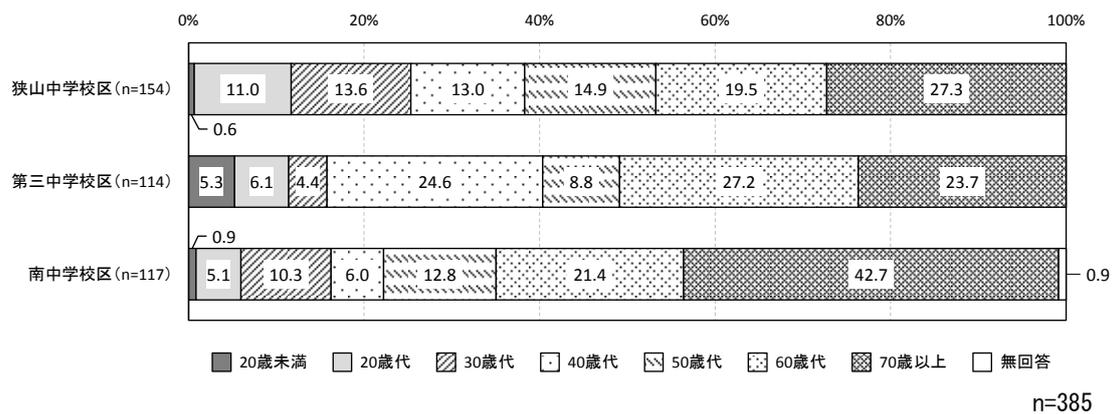
(1) 回答者の性別

・いずれの校区も回答者は男性より女性の方が多い結果となった。



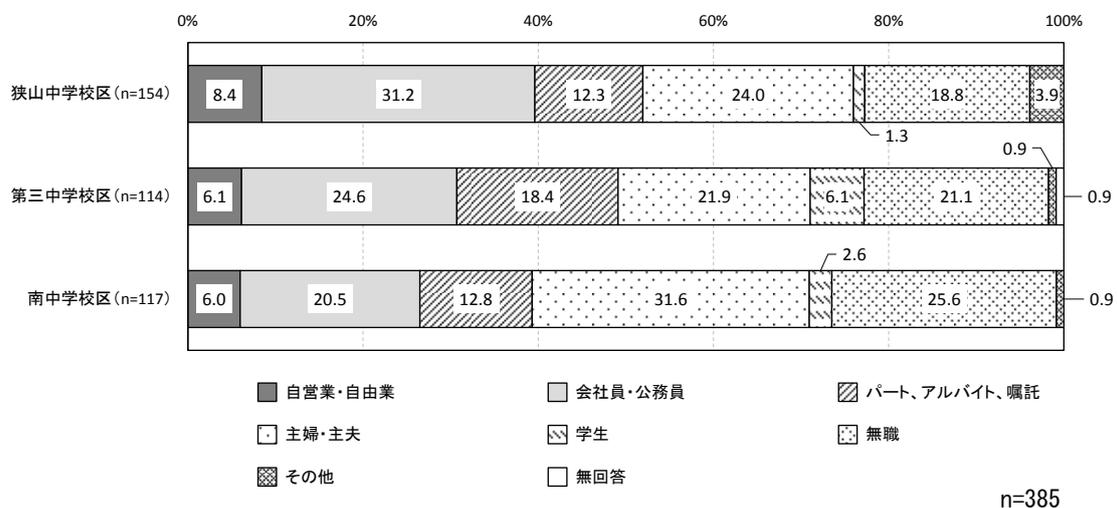
(2) 回答者の年齢

・「狭山中学校区」は「70歳以上」が27.3%、「第三中学校区」は「60歳代」が27.2%、「南中学校区」は「70歳以上」の42.7%の回答であった。



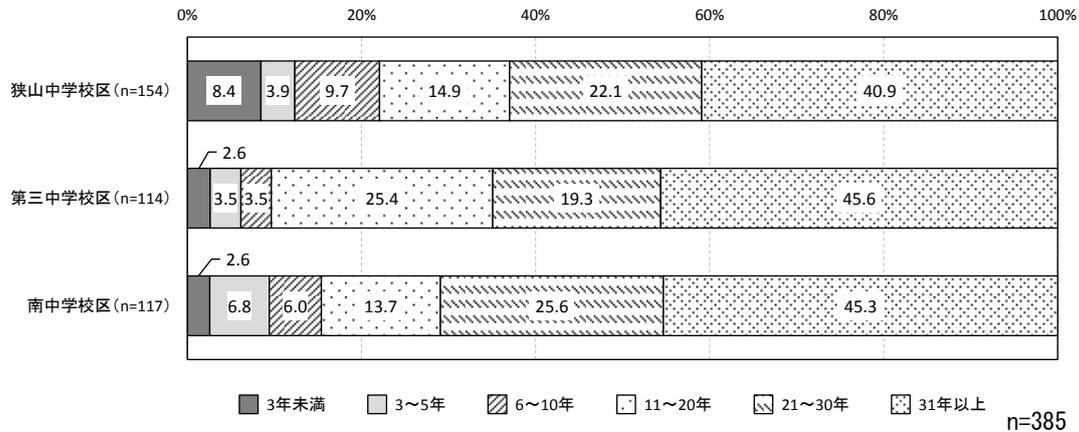
(3) 回答者の職業

・「狭山中学校区」は「会社員・公務員」、「パート、アルバイト、嘱託」、「自営業・自由業」の回答が合わせて51.9%あり、「第三中学校区」の49.1%や「南中学校区」の39.3%に比べて多かった。



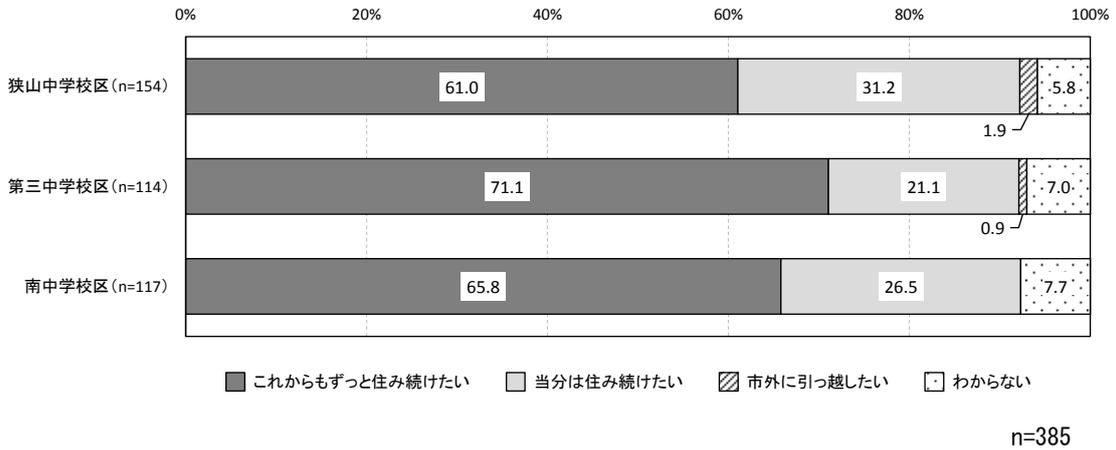
(5) 回答者の居住年数

・狭山中学校区で居住年数10年未満の回答が合わせて22.0%あり、第三中学校区は9.6%、南中学校区は15.4%であった。狭山中学校区では転入されてきた方の割合が多かった。



(6) 回答者がこれからも大阪狭山市に住み続けたいかの意識調査

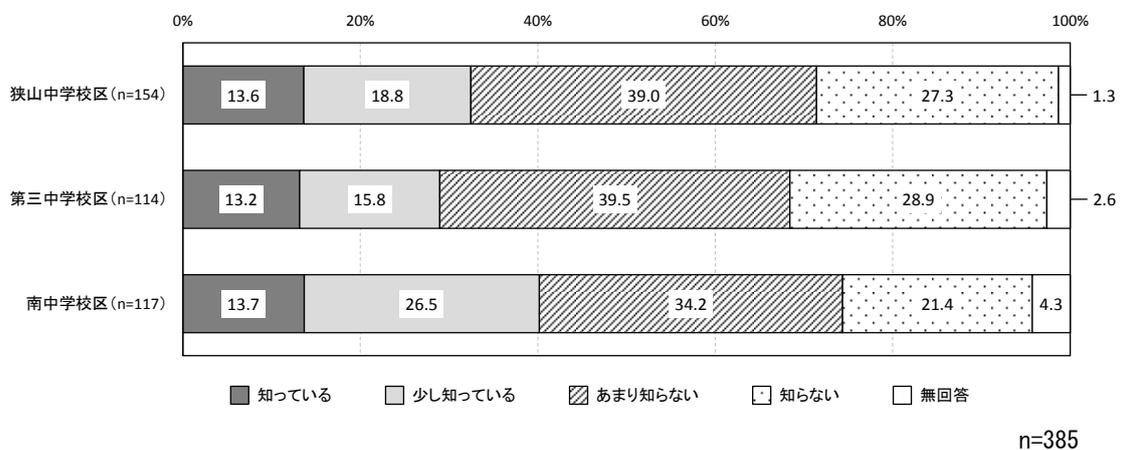
・全ての校区で「これからもずっと住み続けたい」の回答が多かった。



【「市民自治」に対する意識】

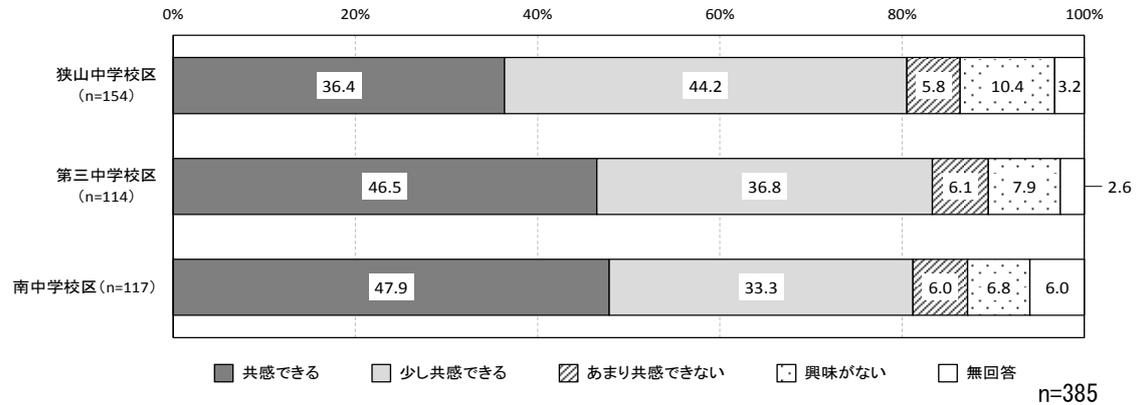
(7) 「市民自治」の取り組みについての周知状況

・「知っている」、「少し知っている」の回答を合わせて、「狭山中学校区」は32.4%、「第三中学校区」は29.0%、「南中学校区」は40.2%の周知状況であった。



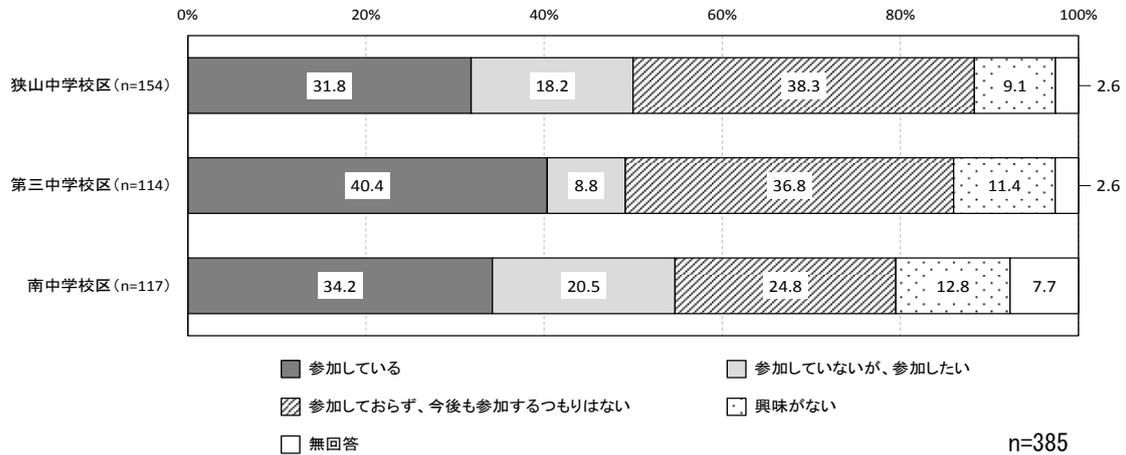
(8) 基本理念について

・「共感できる」、「少し共感できる」の回答が合わせて、「狭山中学校区」で80.6%、「第三中学校区」で83.3%、「南中学校区」で81.2%あり、基本理念について共感できる意向であった。



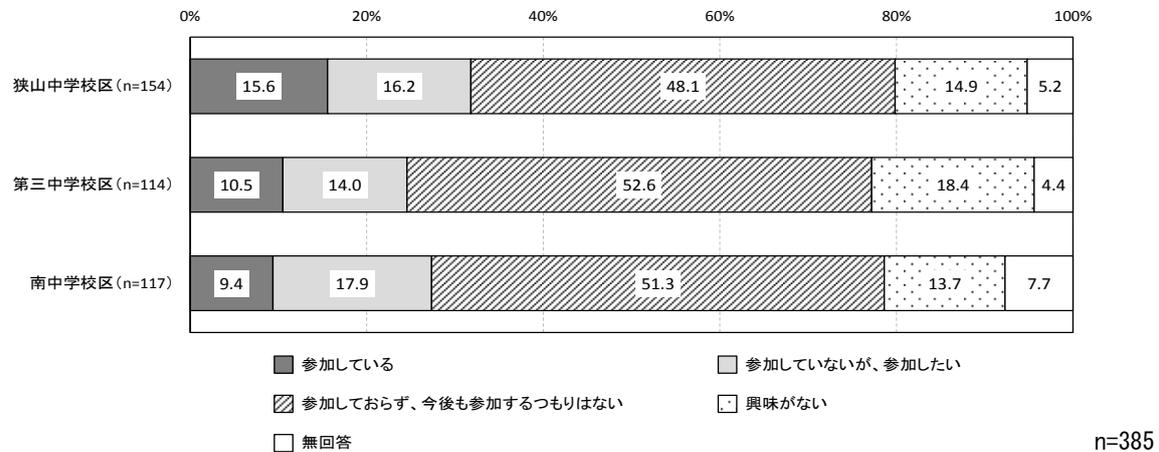
(9) 自治会活動の参加について

・「参加している」、「参加していないが、参加したい」の回答が合わせて、「狭山中学校区」で50.0%、「第三中学校区」で49.2%、「南中学校区」で54.7%あり、自治会活動に参加意向であった。



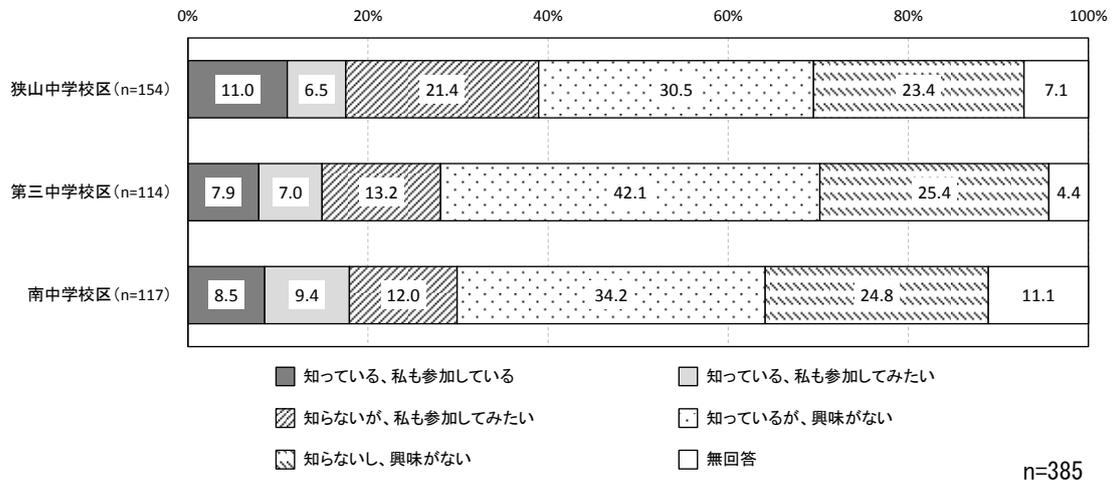
(10) 地域の組織の活動参加状況について

・「参加している」、「参加していないが、参加したい」の回答が合わせて、「狭山中学校区」で31.8%、「第三中学校区」で24.5%、「南中学校区」で27.3%あり、地域の組織の活動に参加意向であった。



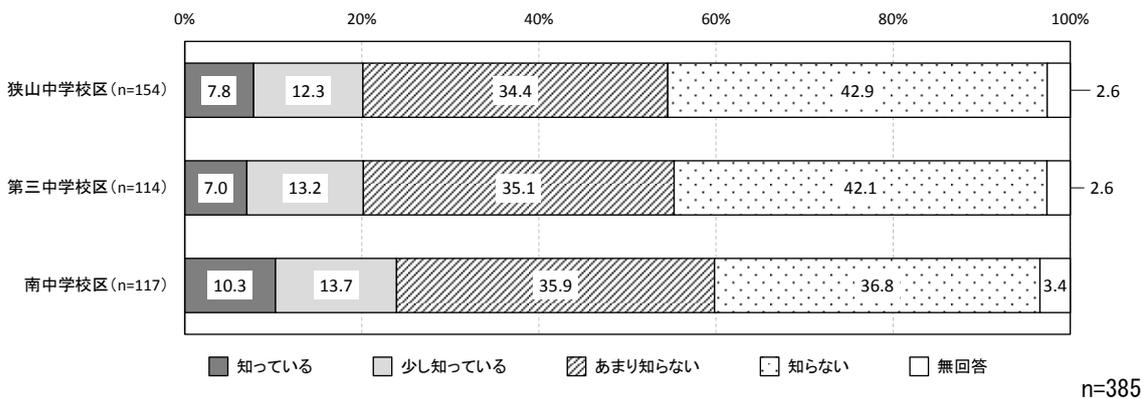
(11) まちづくりへの自主的な取り組みについて

・「知っている、私も参加している」、「知っている、私も参加してみたい」、「知らないが、私も参加してみたい」の回答が合わせて「狭山中学校区」で38.9%、「第三中学校区」で28.1%、「南中学校区」で29.9%あり、まちづくりへの自主的な取り組みに参加意向であった。



(12) 大阪狭山市自治基本条例の認知度について

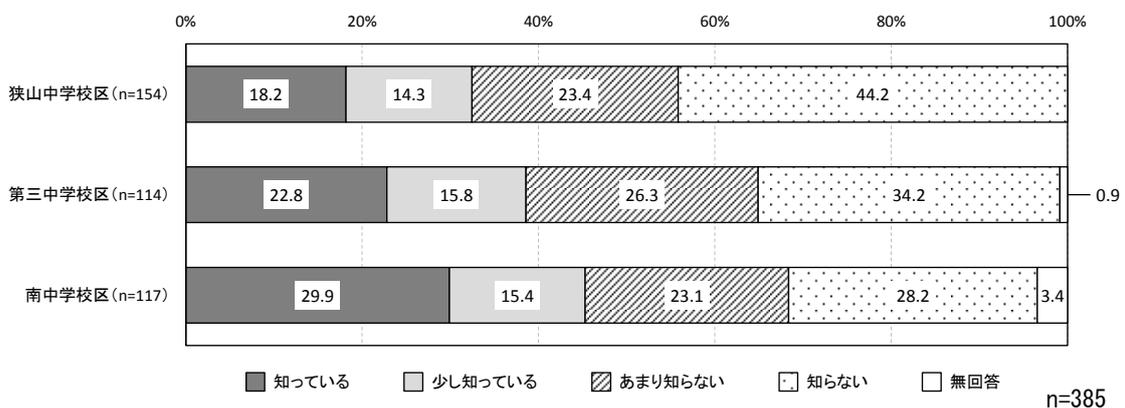
・「知っている」、「少し知っている」の回答が合わせて「狭山中学校区」で20.1%、「第三中学校区」で20.2%、「南中学校区」で24.0%の認知度であった。



【「まちづくり円卓会議」に対する意識】

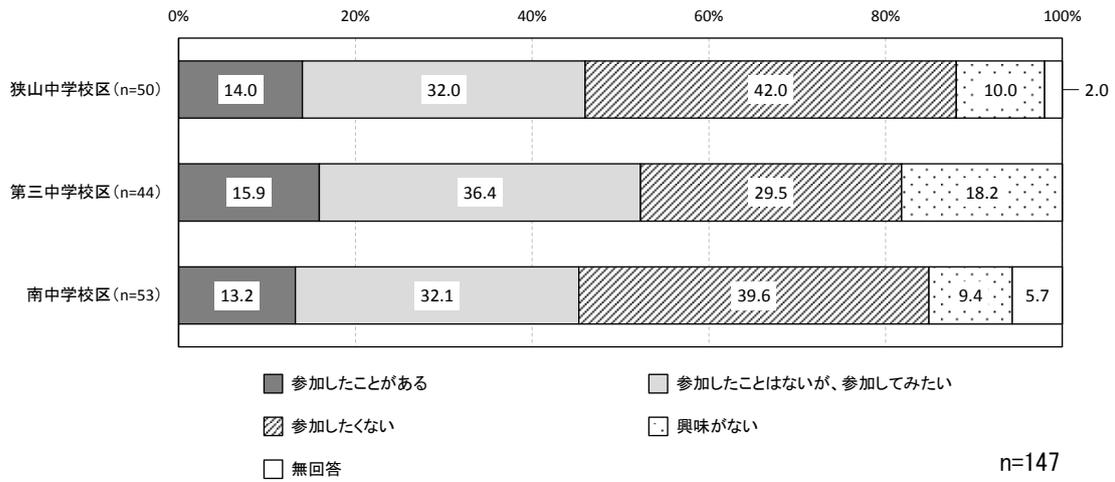
(13) まちづくり円卓会議の認知度について

・「知っている」、「少し知っている」の回答が合わせて「狭山中学校区」で32.5%、「第三中学校区」で38.6%、「南中学校区」で45.3%の認知度であった。



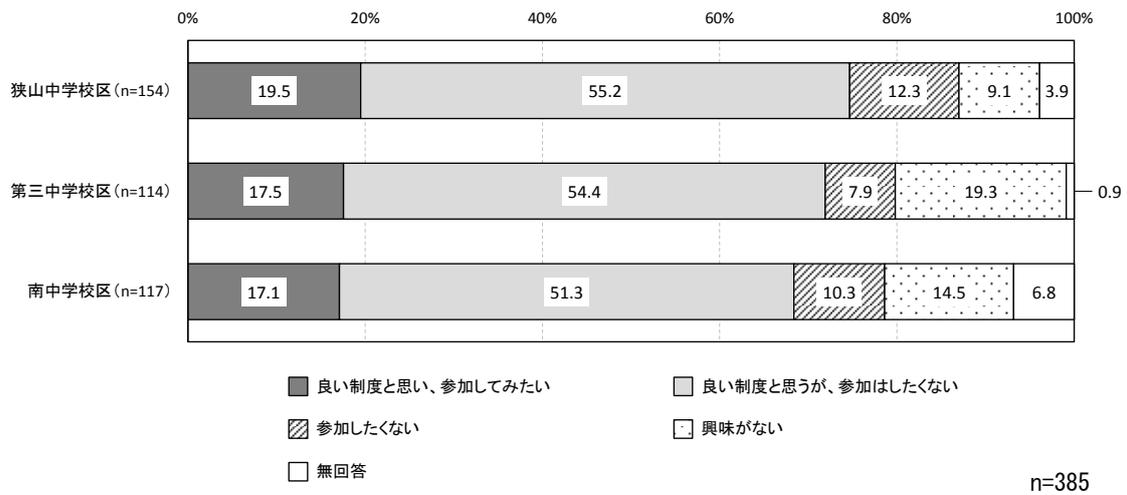
(14) まちづくり円卓会議に参加について

・「参加したことがある」、「参加したことはないが、参加してみたい」の回答が合わせて「狭山中学校区」で46.0%、「第三中学校区」で52.3%、「南中学校区」で45.3%のまちづくり円卓会議に参加意向であった。



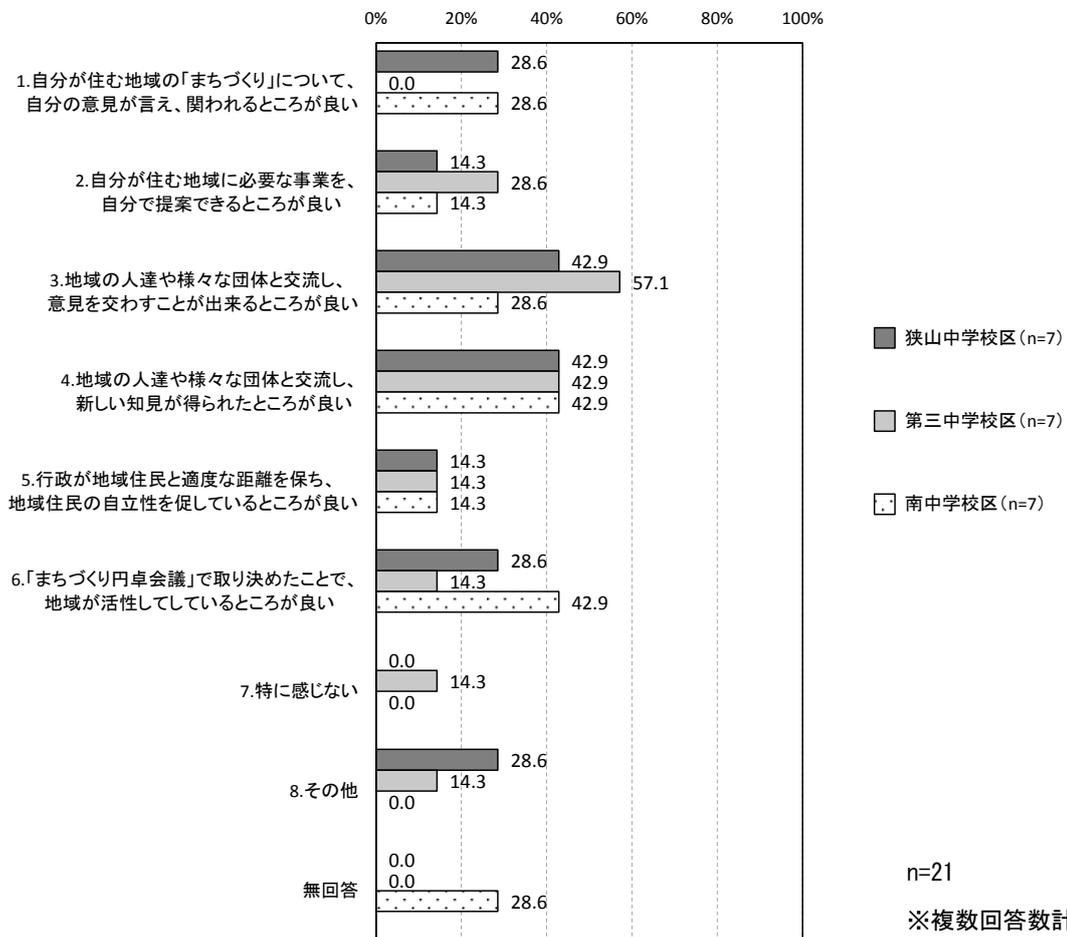
(15) 制度について

・「良い制度と思い、参加してみたい」、「良い制度と思うが、参加したくない」の回答が合わせて「狭山中学校区」で74.7%、「第三中学校区」で71.9%、「南中学校区」で68.4%の制度について良いと思う意向であった。



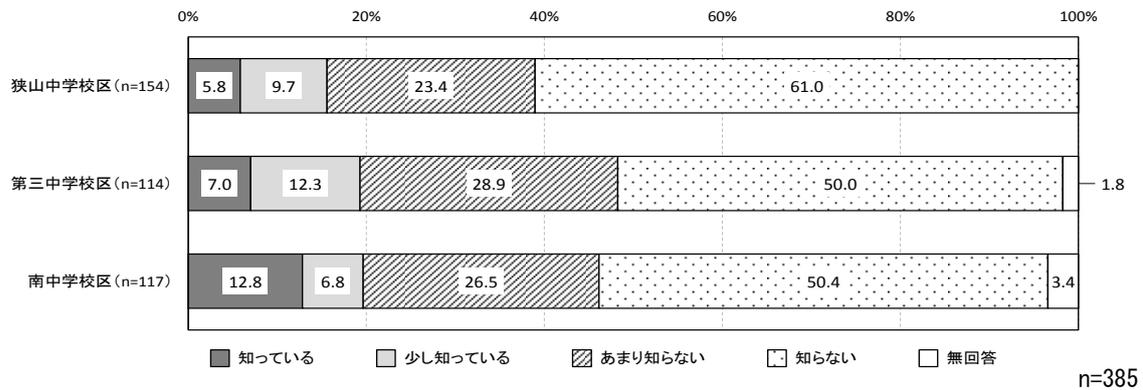
(16) まちづくり円卓会議に参加された感想（複数回答）

・「3. 地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い」の回答が「狭山中学校区」で42.9%、「第三中学校区」で57.1%、「南中学校区」で28.6%であった。



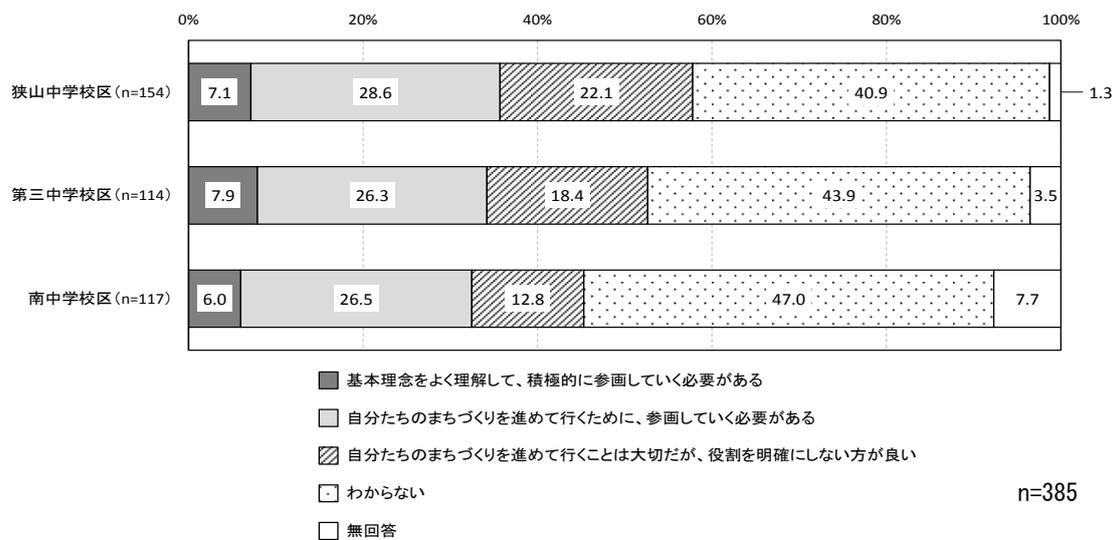
(17) 大阪狭山市まちづくり円卓会議条例の認知度について

・「知っている」、「少し知っている」の回答が合わせて、「狭山中学校区」で15.5%、「第三中学校区」で19.3%、「南中学校区」で19.6%の認知度であった。



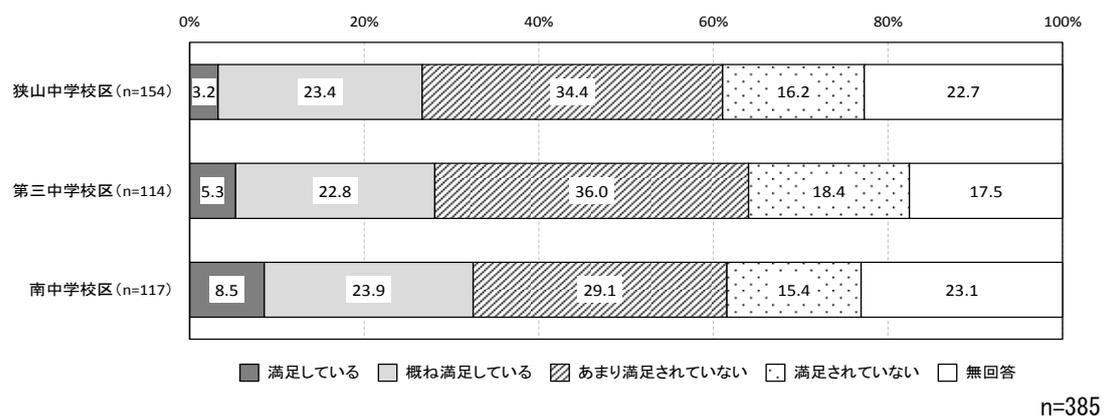
(18) 市民の役割について

・「基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある」、「自分たちのまちづくりを進めて行くために、参画していく必要がある」の回答が合わせて、「狭山中学校区」で35.7%、「第三中学校区」で34.2%、「南中学校区」で32.5%であった。



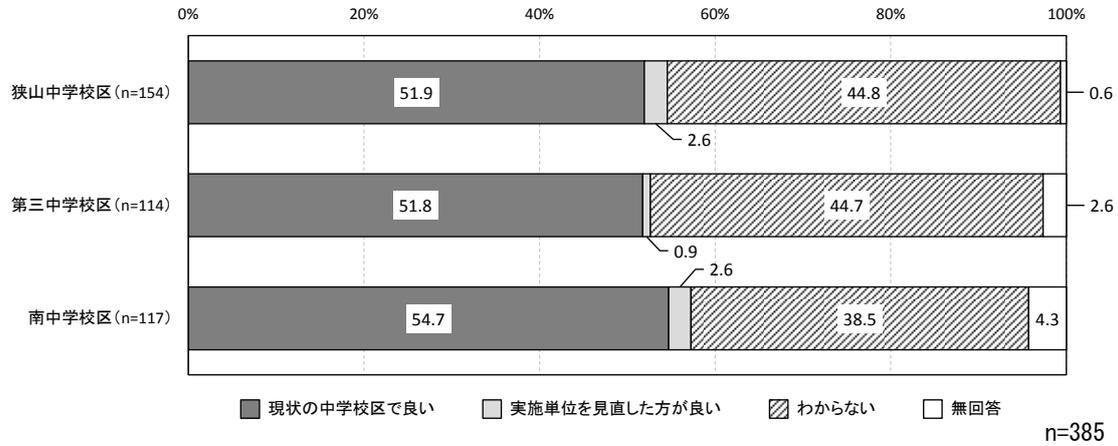
(19) まちづくり円卓会議運用の満足度について

・「満足している」、「概ね満足している」の回答が合わせて「狭山中学校区」で26.6%、「第三中学校区」で28.1%、「南中学校区」で32.4%であり、まちづくり円卓会議運用について満足している意向であった。



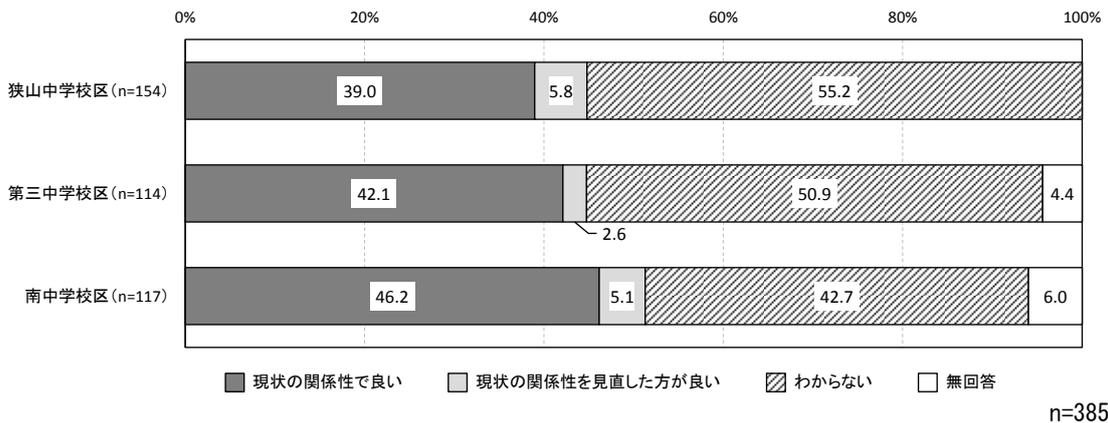
(20) まちづくり円卓会議の実施単位について

・「現状の中学校区で良い」の回答が、「狭山中学校区」で51.9%、「第三中学校区」で51.8%、「南中学校区」で54.7%であった。



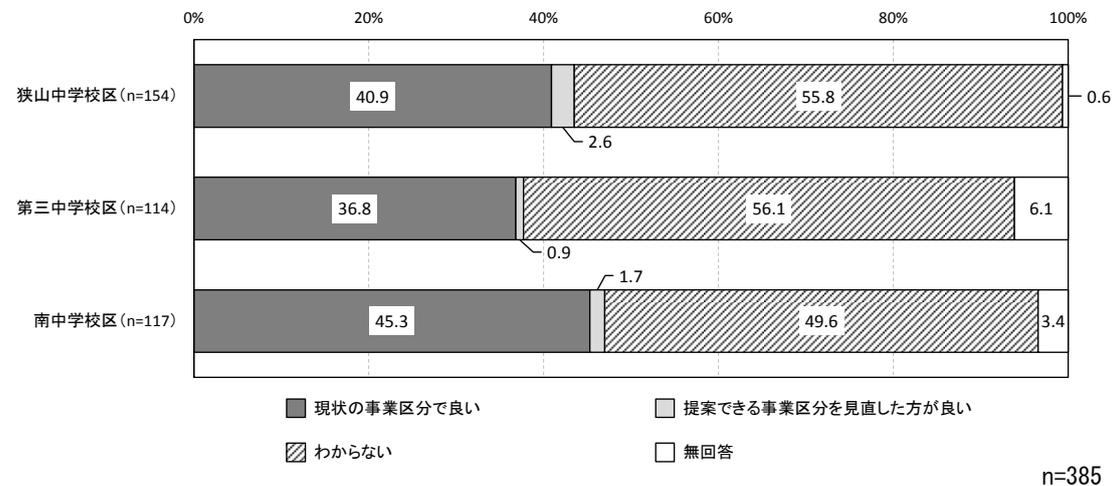
(21) 地域と行政の関係性について

・「現状の関係性で良い」の回答が「狭山中学校区」で39.0%、「第三中学校区」で42.1%、「南中学校区」で46.2%であった。



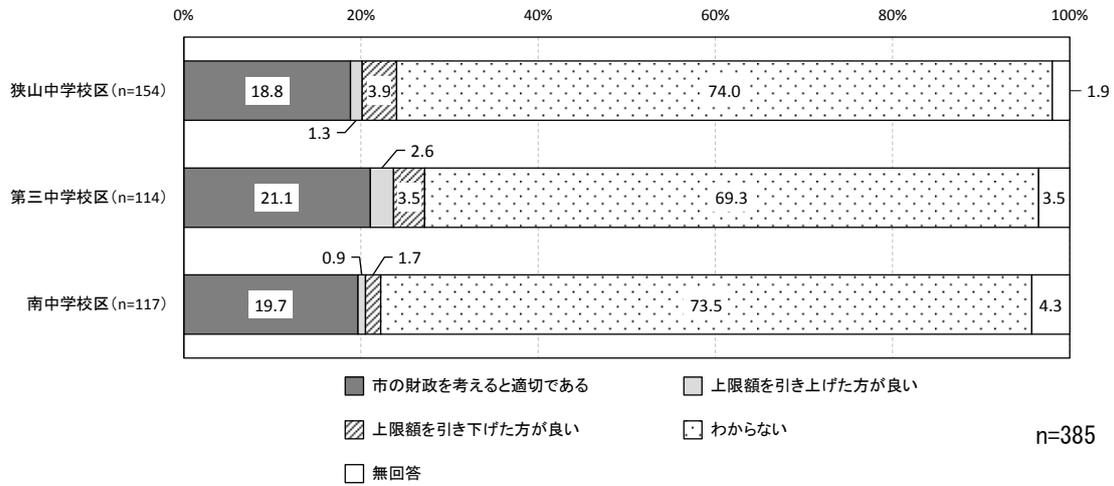
(22) 事業区分について

・「現状の事業区分で良い」の回答が「狭山中学校区」で40.9%、「第三中学校区」で36.8%、「南中学校区」で45.3%であった。



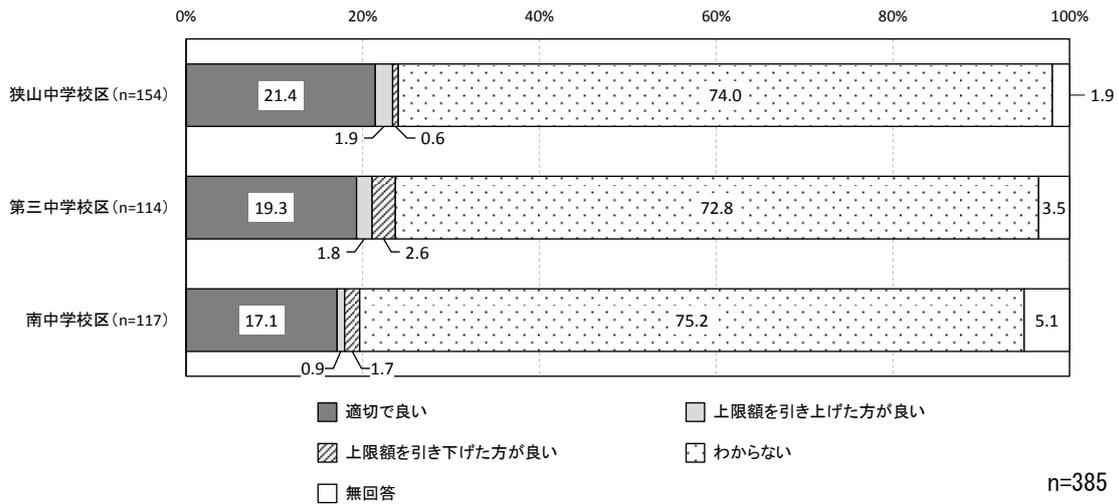
(23) 事業の予算について

・「市の財政を考えると適切である」の回答が「狭山中学校区」で18.8%、「第三中学校区」で21.1%、「南中学校区」で19.7%であった。



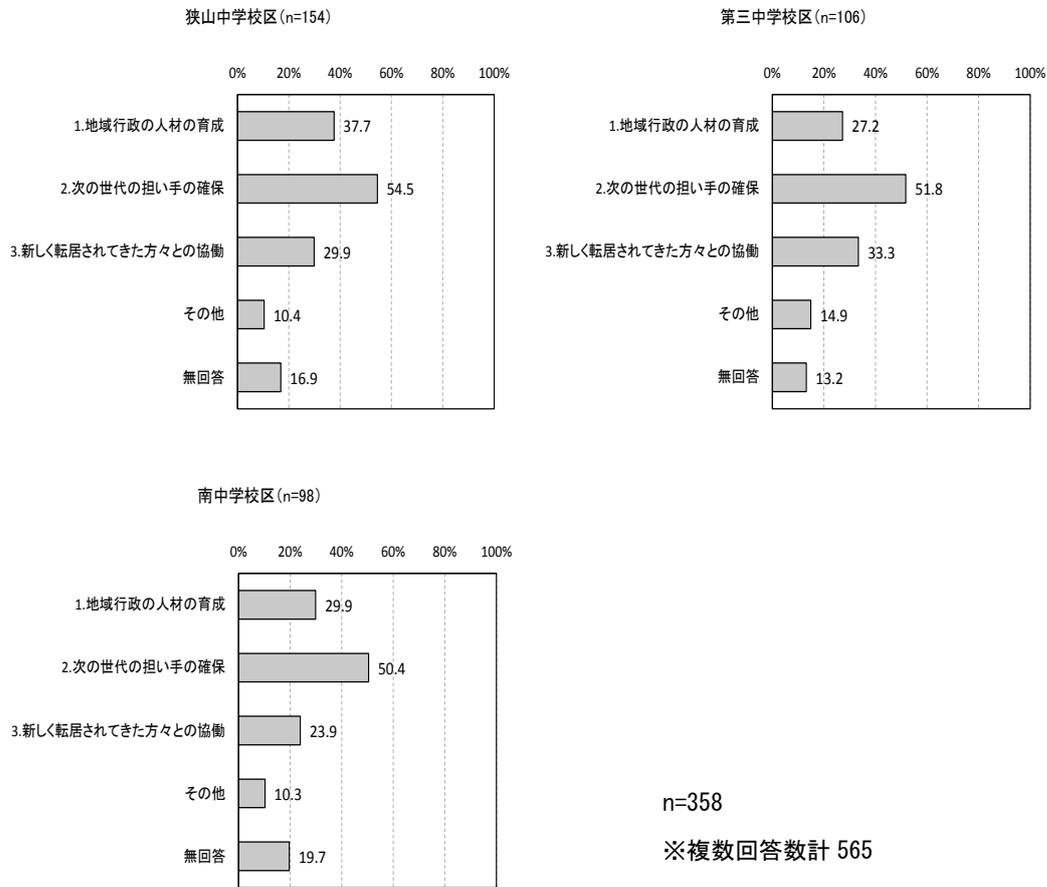
(24) 運営費について

・「適切で良い」の回答が「狭山中学校区」で21.4%、「第三中学校区」で19.3%、「南中学校区」で17.1%であった。



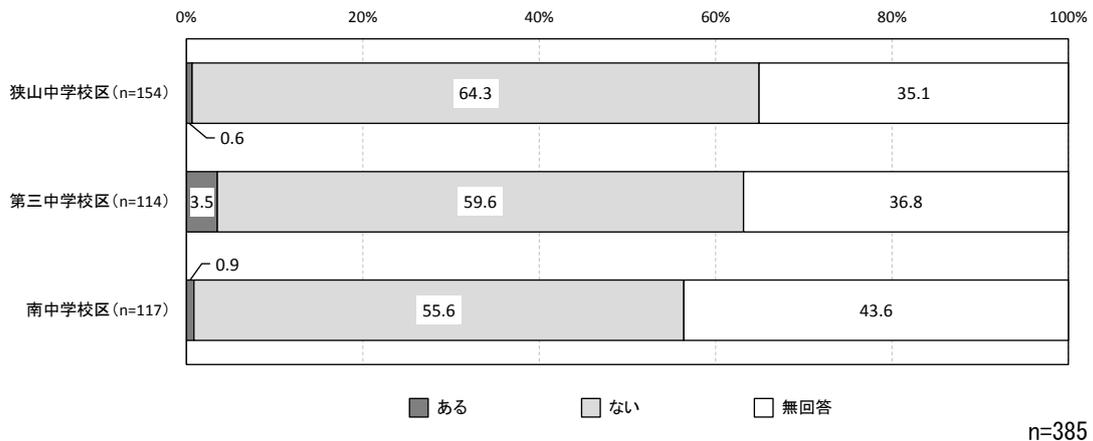
(25) 今後の課題について（複数回答）

・「次の世代の担い手の確保」の回答が「狭山中学校区」で54.5%、「第三中学校区」で51.8%、「南中学校区」で50.4%であった。全ての校区で「次の世代の担い手の確保」が今後の課題という意向が多かった。



(26) 条文の見直すべき点について

・「ない」の回答は「狭山中学校区」で64.3%、「第三中学校区」で59.6%、「南中学校区」で55.6%であり、「ある」の回答は「狭山中学校区」で0.6%、「第三中学校区」で3.5%、「南中学校区」で0.9%であった。

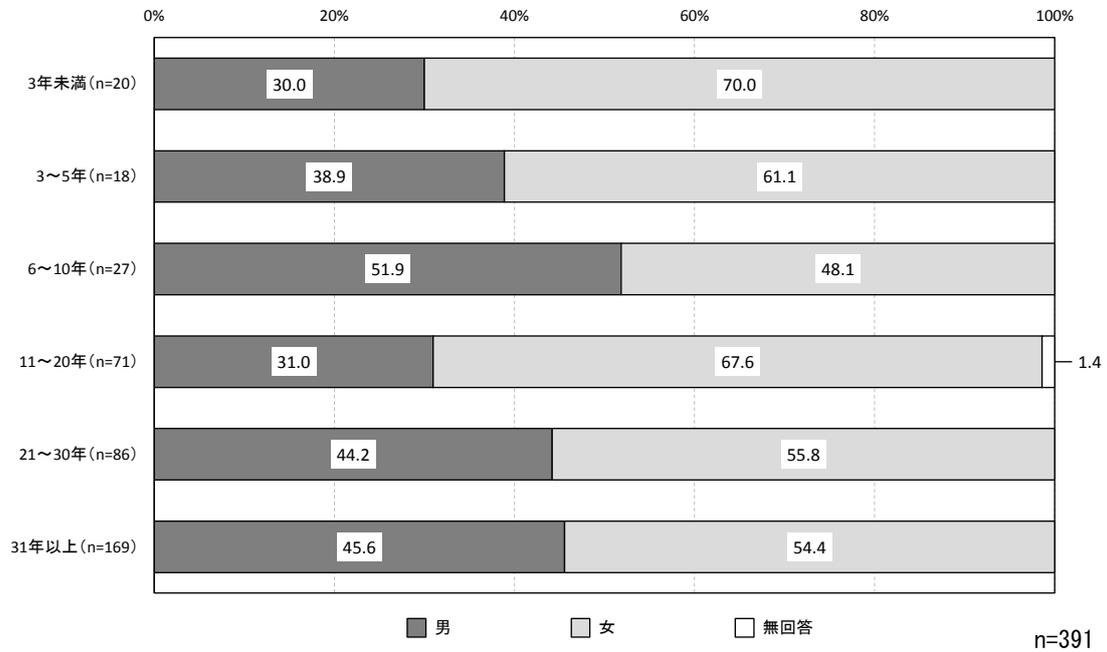


4 居住年数別クロス集計結果

【アンケート調査回答者の属性等】

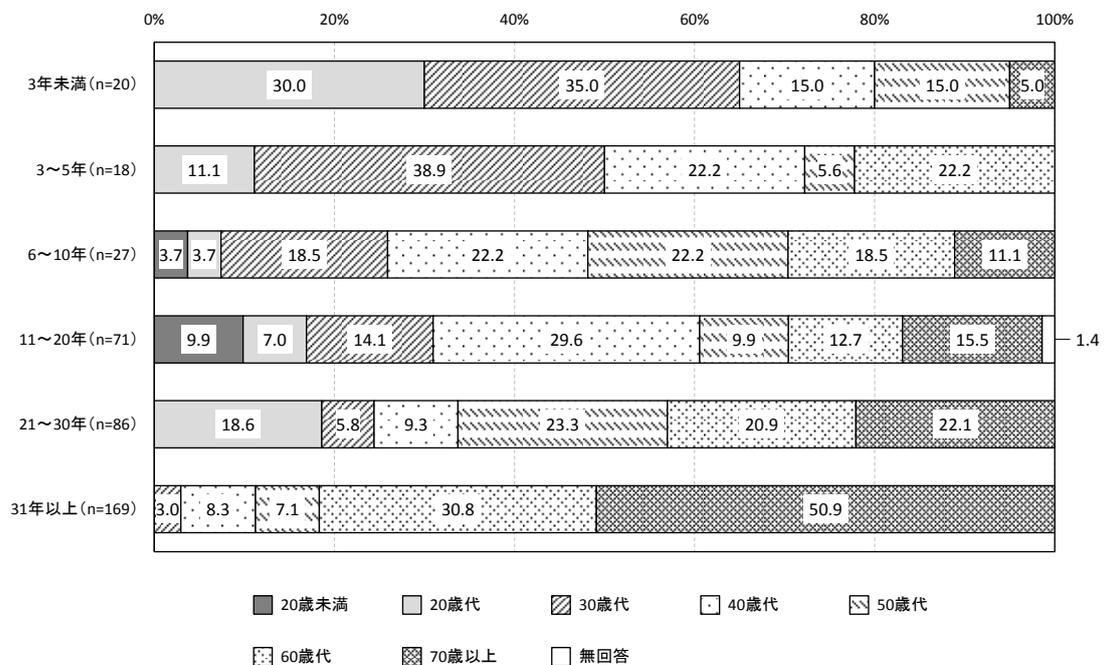
(1) 回答者の性別

・「6～10年」の回答は女性より男性の方が多かったが、他の居住年数の回答は男性より女性の回答者が多かった。



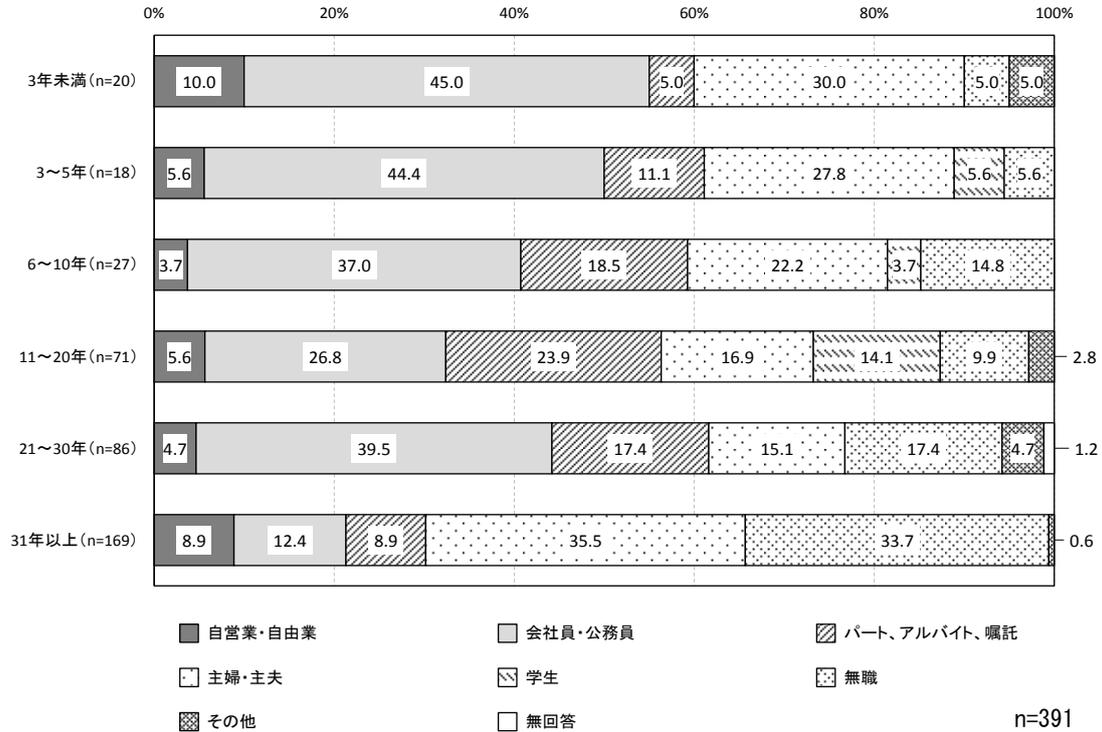
(2) 回答者の年齢

・「3年未満」、「3～5年」の回答は「20歳代」、「30歳代」が多く、「31年以上」の回答は「60歳代」、「70歳以上」が多かった。



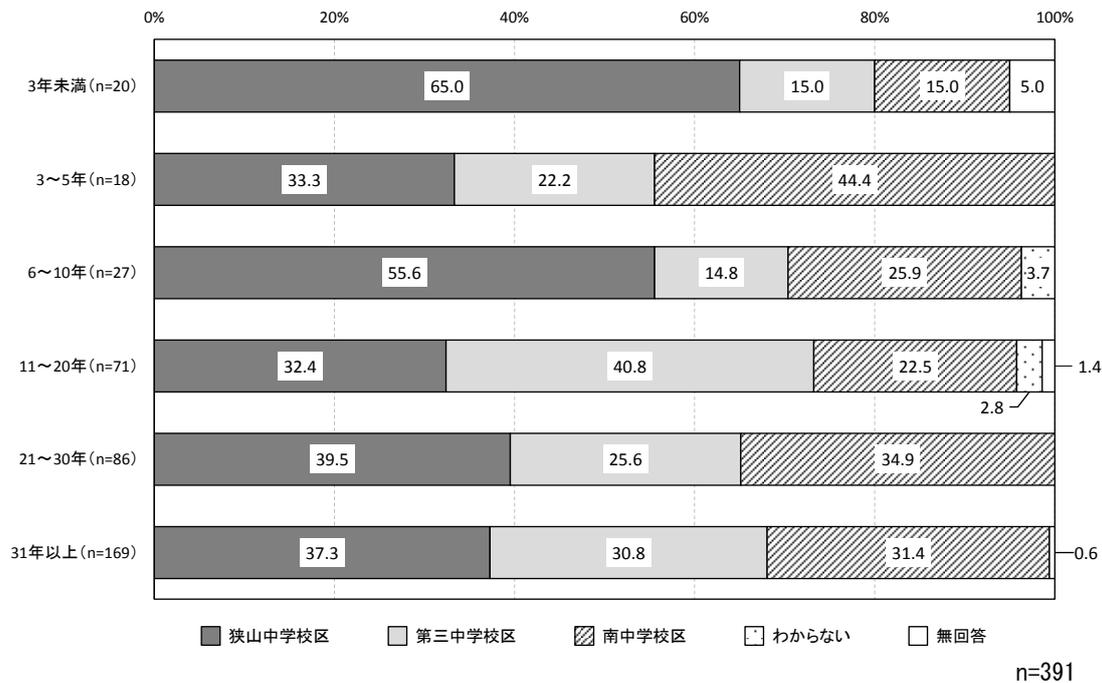
(3) 回答者の職業

・居住年数が30年未満の回答は、「会社員・公務員」、「パート、アルバイト、嘱託」、「自営業・自由業」の回答を合わせて、それぞれ60%前後あった。



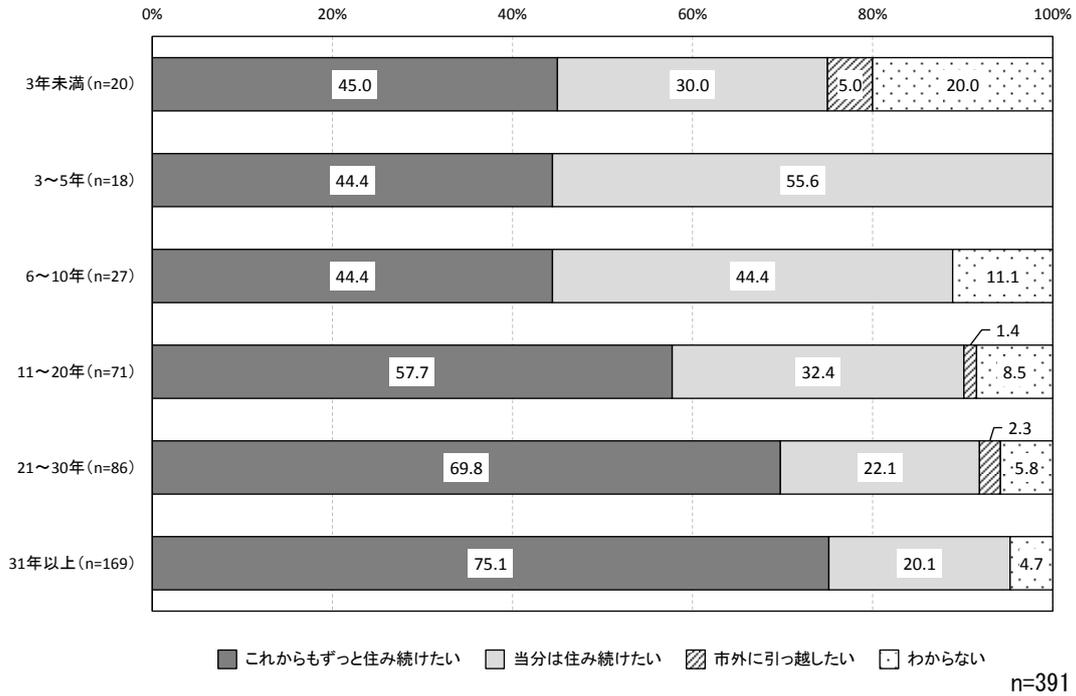
(4) 回答者の中学校校区

・「狭山中学校区」で「3年未満」の回答が65.0%あり、続いて「6~10年」の回答が55.6%であった。
 ・「狭山中学校区」では、3年以内に新しく転入してきた方が「第三中学校区」や「南中学校区」に比べて多いと考えられる。



(6) 回答者がこれからも大阪狭山市に住み続けたいかの意識調査

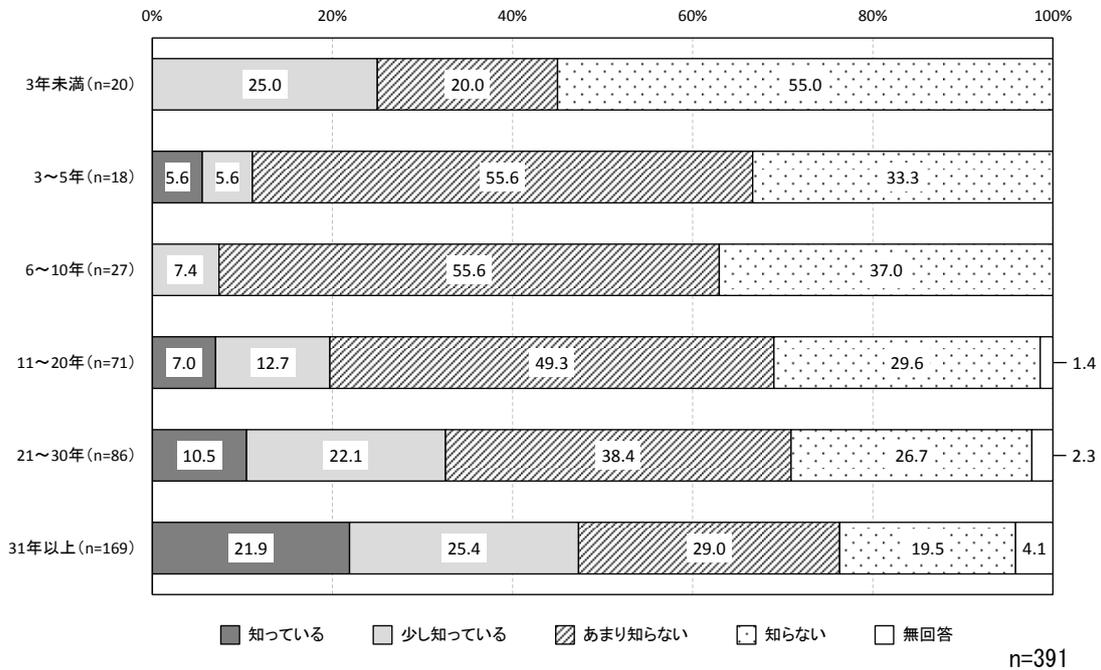
・居住年数が長くなるにつれて「これからもずっと住み続けたい」の回答が多い傾向であった。



【「市民自治」に対する意識】

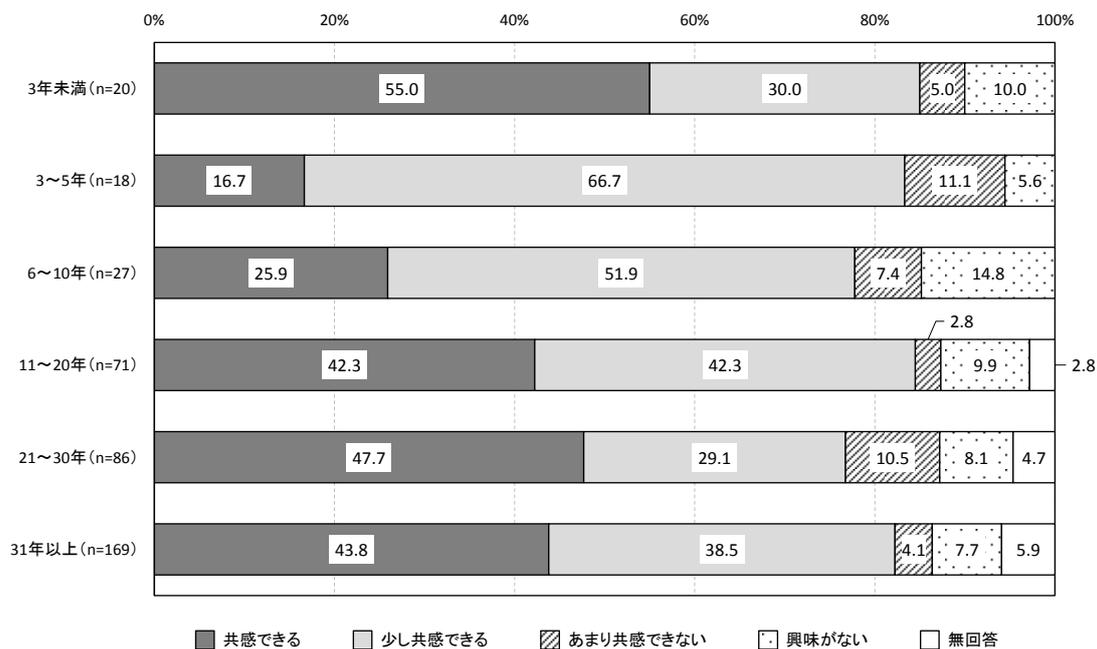
(7) 「市民自治」の取り組みについての周知状況

・居住年数が長くなるほど「知っている」、「少し知っている」の回答が多い傾向があった。



(8) 基本理念について

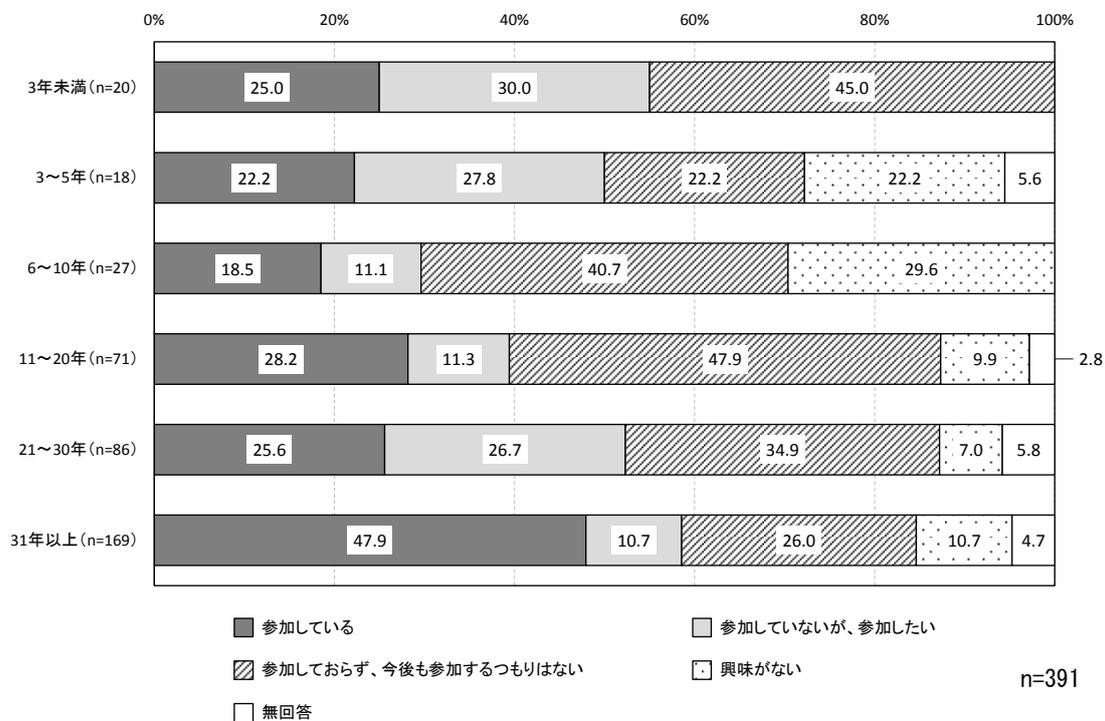
・「3年未満」で「共感できる」、「少し共感できる」の回答が合わせて85.0%であった。



n=391

(9) 自治会活動の参加について

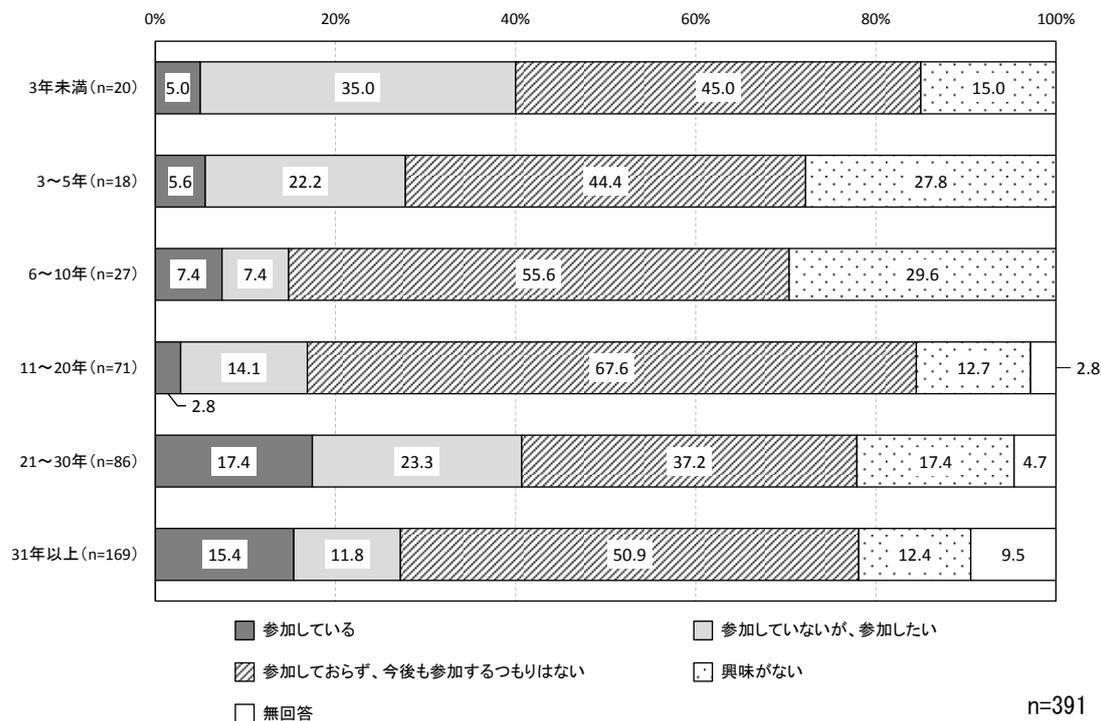
・「31年以上」で「参加している」、「参加していないが、参加したい」の回答が合わせて58.6%あり、自治会活動に参加意向であった。



n=391

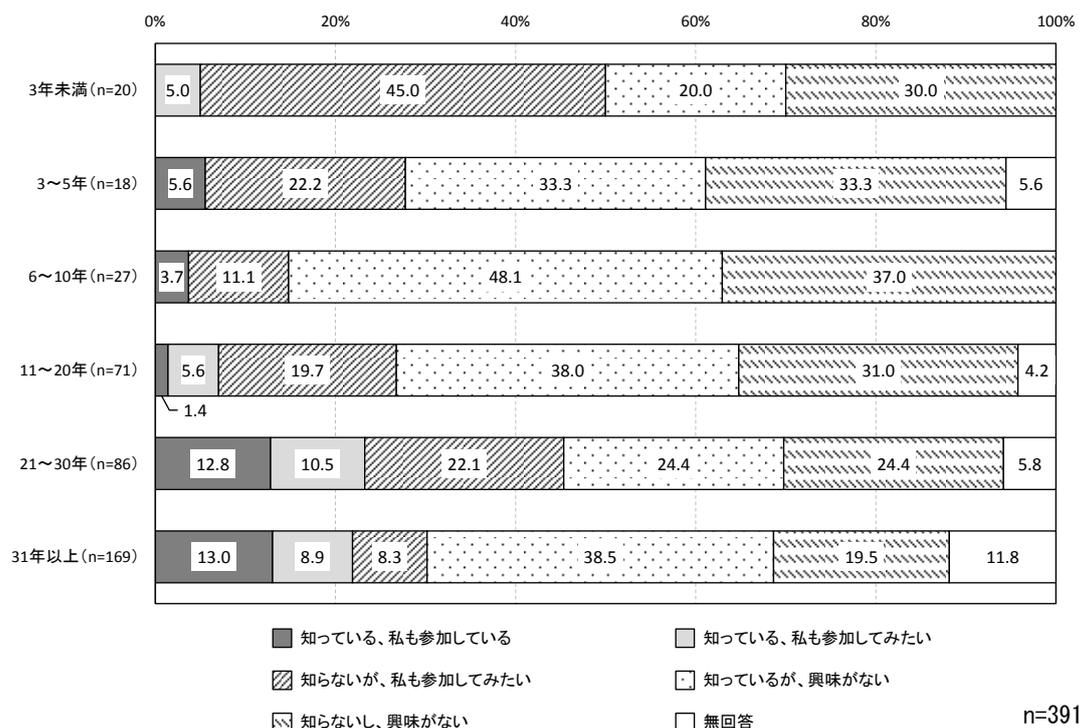
(10) 地域の組織の活動参加状況について

・「参加している」、「参加していないが、参加したい」の回答が合わせて「21～30年」で40.7%、「3年未満」で40.0%、「31年以上」で27.2%であり、地域の組織の活動に参加意向であった。



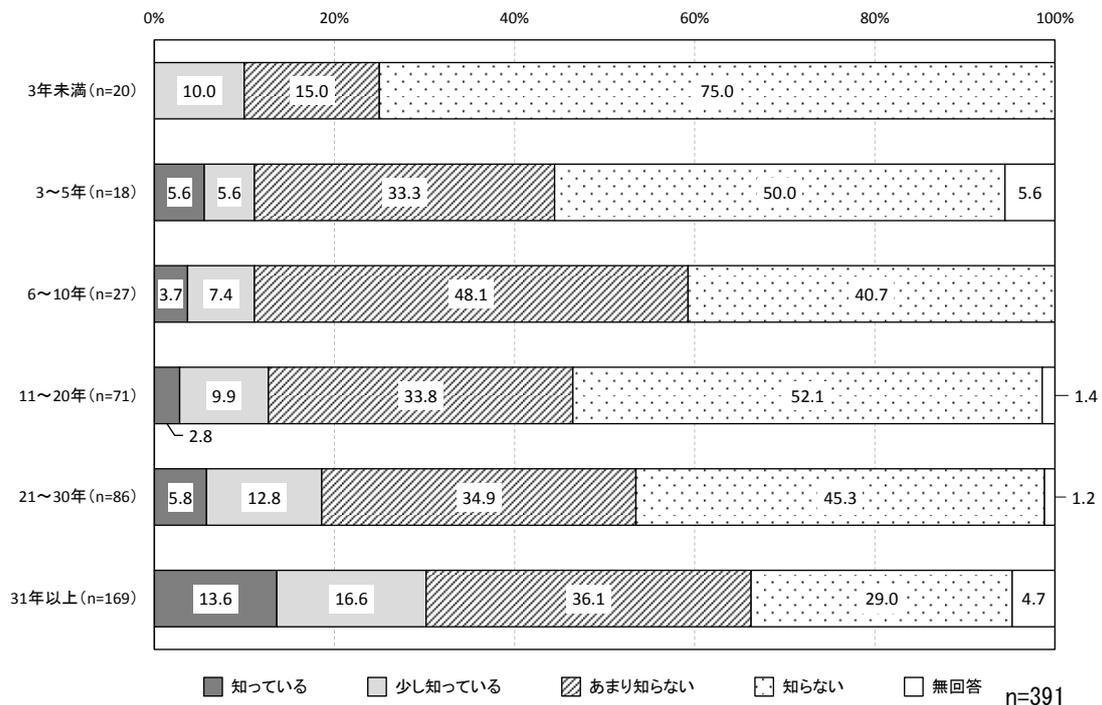
(11) まちづくりへの自主的な取り組みについて

・まちづくりへの自主的な取り組みは、「知っている、私も参加してみたい」（「知らないが、私も参加してみたい」を含む）は居住年数が「3年未満」で50.0%であった。「知っている、私も参加している」（「知っている、私も参加してみたい」、「知らないが、私も参加してみたい」を含む）は居住年数が「21年～30年」で45.4%であった。



(12) 大阪狭山市自治基本条例の認知度について

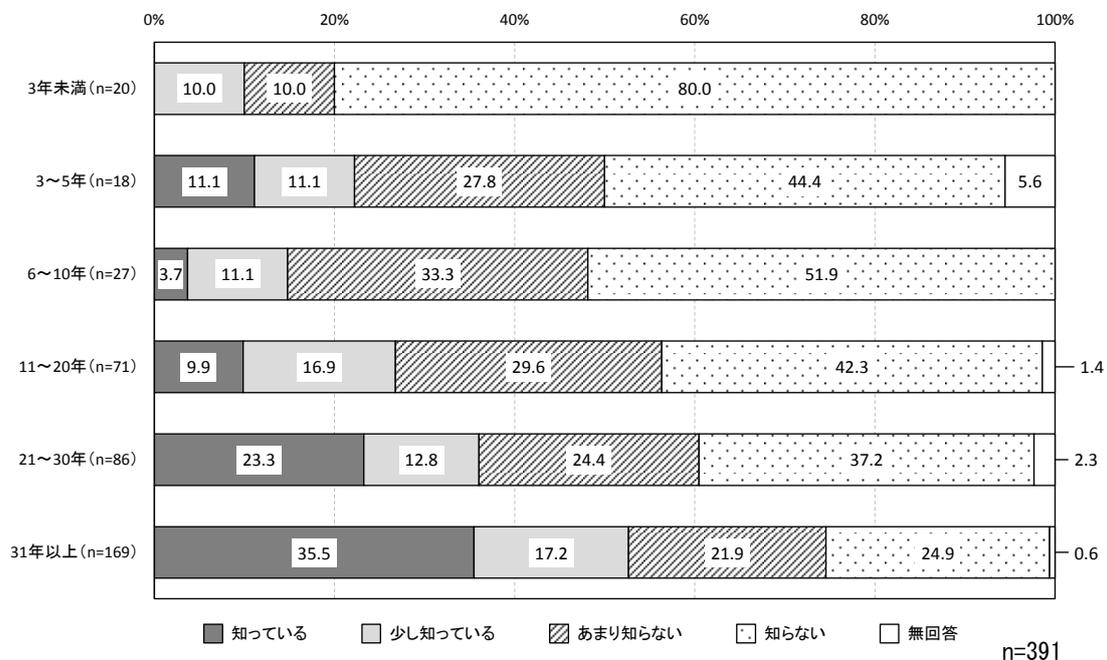
・「31年以上」で「知っている」、「少し知っている」の回答が合わせて30.2%であった。



【「まちづくり円卓会議」に対する意識】

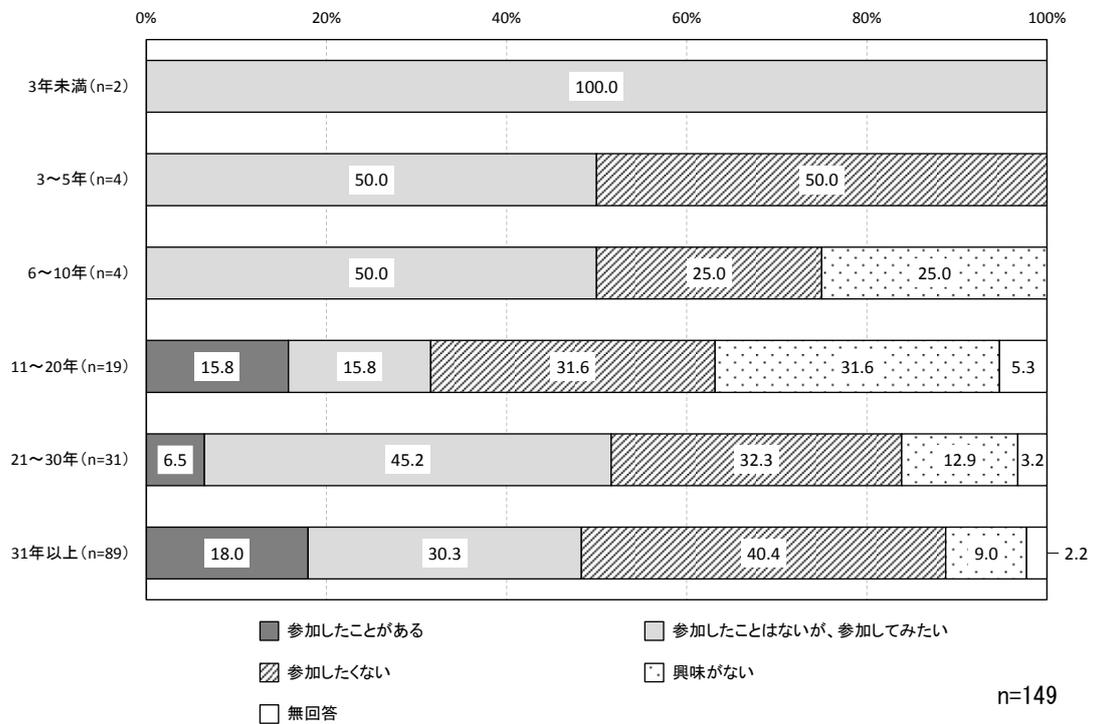
(13) まちづくり円卓会議の認知度について

・「31年以上」で「知っている」、「少し知っている」の回答が合わせて52.7%であった。



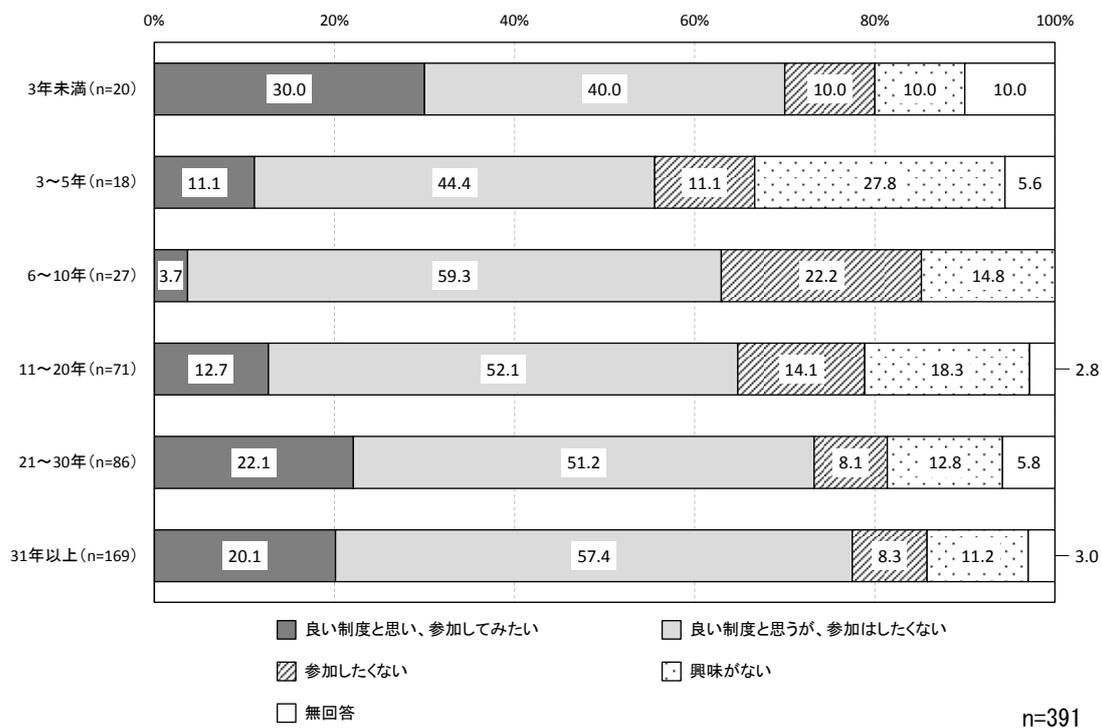
(14) まちづくり円卓会議に参加について

・「3年未満」で「参加したことはないが、参加してみたい」の回答が100.0%であり「3～5年」、「6～10年」でも50.0%の回答があった。「21～30年」で「参加したことがある」、「参加したことはないが、参加してみたい」の回答が合わせて51.7%であった。



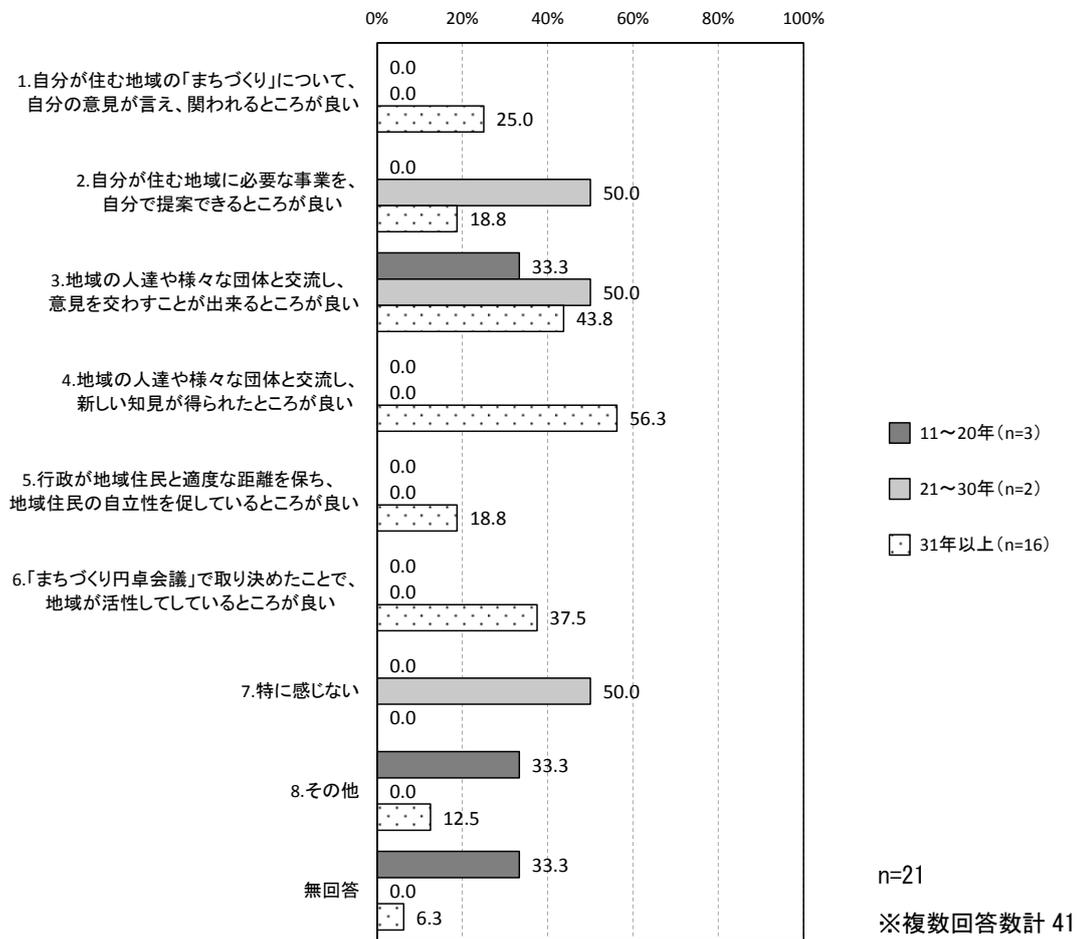
(15) 制度について

・「31年以上」で「良い制度と思い、参加してみたい」、「良い制度と思うが、参加はしたくない」の回答が合わせて77.5%であり、良い制度と思う意向であった。



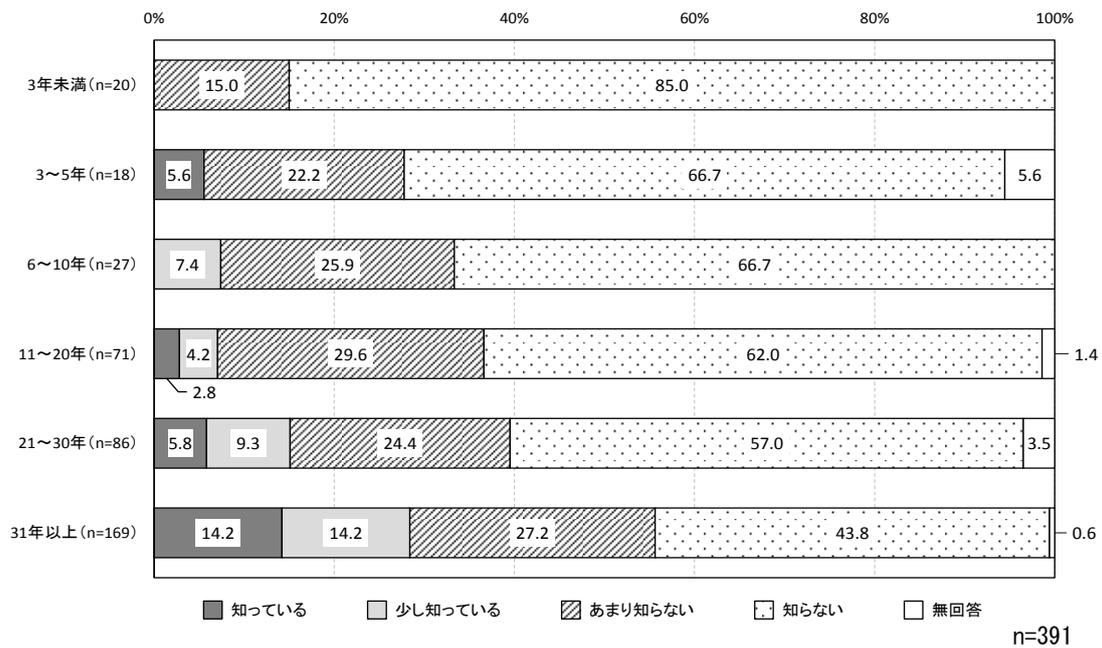
(16) まちづくり円卓会議に参加された感想（複数回答）

・「3. 地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い」の回答が、「11～20年」で33.3%、「21～30年」で50.0%、「31年以上」で43.8%であった。



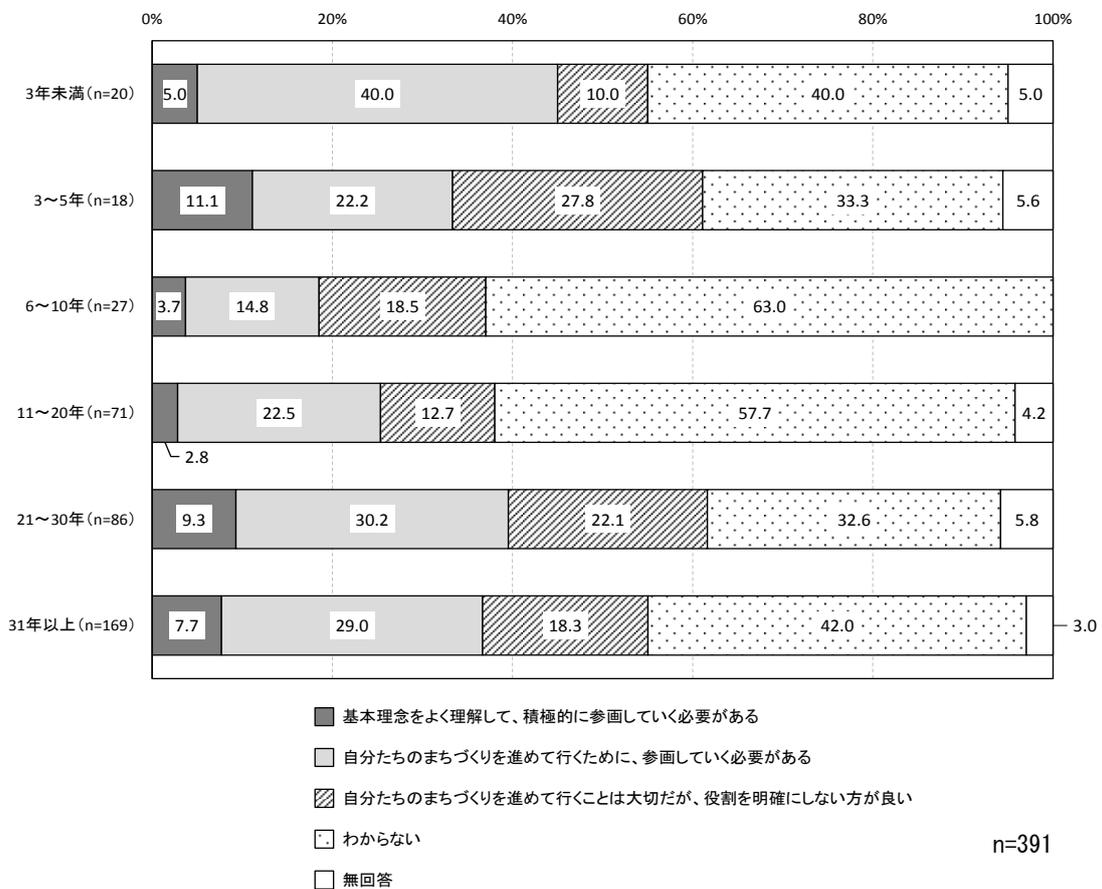
(17) 大阪狭山市まちづくり円卓会議条例の認知度について

・「31年以上」で「知っている」、「少し知っている」の回答が合わせて28.4%であった。



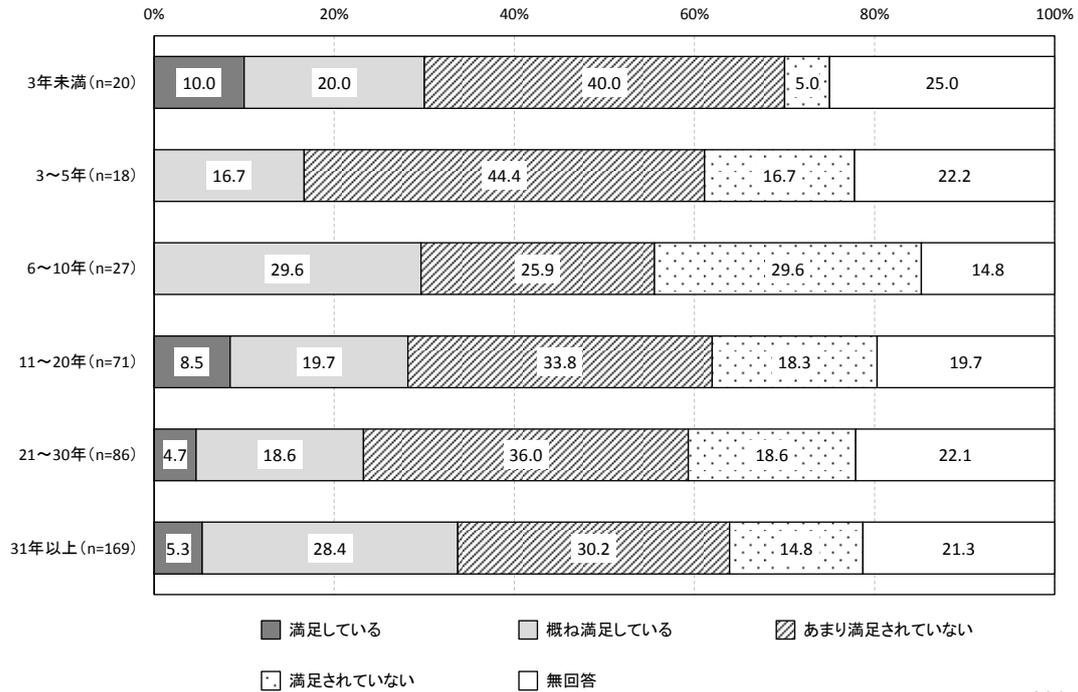
(18) 市民の役割について

・「基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある」、「自分たちのまちづくりを進めて行くために、参画していく必要がある」の回答が合わせて「3年未満」で45.0%であった。



(19) まちづくり円卓会議運用の満足度について

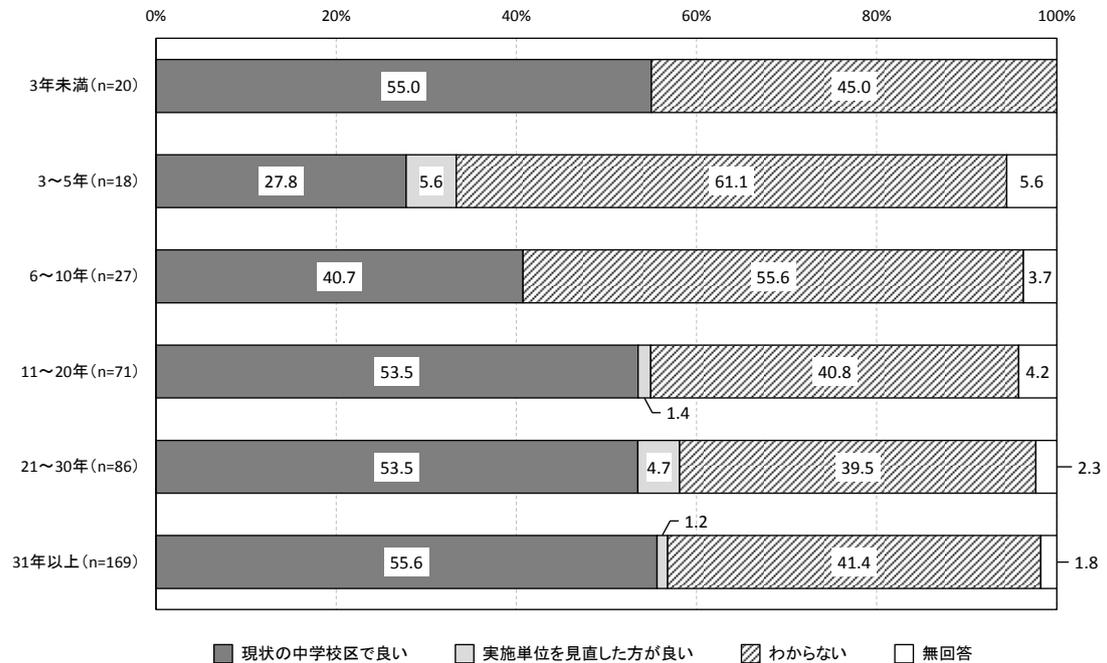
・「満足している」、「概ね満足している」の回答が「31年以上」で33.7%、「6～10年」で29.6%であった。



n=391

(20) まちづくり円卓会議の実施単位について

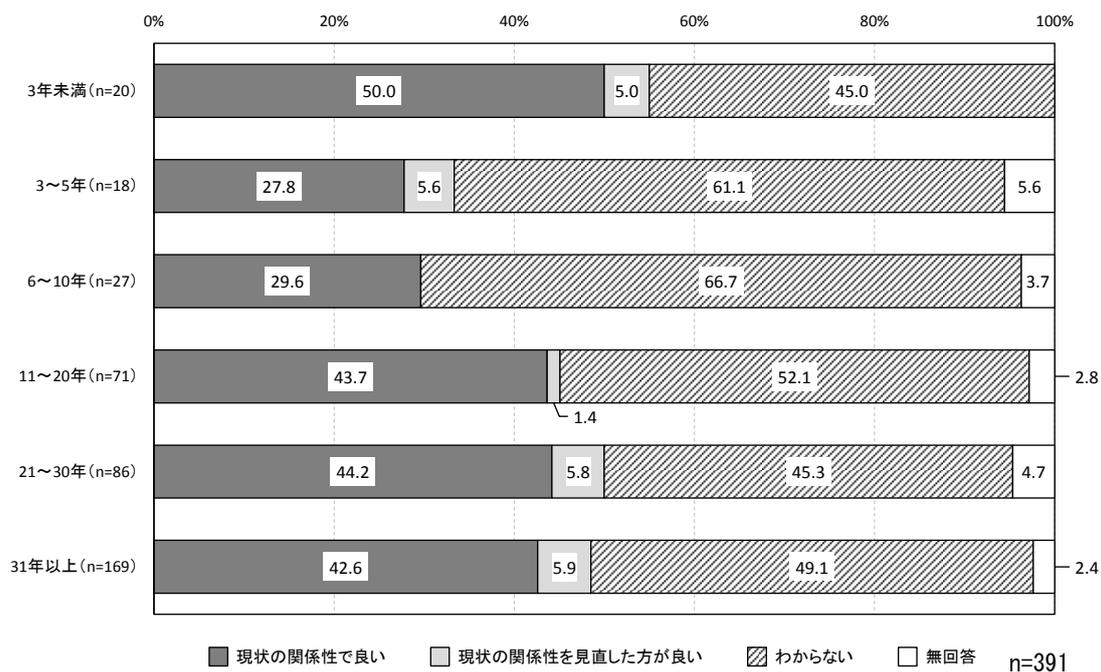
・「31年以上」で「現状の中学校区で良い」の回答が55.6%であった。



n=391

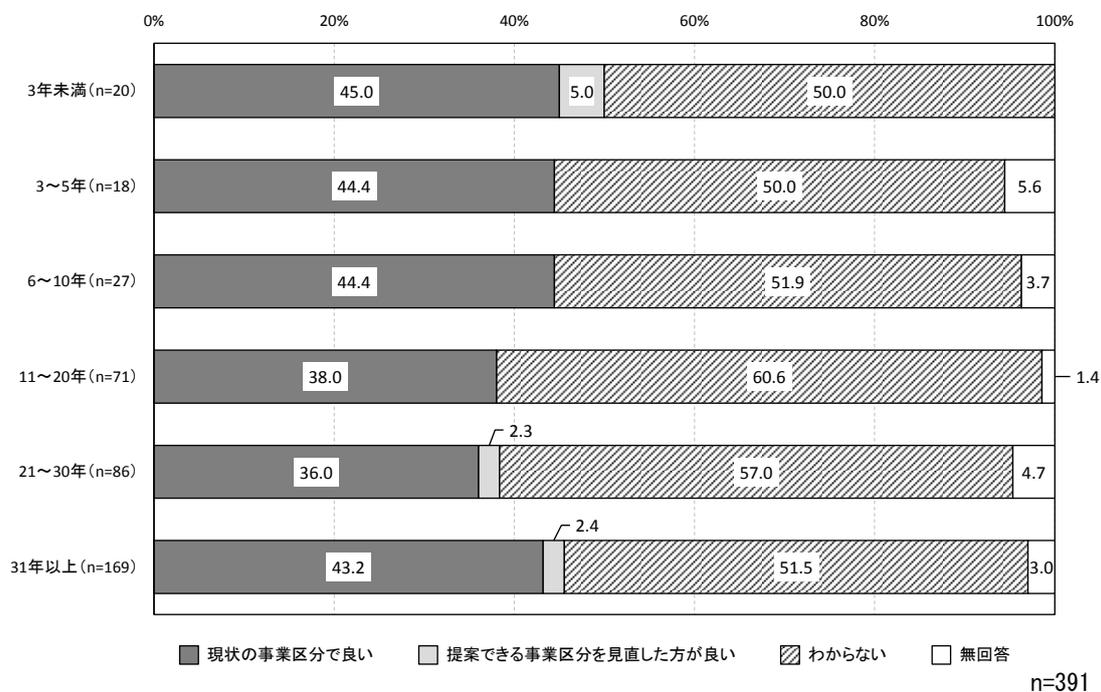
(21) 地域と行政の関係性について

・「現状の関係性で良い」の回答が「3年未満」で50.0%、続いて「21~30年」で44.2%であった。



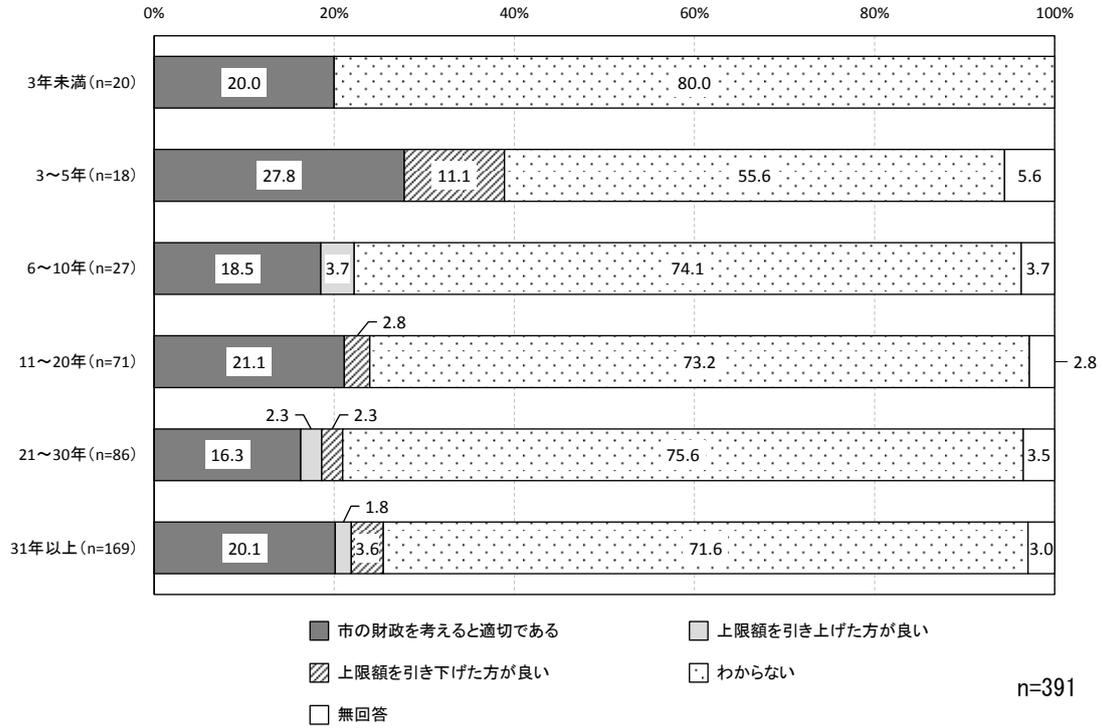
(22) 事業区分について

・「現状の事業区分で良い」の回答が「3年未満」で45.0%あり、続いて「3~5年」、「6~10年」で44.4%であった。



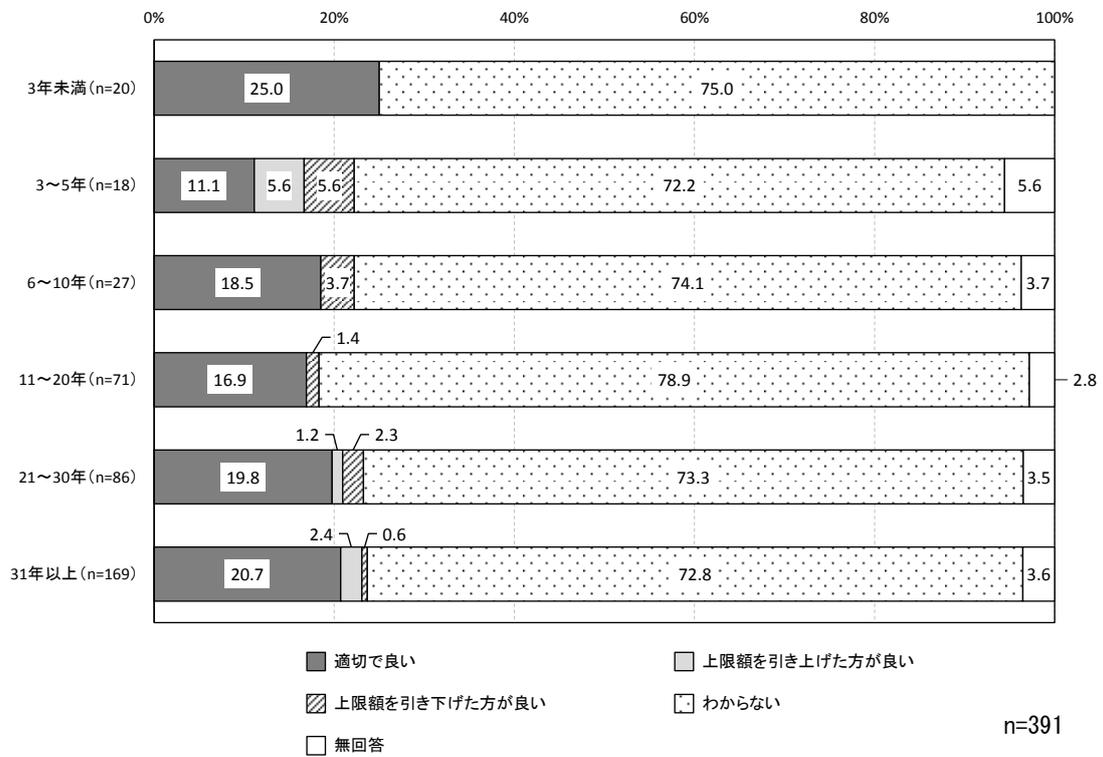
(23) 事業の予算について

・「市の財政を考えると適切である」の回答が「3～5年」で27.8%、続いて「11～20年」で21.1%であった。



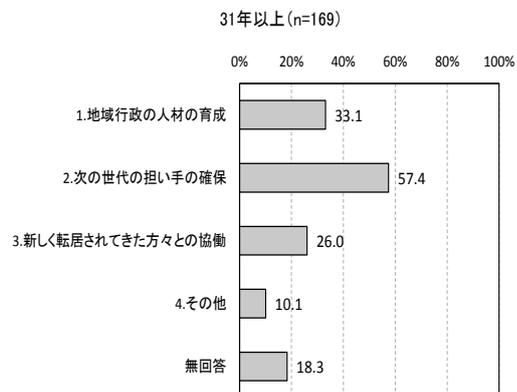
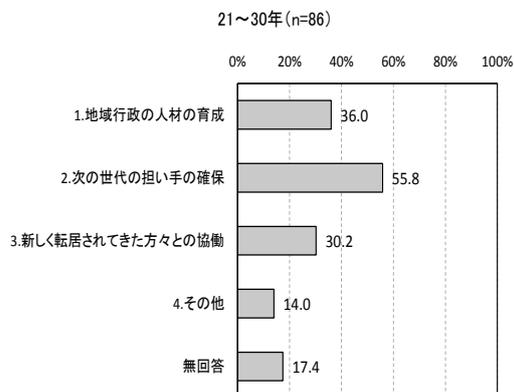
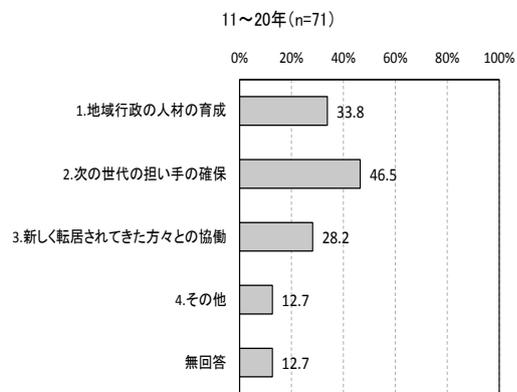
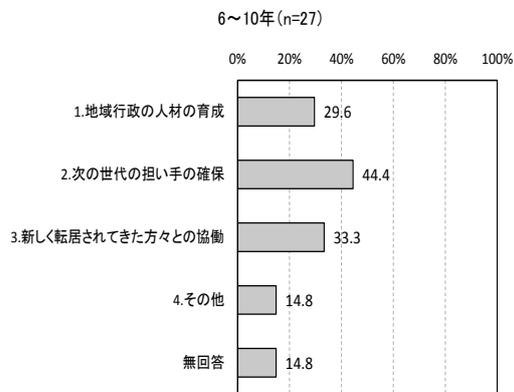
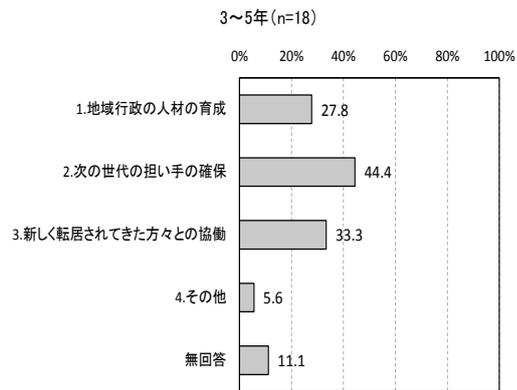
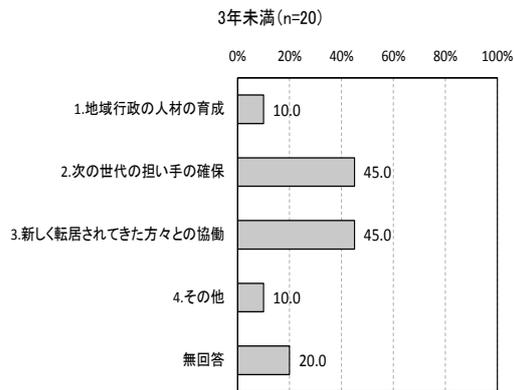
(24) 運営費について

・「適切で良い」の回答が「3年未満」で25.0%、「31年以上」で20.7%であった。



(25) 今後の課題について（複数回答）

・「次の世代の担い手の確保」の回答が「31年以上」で57.4%、続いて「21～30年」で55.8%であった。

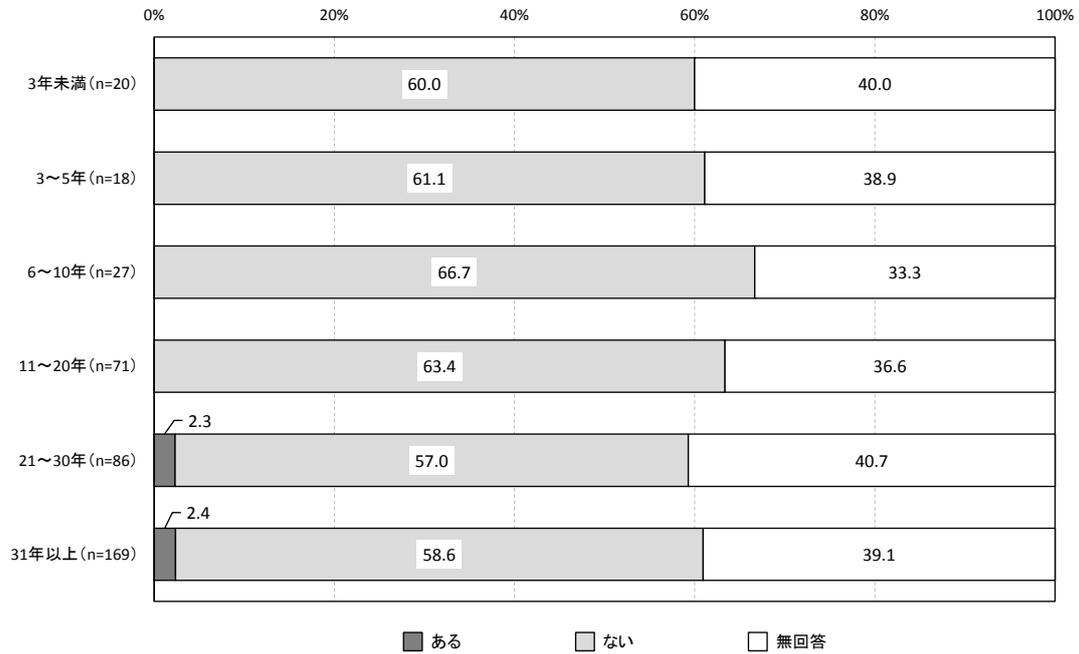


n=391

※複数回答数計 565

(26) 条文の見直すべき点について

・「ない」の回答は「6～10年」で66.7%、「11～20年」で63.4%であった。「ある」の回答は「21～30年」で2.3%、「31年以上」で2.4%であった。



n=391

5 クロス集計結果のまとめ

クロス集計の結果を以下に示す。

<性別クロス集計結果>

・アンケート調査回答者の属性等

- ②回答者の年代は、男性は「70歳以上」の37.2%、女性は「60歳代」の26.1%が最も多かった。
- ③回答者の職業は、「自営業・自由業」、「会社員・公務員」、「パート、アルバイト、嘱託」の合計は、男性が53.7%、女性が42.1%であった。
- ④「狭山中学校区」の回答は、男性が39.0%、女性が39.4%であった。
- ⑤回答者の居住年数は、「31年以上」が男性は47.0%、女性は40.7%であった。
- ⑥大阪狭山市への居住の意識は、「住み続けたい」（「当分は住み続けたい」を含む）は男性が90.8%、女性が93.4%であった。

・「市民自治」に対する意識

- ⑦「市民自治」の取り組みについて、「知っている」（「少し知っている」を含む）は男性が30.5%、女性が35.9%であった。
- ⑧基本理念は、「共感できる」（「少し共感できる」を含む）は男性が78.7%、女性が83.2%であった。
- ⑨自治会活動へは、「参加している」（「参加していないが、参加したい」を含む）は男性が48.1%、女性が53.1%であった。
- ⑩地域の組織へは、「参加している」（「参加していないが、参加したい」を含む）は男性が25.6%、女性が30.1%であった。
- ⑪まちづくりへの自主的な取り組みは、「知っている、私も参加している」（「知っている、私も参加してみたい」、「知らないが、私も参加してみたい」を含む）は男性が27.4%、女性が36.7%であった。
- ⑫大阪狭山市自治基本条例は、「知っている」（「少し知っている」を含む）は男性が20.7%、女性が21.7%であった。

・「まちづくり円卓会議」に対する意識

- ⑬「まちづくり円卓会議」は、「知っている」（「少し知っている」を含む）は男性が34.1%、女性が41.1%であった。
- ⑭「まちづくり円卓会議」を「知っている」または「少し知っている」と回答した人（149人）で、「参加したことがある」（「参加したことはないが、参加してみたい」を含む）は男性が51.7%、女性が45.2%であった。
- ⑮制度については、「良い制度と思い、参加してみたい」（「良い制度と思うが、参加はしたくない」を含む）は男性が67.0%、女性で75.2%が良い制度と思う意向であった。

- ⑩まちづくり円卓会議の参加者（21人）の感想は、男性は45.5%、女性は40.0%が「3. 地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い」、「4. 地域の人達や様々な団体と交流し、新しい知見が得られたところが良い」であった。
- ⑪「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」は、「知っている」（「少し知っている」を含む）は男性が17.0%、女性が18.1%であった。
- ⑫市民の役割は、「基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある」、「自分たちのまちづくりを進めて行くために、参画していく必要がある」の回答が合わせて、男性が35.3%、女性は33.7%であった。
- ⑬まちづくり円卓会議の運用は、「満足している」（「概ね満足している」を含む）は男性が25.0%、女性が32.3%であった。
- ⑭まちづくり円卓会議の実施単位は、「現状の中学校区で良い」は、男性が48.8%、女性が54.9%であった。
- ⑮地域と行政の関係性は、「現状の関係性で良い」は、男性が37.8%、女性が44.7%であった。
- ⑯事業区分は、「現状の事業区分で良い」は、男性が38.4%、女性が42.5%であった。
- ⑰事業の予算は、「市の財政を考えると適切である」は、男性が20.1%、女性が19.5%であった。
- ⑱運営費は、「適切で良い」は男性が22.0%、女性が17.7%であった。
- ⑲今後の課題で「次の世代の担い手の確保」は、男性が50.0%、女性が54.9%であった。
- ⑳条文の見直しは、「必要ない」は男性が67.1%、女性が54.4%であり、「必要ある」は男性が3.0%、女性が0.4%であった。

<年代別クロス集計結果>

・アンケート調査回答者の属性等

- ②「70歳以上」は男性が多いが、他の年代は女性が多かった。
- ③職業は、20歳未満は全員学生であった。20歳代から50歳代は「会社員・公務員」、「パート、アルバイト、嘱託」、「自営業・自由業」の割合が多く、「60歳代」、「70歳以上」は「主婦・主夫」が多かった。
- ④校区は「20歳未満」で「第三中学校区」が75.0%あり、「70歳以上」では「南中学校区」が41.7%であった。
- ⑤居住年数は「20歳未満」で「11～20年」が87.5%あり、「70歳以上」では「31年以上」が71.7%であった。
- ⑥大阪狭山市への居住の意識は、「20歳未満」は「当分は住み続けたい」が62.5%あり、「70歳以上」では「これからもずっと住み続けたい」が79.2%であった。

・「市民自治」に対する意識

- ⑦「市民自治」の取り組みについて、年代が高くなるにつれて「知っている」「少し知っている」が多くなる傾向であった。
- ⑧基本理念は、「共感できる」（「少し共感できる」を含む）は「50歳代」が85.7%あり、「30歳代」が84.7%であった。
- ⑨自治会活動へは、「参加している」（「参加していないが、参加したい」を含む）は「70歳以上」が62.5%、「60歳代」が57.9%であった。
- ⑩地域の組織へは、「参加している」（「参加していないが、参加したい」を含む）は「60歳代」が36.4%、「30歳代」が30.8%であった。
- ⑪まちづくりへの自主的な取り組みは、「知っている、私も参加している」（「知っている、私も参加してみたい」、「知らないが、私も参加してみたい」を含む）は「60歳代」が44.3%、「30歳代」が41.0%であった。
- ⑫大阪狭山市自治基本条例は、「知っている」（「少し知っている」を含む）は「70歳以上」が35.8%、「60歳代」が22.7%であった。

・「まちづくり円卓会議」に対する意識

- ⑬「まちづくり円卓会議」は、「知っている」（「少し知っている」を含む）は「70歳以上」が52.5%、「60歳代」が44.3%であった。
- ⑭「まちづくり円卓会議」を「知っている」または「少し知っている」と回答した人（149人）で、「参加したことがある」（「参加したことはないが、参加してみたい」を含む）は「70歳以上」が57.1%、「50歳代」が52.7%であった。
- ⑮制度については、「良い制度と思い、参加してみたい」（「良い制度と思うが、参加はしたくない」を含む）は「30歳代」が76.9%、「60歳代」が76.2%の良い制度と思う意向であった。
- ⑯まちづくり円卓会議の参加者（21人）の感想は、20歳未満～40歳代での回答はなく、「50歳代」は「2.自分が住む地域に必要な事業を自分で提案できるところが良い」、「3.地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い」で100.0%であった。
- ⑰「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」は、「知っている」（「少し知っている」を含む）は「70歳以上」が30.0%、「60歳代」22.7%であった。
- ⑱市民の役割は、「基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある」、「自分たちのまちづくりを進めて行くために、参画していく必要がある」の回答は合わせて、「30歳代」が43.6%、「40歳代」が35.8%であった。
- ⑲まちづくり円卓会議の運用は、「満足している」（「概ね満足している」を含む）は「20歳代」が43.4%、「70歳以上」が33.3%であった。
- ⑳まちづくり円卓会議の実施単位は、「現状の中学校区で良い」は「30歳代」が64.1%、「20歳代」が60.0%であった。
- ㉑地域と行政の関係性は、「現状の関係性で良い」は、「30歳代」が61.5%、「20歳代」が56.7%であった。

- ㉒事業区分は、「現状の事業区分で良い」は「30歳代」が71.8%、「20歳代」が46.7%であった。
- ㉓事業の予算は、「市の財政を考えると適切である」は「20歳代」が30.0%、「20歳未満」が25.0%であった。
- ㉔運営費は、「適切で良い」は「20歳代」が33.3%、「30歳代」が23.1%であった。
- ㉕今後の課題で「次の世代の担い手の確保」は、「60歳代」が60.2%、続いて「30歳代」が59.0%であった。いずれの世代も「次の世代の担い手の確保」を今後の課題ととらえていた。
- ㉖条文の見直しは、「必要ない」は「20歳代」が80.0%、続いて「20歳未満」が75.0%であった。「必要ある」は「60歳代」が3.4%、「70歳以上」が2.5%であった。

<校別クロス集計結果>

・アンケート調査回答者の属性等

- ①いずれの校区も男性より女性の方が多かった。
- ②各校区で最も回答が多い年代は、「狭山中学校区」は「70歳以上」が27.3%、「第三中学校区」は「60歳代」が27.2%、「南中学校区」は「70歳以上」の42.7%であった。
- ③「狭山中学校区」は「会社員・公務員」、「パート、アルバイト、嘱託」、「自営業・自由業」の合計が51.9%あり、「第三中学校区」の49.1%、「南中学校区」の39.3%と比較して多かった。
- ④狭山中学校区は居住年数10年未満が22.0%あり、第三中学校区の9.6%、南中学校区の15.4%と比較して転入の割合が多かった。
- ⑤大阪狭山市への居住の意識は、全ての校区で「これからもずっと住みたい」の回答が多かった。

・「市民自治」に対する意識

- ⑦「市民自治」の取り組みについて、「知っている」（「少し知っている」を含む）は狭山中学校区が32.4%、第三中学校区が29.0%、南中学校区が40.2%であった。
- ⑧基本理念は、「共感できる」（「少し共感できる」を含む）は「狭山中学校区」が80.6%「第三中学校区」が83.3%。「南中学校区」が81.2%であった。
- ⑨自治会活動へは、「参加している」（「参加していないが、参加したい」を含む）は「狭山中学校区」が50.0%、「第三中学校区」が49.2%、「南中学校区」が54.7%であった。
- ⑩地域の組織へは、「参加している」（「参加していないが、参加したい」を含む）は「狭山中学校区」が31.8%、「第三中学校区」が24.5%、「南中学校区」が27.3%であった。
- ⑪まちづくりへの自主的な取り組みは、「知っている、私も参加している」（「知っている、私も参加したい」、「知らないが、私も参加してみたい」を含む）は「狭山中学校区」が38.9%、「第三中学校区」が28.1%、「南中学校区」が29.9%であった。
- ⑫大阪狭山市自治基本条例は、「知っている」（「少し知っている」を含む）は「狭山中学校区」が20.1%、「第三中学校区」が20.2%、「南中学校区」が24.0%であった。

・「まちづくり円卓会議」に対する意識

- ⑬「まちづくり円卓会議」は、「知っている」（「少し知っている」を含む）は「狭山中学校区」が32.5%、「第三中学校区」が38.6%、「南中学校区」が45.3%であった。
- ⑭「まちづくり円卓会議」を「知っている」または「少し知っている」と回答した人（149人）で、まちづくり円卓会議へは、「参加したことがある」（「参加したことはないが、参加してみたい」を含む）は「狭山中学校区」が46.0%、「第三中学校区」が52.3%、「南中学校区」が45.3%であった。
- ⑮制度については、「良い制度と思い、参加してみたい」（「良い制度と思うが、参加はしたくない」を含む）は「狭山中学校区」が74.7%、「第三中学校区」が71.9%、「南中学校区」が68.4%の良い制度と思う意向であった。
- ⑯まちづくり円卓会議の参加者（21人）の感想は、「3. 地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い」は「狭山中学校区」が42.9%、「第三中学校区」が57.1%、「南中学校区」が28.6%であった。
- ⑰「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」は、「知っている」（「少し知っている」を含む）は「狭山中学校区」が15.5%、「第三中学校区」が19.3%、「南中学校区」が19.6%であった。
- ⑱市民の役割は、「基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある」、「自分たちのまちづくりを進めて行くために、参画していく必要がある」の合計は「狭山中学校区」が35.7%、「第三中学校区」が34.2%、「南中学校区」が32.5%であった。
- ⑲まちづくり円卓会議の運用は、「満足している」（「概ね満足している」を含む）は「狭山中学校区」が26.6%、「第三中学校区」が28.1%、「南中学校区」が32.4%であった。
- ⑳まちづくり円卓会議の実施単位は、「現状の中学校区で良い」は「狭山中学校区」が51.9%、「第三中学校区」が51.8%、「南中学校区」が54.7%であった。
- ㉑地域と行政の関係性は、「現状の関係性で良い」は「狭山中学校区」が39.0%、「第三中学校区」が42.1%、「南中学校区」が46.2%であった。
- ㉒事業区分は、「現状の事業区分で良い」は「狭山中学校区」が40.9%、「第三中学校区」が36.8%、「南中学校区」が45.3%であった。
- ㉓事業の予算は、「市の財政を考えると適切である」は「狭山中学校区」が18.8%、「第三中学校区」が21.1%、「南中学校区」が19.7%であった。
- ㉔運営費は、「適切で良い」の回答は、）は「狭山中学校区」が21.4%、「第三中学校区」が19.3%、「南中学校区」が17.1%であった。
- ㉕今後の課題で「次の世代の担い手の確保」は、「狭山中学校区」が54.5%、「第三中学校区」が51.8%、「南中学校区」が50.4%であった。
- ㉖「必要ない」の回答は「狭山中学校区」が64.3%、「第三中学校区」が59.6%、「南中学校区」が55.6%であり、「必要ある」の回答は「狭山中学校区」が0.6%、「第三中学校区」が3.5%、「南中学校区」が0.9%であった。

<居住年数別クロス集計結果>

・アンケート調査回答者の属性等

- ①居住年数の「6～10年」は女性より男性の方が多かったが、他の回答は女性がかった。
- ②居住年数の「3年未満」、「3～5年」の回答は「20歳代」、「30歳代」が多く、「31年以上」は「60歳代」、「70歳以上」が多かった。
- ③居住年数が30年未満は、「会社員・公務員」、「パート、アルバイト、嘱託」、「自営業・自由業」の職業の合計で、それぞれ60%前後であった。
- ④「狭山中学校区」の「3年未満」は65.0%であった。「狭山中学校区」は3年以内の転入が「第三中学校区」(15.0%)や「南中学校区」(15.0%)と比較して多い。
- ⑥居住年数が長いほど、「これからもずっと住み続けたい」が多い。

・「市民自治」に対する意識

- ⑦「市民自治」の取り組みについて、居住年数が長いほど「知っている」、「少し知っている」が多い。
- ⑧基本理念は、居住年数が「3年未満」で「共感できる」(「少し共感できる」を含む)が85.0%であった。
- ⑨自治会活動へは、居住年数が「31年以上」で「参加している」(「参加していないが、参加したい」を含む)が58.6%であった。
- ⑩地域の組織へは、「参加している」(「参加していないが、参加したい」を含む)は居住年数が「21～30年」で40.7%、「31年以上」で27.2%であった。
- ⑪まちづくりへの自主的な取り組みは、「知っている、私も参加してみたい」(「知らないが、私も参加してみたい」を含む)は居住年数が「3年未満」で50.0%であった。「知っている、私も参加している」(「知っている、私も参加してみたい」、「知らないが、私も参加してみたい」を含む)は居住年数が「21年～30年」で45.4%であった。
- ⑫大阪狭山市自治基本条例は、「知っている」(「少し知っている」を含む)は居住年数が「31年以上」で30.2%であった。

・「まちづくり円卓会議」に対する意識

- ⑬「まちづくり円卓会議」は、「知っている」(「少し知っている」を含む)は居住年数「31年以上」が52.7%であった。
- ⑭「まちづくり円卓会議」を「知っている」または「少し知っている」と回答した人(149人)で、「参加したことがある」(「参加したことはないが、参加してみたい」を含む)は居住年数「3年未満」が100.0%あり、「3～5年」、「6～10年」でも50.0%であった。
- ⑮制度については、「良い制度と思い、参加してみたい」(「良い制度と思うが、参加はしたくない」を含む)は居住年数「31年以上」が77.5%の良い制度と思う意向であった。
- ⑯まちづくり円卓会議の参加者(21人)の感想は、「地域の人達や様々な団体と交流し、意見を交わすことが出来るところが良い」は居住年数「11～20年」が33.3%、「21～30年」が50.0%、「31年以上」が43.8%であった。

- ⑰「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」は、「知っている」（「少し知っている」を含む）は居住年数「31年以上」が28.4%であった。
- ⑱市民の役割は、「基本理念をよく理解して、積極的に参画していく必要がある」、「自分たちのまちづくりを進めて行くために、参画していく必要がある」の合計は居住年数「3年未満」が45.0%であった。
- ⑲まちづくり円卓会議の運用は、「満足している」（「概ね満足している」を含む）は居住年数「31年以上」が33.7%であった。
- ⑳まちづくり円卓会議の実施単位は、「現状の中学校区で良い」は居住年数「31年以上」が55.6%であった。
- ㉑地域と行政の関係性は、「現状の関係性で良い」のは居住年数「3年未満」が50.0%であった。
- ㉒事業区分は、「現状の事業区分で良い」は居住年数「3年未満」が45.0%であった。
- ㉓事業の予算は、「市の財政を考えると適切である」は居住年数「3～5年」が27.8%であった。
- ㉔運営費は、「適切で良い」は居住年数「3年未満」が25.0%、「31年以上」が20.7%であった。
- ㉕今後の課題で「次の世代の担い手の確保」は、居住年数「31年以上」が57.4%、続いて「21～30年」が55.8%であった。
- ㉖条文の見直しは、「必要ない」は居住年数「6～10年」が66.7%、「11～20年」が63.4%であった。「必要ある」は居住年数「21～30年」が2.3%、「31年以上」が2.4%であった。

IV. アンケート調査結果のまとめ

本アンケート調査は、現行の「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」が、時代や環境の変化により条例改正が必要か否か推考するための、基礎資料を得ることを目的として実施した。

「市民自治」に対する意識を問う項目では、基本理念に「共感できる」が81.0%、まちづくりへの自主的な取り組みへの参加の意向が32.6%あった。「まちづくり円卓会議」に対する意識を問う項目では、制度を「良い制度」と思うが71.7%、まちづくり円卓会議への参加の意向が48.0%あった。まちづくり円卓会議の運用については「満足している」、「概ね満足している」の合計が29.3%であった。

「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」（以下、本条例と示す。）の条文の見直すべき点を問う質問では、回答者の59.6%が見直すべき点は「ない」と回答しており、市民の多くは、本条例を見直す必要を感じていないことが伺える。ただし、本条例の認知度を問う質問では、「知らない」、「あまり知らない」が80.3%であり、本条例の認知度は低く、条例の内容が浸透していない状況である。

また、条例に対する意見（「(27)「まちづくり円卓会議」及び「大阪狭山市まちづくり円卓会議条例」に関する意見等について【自由回答結果】を参照）では、「情報が入ってきにくい」、「仕事や家事で参加する時間がない」、「市民が広く参加できる雰囲気づくり」という意見もあった。

今後は、より多くの市民に本条例が浸透し、理解度を深めていくことが重要である。クロス集計結果からも、居住年数が少ない人の方が条例の認知度が低いこともわかった。特に「狭山中学校区」は居住年数が「3年未満」の回答者が65.0%あり、他の校区より転入してきた人が多いことがわかる。このため、転入してきた方に向けて、大阪狭山市の取り組みを紹介することが、有効と考えられる。

自由回答には、「参加する時間がない」、「市民が広く参加できる雰囲気づくり」等の意見の記述も多いため、時間的・空間的制約に縛られず、誰もが気軽に参加しやすくするための工夫が必要である。「活動内容がわからない」、「事業費の支出内容がわからない」等については、すでに市の広報誌やまちづくり円卓会議ニュース、ホームページで情報公開を行っているが、更なる情報の公開に努めるべきである。

なお、今回、アンケート調査票配布時に、「まちづくり円卓会議」のリーフレットと本条例の条文を掲載した。回答の中には、「今回のアンケートで知る機会となった」という意見が複数寄せられており、本条例を市民へ周知するという目的について、一定程度、果たすことができたと考えられる。

●アンケートの結果で見える問題点を以下に示す

◎まちづくり円卓会議の条例や取り組みについて、「知らない」、「わからない」の意見があった。



○市民に条例や取り組みを浸透させ、理解度を深めていくため、周知する必要がある。

◎参加について、「時間がとれない」、「市民が広く参加できる雰囲気づくり」の意見があった。



○誰もが気軽に参加しやすくする工夫をする必要がある。

◎情報の公開について、「活動内容がわからない」、「事業費の支出内容がわからない」の意見があった。



○すでに行われている情報公開について、もっと周知する必要がある。

(市の広報誌やまちづくり円卓会議ニュース、ホームページで情報公開は行っている。)

大阪狭山市まちづくり円卓会議条例見直し検討のための
市民アンケート調査報告書

平成30年3月

編集・発行 大阪狭山市市民生活部市民協働推進グループ
〒589-8501 大阪府大阪狭山市狭山一丁目2384番地の1
TEL:072-366-0011 (代表) FAX072-366-0051
URL:<http://www.city.osakasayama.osaka.jp/>